
Groupmax World Wide Web Desktop
Version 6

システム管理者ガイド

解説・手引・操作書

3000-3-478-30

HITACHI

対象製品

P-1B46-5141 Groupmax World Wide Web Desktop Version 6 06-51 (適用 OS:HP-UX11.0)
P-1B46-5241 Groupmax World Wide Web Desktop Version 6 06-51 (適用 OS:HP-UX11.0)
P-1B46-5341 Groupmax World Wide Web Desktop Version 6 06-51 (適用 OS:HP-UX11.0)
P-1B46-5441 Groupmax World Wide Web Desktop Version 6 06-51 (適用 OS:HP-UX11.0)
P-1B46-5541 Groupmax World Wide Web Desktop Version 6 06-51 (適用 OS:HP-UX11.0)
P-1B46-5541 Groupmax World Wide Web Desktop for Scheduler Version 6 06-51 (適用 OS:HP-UX11.0)
P-1B46-5641 Groupmax World Wide Web Desktop Version 6 06-51 (適用 OS:HP-UX11.0)
P-1B46-7Z41 Groupmax World Wide Web Desktop Version 6 06-51 (適用 OS:HP-UX11.0)
P-1B46-7X31 Groupmax Workflow - End-user Tools Version 5 for WWW 05-11 (適用 OS:HP-UX11.0)

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

商標類

GIF は、米国 CompuServe Inc. が開発したフォーマットの名称です。

HP-UX は、米国 Hewlett-Packard Company のオペレーティングシステムの名称です。

JavaScript は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

Macintosh は、米国 Apple Computer, Inc. の商品名称です。

Microsoft は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Microsoft Excel は、米国 Microsoft Corp. の商品名称です。

Microsoft Internet Explorer は、米国 Microsoft Corp. の商品名称です。

Microsoft Internet Information Server は、米国 Microsoft Corp. の商品名称です。

Microsoft Word は、米国 Microsoft Corp. の商品名称です。

Netscape は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の登録商標です。

Netscape(R) Communicator は、Netscape Communications Corporation の商標です (一部の国では、登録商標となっています)。

Netscape(R) Enterprise Server は、Netscape Communications Corporation の商標です (一部の国では、登録商標となっています)。

SUN は、米国及びその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標又は登録商標です。

UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Windows NT は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

発行

平成 13 年 3 月 (第 1 版) 3000-3-478 (廃版)

平成 13 年 11 月 (第 2 版) 3000-3-478-10 (廃版)

平成 14 年 9 月 (第 3 版) 3000-3-478-20 (廃版)

平成 15 年 3 月 (第 4 版)3000-3-478-30

著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2001, 2003, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容 (3000-3-478-30) Groupmax World Wide Web Desktop Version 6 06-51 , 及び
Groupmax World Wide Web Desktop for Scheduler Version 6 06-51

追加・変更機能	変更箇所
利用できる WWW ブラウザに NETSCAPE COMMUNICATOR 4.78(日本語版)を追加した。	1.2.1 の表 1-1
利用できる WWW サーバのうち, iPlanet Web Server Enterprise Edition を Sun ONE Web Server Enterprise Edition に変更した。	1.2.2
共通サービスで, 特定機能抑止の指定を追加した。	2.3 の表 2-1, 2.4.38
メールサービスで, 新着監視画面の再表示を抑止する指定を追加した。	2.3 の表 2-1, 2.4.39
掲示板サービスで, ツリーアイテムのクリックで下位階層を開くようにする指定を追加した。	2.3 の表 2-1, 2.4.40
メール, 掲示板サービスで, Groupmax Address Server のメールタイプの指定 (組織メールの指定) を追加した。	2.3 の表 2-1, 2.6.1(6)
掲示板サービスで, [掲示板] カテゴリを表示しない指定を追加した。	2.3 の表 2-1, 2.6.2(10)
掲示板サービスで, [デスクトップ] カテゴリの [掲示板] アイテムを表示しない指定を追加した。	2.3 の表 2-1, 2.6.2(11)
掲示板サービスで, 初期表示する掲示板の指定を追加した。	2.3 の表 2-1, 2.6.2(12)
メールサービスで, システム宛先グループの個人リストの表示順の指定を追加した。	2.3 の表 2-1, 2.6.9(8)
メールサービスで, システム宛先グループの組織階層及び組織宛先の表示順の指定を追加した。	2.3 の表 2-1, 2.6.9(10)
メールサービスで, 組織名アンカーによって下位組織を展開させる指定を追加した。	2.3 の表 2-1, 2.6.9(16)
メールサービスで, 宛先を反映した後に電子アドレス帳画面を閉じる指定を追加した。	2.3 の表 2-1, 2.6.9(17)
IP アドレスチェックの指定で, モバイル PC などを使用する場合の注意事項を追加した。	2.4.4
ウィンドウのタイトルバーでのログインユーザ情報表示の指定で, 指定できる変数の説明を認証モードごとに再編成した。	2.4.23 の表 2-2
カテゴリの終了をクリックしないでブラウザを終了したときのログアウト実行方法の指定に, 注意事項を追加した。	2.4.30
添付ファイルを開くときのセキュリティレベルの指定で, middle を指定したときの注意事項を追加した。	2.4.37 の表 2-3, 表 2-4
文書管理サービスで, リストビューに表示する属性の表示名称に「編集ユーザー」を追加した。	2.5.15
受信メール一覧の未読 / 既読のデフォルトの変更の指定で, KEEP を指定したときの説明を追加した。	2.6.2(5)
メール, 掲示板サービスで, 本文のウィンドウ幅での折り返し表示の指定をしたときの, 設定ごとの注意事項を追加した。	2.6.3(1)

追加・変更機能	変更箇所
宛先の組織階層及び組織宛先の表示順の指定で、「ID」又は「NOSORT」を指定した場合のシステム宛先グループの表示順の説明を追加した。	2.6.9(9)
Groupmax WWW の環境を構築 / 利用していただく上でのベターユースに次の項目を追加した。 <ul style="list-style-type: none"> 添付ファイルをダウンロードするとき空白 (about:blank) のウィンドウを表示しないようにする方法 組織メールを使用するときの設定方法 	3.3.1(6) , 3.3.2(3)

なお、単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

変更内容 (3000-3-478-20) Groupmax World Wide Web Desktop Version 6 06-50 , 及び Groupmax World Wide Web Desktop for Scheduler Version 6 06-50

追加・変更機能
利用できる WWW ブラウザに NETSCAPE COMMUNICATOR 4.75(日本語版) 及び Microsoft Internet Explorer 6.0 を追加した。
利用できる WWW ブラウザのうち、Microsoft Internet Explorer 4.01 ServerPack1 (日本語版) , 及び ServerPack2 (日本語版) に注意事項を追加した。
適用 OS に Macintosh OS9 を追加した。
Groupmax WWW を利用できる WWW サーバに iPlanet Web Server Enterprise Edition SERVER4.1 を追加した。
次に示す定義項目を削除した。 <ul style="list-style-type: none"> 宛先一覧の宛先を区別するための区切り文字の指定 (gml_userlist_separate) 簡易表示の表示方式の指定 (gml_SimDispFormat)
共通サービスで、InternetExplorer 外でダウンロードファイルを開く拡張子の指定を追加した。
共通サービスで、別ウィンドウを開く拡張子の指定を追加した。
共通サービスで、フォントの拡大の指定を追加した。
共通サービスで、タイムアウト抑止機能の指定を追加した。
共通サービスで、先行ログインセッションの強制終了の指定を追加した。
共通サービスで、メイン画面のツリービュー及びリストビューのサイズ指定を追加した。
共通サービスで、添付ファイルを開くときのセキュリティレベルの指定を追加した。
メール、掲示板サービスで、Groupmax Address Server のユーザ情報の変更の指定を追加した。
メールサービスで、組織一覧表示時の下位組織チェックの指定を追加した。
ログアウトし忘れ監視時間の変更の注意事項に、ログアウトし忘れ監視時間が経過しても、自動的にログアウトされないようにするタイムアウト抑止機能を使用する方法があることを追加した。
MIME タイプの指定の (例 1) と (例 2) を (例) として統合した。また、注意事項を追加した。

追加・変更機能

メール，掲示板サービスを，次の詳細項目ごとに再編成した。

- サーバに関する設定
- メール一覧，掲示板一覧に関する設定
- メール，記事の本文に関する設定
- メール，記事の添付ファイルに関する設定
- メールの送信に関する設定
- メール及び掲示板の簡易表示に関する設定
- メール及び記事の内容表示画面に関する設定
- メールの下書き，格納に関する設定
- メール宛先指定に関する設定
- メール宛先確認に関する設定
- メール宛先検索に関する設定
- ローカル宛先に関する設定
- 外部宛先に関する設定
- その他のメール，掲示板の設定

アイコンファイルのディレクトリの設定に，拡大版のアイコンファイルがコピーされることを追加した。

Groupmax WWW の環境を構築 / 利用していただく上でのベターユースを追加した。

変更内容 (3000-3-478-10) Groupmax World Wide Web Desktop Version 6 06-02 , 及び
Groupmax World Wide Web Desktop for Scheduler Version 6 06-02

追加・変更機能

I/O 処理監視時間の指定を追加した。

環境情報標準値の指定に，次の項目を追加した。

- ログイン時のリストビューへの INBOX 表示指定
- 起動時のカテゴリ一覧の表示指定

カテゴリの終了をクリックしないでブラウザを終了したときのログアウト実行方法の指定を追加した。

簡易表示の表示方式の指定を追加した。

簡易表示の折り返し文字数の指定を追加した。

メールの下書き保存容量の指定を追加した。

メールの下書き保存先ディレクトリの指定を追加した。

コンテンツファイル保存形式のデフォルトの指定を追加した。

コンテンツを表示するときの作業ディレクトリの指定を追加した。

「本日以降の予定欄」の表示日数モードの指定を追加した。

「本日以降の予定欄」の表示日数の指定を追加した。

16 ビット版ローカル宛先ファイルの指定で，指定値に「NO」を追加した。

外部宛先キャッシュサイズの指定で，仮定値を「64」に変更した。

キャッシュ無効化の設定を追加した。

はじめに

このマニュアルは、次に示すプログラムプロダクトの機能と使い方について説明したものです。

- ・ Groupmax World Wide Web Desktop Version 6
- ・ Groupmax World Wide Web Desktop for Scheduler Version 6
- ・ Groupmax Workflow - End-user Tools Version 5 for WWW

以降このマニュアルでは、Groupmax World Wide Web Desktop Version 6、Groupmax World Wide Web Desktop for Scheduler Version 6、及び Groupmax Workflow - End-user Tools Version 5 for WWW を総称して Groupmax WWW と呼びます。

また、このマニュアルでは、Groupmax Version 6i を Groupmax と呼びます。

対象読者

Groupmax WWW の環境を管理及び運用するシステム管理者を対象としています。

マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す四つの章と付録から構成されています。

第 1 章 概要

Groupmax WWW の概要、及び Groupmax WWW とほかのプログラムとの関係について説明しています。

第 2 章 Groupmax WWW の環境設定

Groupmax WWW のインストール方法、及び動作環境の設定方法について説明しています。

第 3 章 システムの運用

Groupmax WWW の運用方法について説明しています。

第 4 章 障害対策

Groupmax WWW に障害が起きたときの対処方法について説明しています。

付録 A ローカル宛先ファイルの削除コマンド

ローカル宛先ファイルを削除するためのコマンドについて説明しています。

付録 B メッセージ

Groupmax WWW が出力するメッセージについて説明しています。

付録 C 接続ドメイン情報

接続ドメイン情報について説明しています。

付録 D 用語解説

Groupmax WWW で使用される用語について説明しています。

関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

はじめに

- 「Groupmax World Wide Web Desktop Version 6 ユーザーズガイド」(3020-3-B44)

WWW ブラウザから Groupmax サーバを使用する場合に参照してください。

- 「Groupmax World Wide Web Desktop Version 6 カスタマイズの手引(文書管理機能編)」
(3020-3-B69)

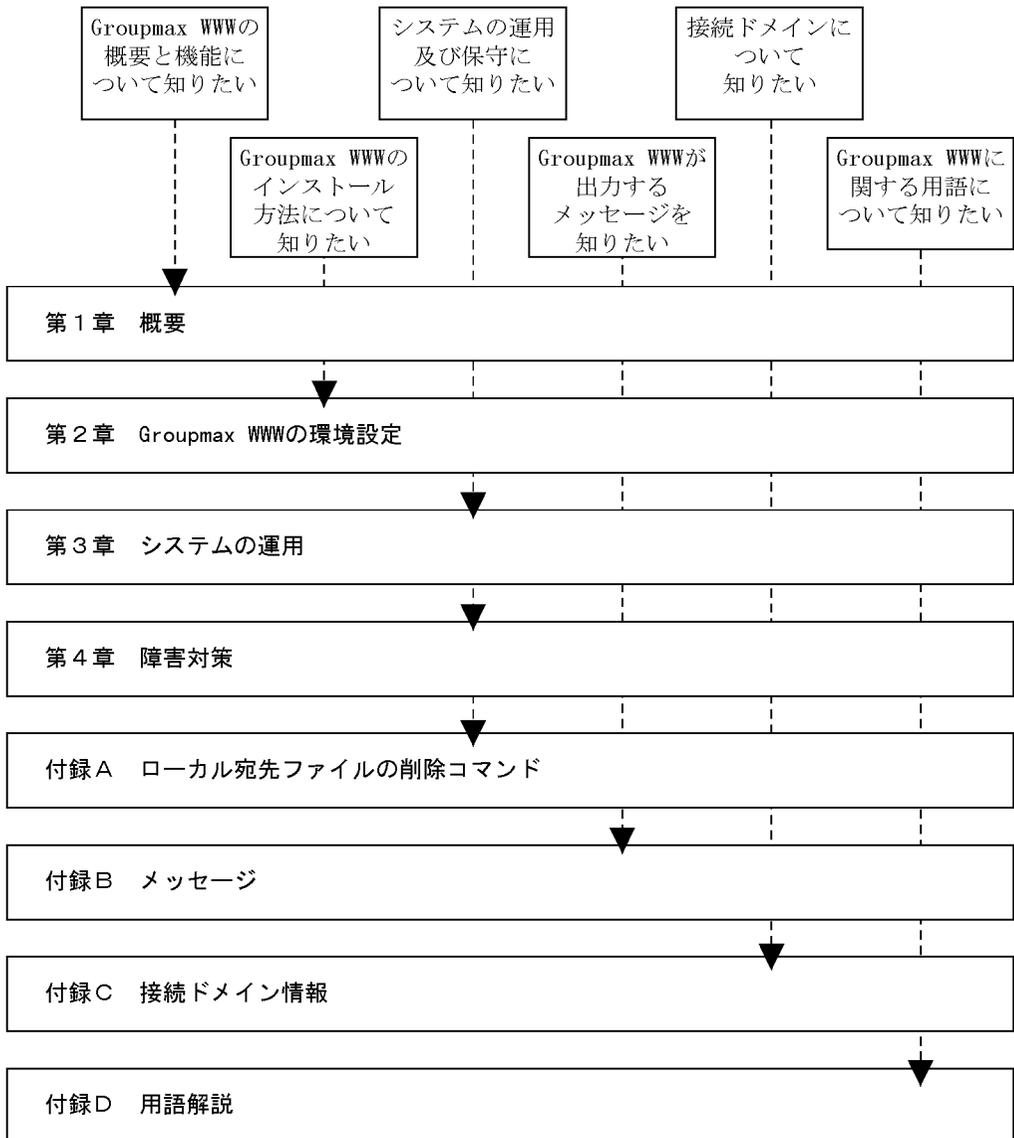
Groupmax WWW で Groupmax の文書管理を利用する画面をカスタマイズする場合に参照してください。

- 「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」(3000-3-471)

Groupmax Address Server の機能及び使用方法を知りたい場合に参照してください。

読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて章を選択して読むことができます。利用目的別に、次の流れに従って の部分をお読みいただくことをお勧めします。



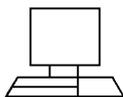
(凡例)

 : 必ず読む項目

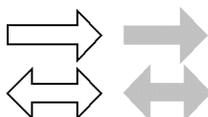
図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を、次のように定義します。

● パーソナル
コンピュータ、
ワークステーション



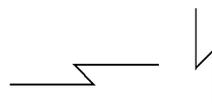
● データの流れ



● プログラム



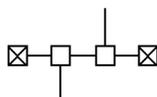
● 通信回線



● ネットワーク



● バス型の LAN



● 画面の表示



このマニュアルでの表記

- Groupmax Address Server Version 6 を Groupmax Address Server と表記しています。
- Groupmax Directory Server Version 3 を Groupmax Directory Server と表記しています。
- Groupmax Document Manager Server Version 6 を Groupmax Document Manager Server と表記しています。
- Groupmax Facilities Manager Version 6 を Groupmax Facilities Manager と表記しています。
- Groupmax Mail Server Version 6 を Groupmax Mail Server と表記しています。
- Groupmax Scheduler Server Version 6 を Groupmax Scheduler Server と表記しています。
- Groupmax Workflow Server Version 6 を Groupmax Workflow Server と表記しています。
- Groupmax Workflow - End-user Tools Version 5 for WWW を Groupmax Workflow - End-user Tools for WWW , 又は業務モニタと表記しています。
- Groupmax World Wide Web Desktop Version 6 , Groupmax World Wide Web Desktop for Scheduler Version 6 , 及び Groupmax Workflow - End-user Tools Version 5 for WWW を総称して Groupmax WWW と表記しています。
- Groupmax World Wide Web 基盤プログラムを Groupmax WWW 基盤プログラムと表記しています。
- Hitachi Directory Runtime Version 2 を Hitachi Directory Runtime と表記しています。
- Microsoft(R) Excel を Excel と表記しています。
- Microsoft(R) Windows(R) 95 Operating System を Windows 95 と表記しています。
- Microsoft(R) Windows(R) 98 Operating System を Windows 98 と表記しています。
- Microsoft(R) Windows(R) Millennium Edition Operating System を Windows Me と表記しています。
- Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network Operating System Version 4.0 又は Microsoft(R) Windows NT(R) Server Workstation Operating System Version 4.0 を Windows NT 4.0 と表記しています。
- Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional Operating System , Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server Operating System , 又は Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server

Operating System を Windows 2000 と表記しています。

- Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition Operating System , 又は Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System を Windows XP と表記しています。
- Microsoft(R) Word を Word と表記しています。

常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは、常用漢字を使用することを基本としていますが、次に示す用語については、常用漢字以外の漢字を使用しています。

宛先(あてさき) 桁(けた) 汎用(はんよう) 必須(ひつす)
漏洩(ろうえい)

KB(キロバイト)などの単位表記について

1KB(キロバイト), 1MB(メガバイト), 1GB(ギガバイト), 1TB(テラバイト)はそれぞれ 1,024 バイト, 1,024² バイト, 1,024³ バイト, 1,024⁴ バイトです。

目次

1	概要	1
1.1	Groupmax WWW とは	2
1.2	Groupmax WWW のシステム構成	3
1.2.1	Groupmax WWW を利用できる WWW ブラウザ	3
1.2.2	Groupmax WWW を利用できる WWW サーバ	5
1.2.3	Groupmax WWW で利用できる Groupmax サーバ	6
1.3	Groupmax のサービスと Groupmax サーバとの関係	7
1.4	Groupmax WWW の処理の流れ	8
1.5	Groupmax のホームページ	9
1.5.1	Groupmax のホームページとユーザ認証	9
1.6	インターネットとセキュリティ	11
1.6.1	Groupmax のネットワーク構成とファイアウォール	11
1.6.2	WWW のセキュリティの利用	14
2	Groupmax WWW の環境設定	15
2.1	環境設定の流れ	16
2.2	Groupmax WWW のインストール	17
2.3	Groupmax WWW の定義ファイルの修正	21
2.4	共通サービスの定義ファイルの修正	36
2.4.1	最大ユーザ数の変更	36
2.4.2	ログアウトし忘れ監視時間の変更	36
2.4.3	I/O 処理監視時間の指定	36
2.4.4	IP アドレスチェックの指定	37
2.4.5	WWW サーバ URL の変更	37
2.4.6	アイコンファイルのディレクトリの指定	38
2.4.7	WWW ブラウザ送信時の文字コードの指定	38
2.4.8	MIME タイプの指定	39
2.4.9	ウィンドウのタイトルバー表示文字列の指定	40
2.4.10	アクセスログの出力先の指定	41
2.4.11	アクセスログ出力時のレベルの指定	41
2.4.12	エラーログの出力先の指定	42
2.4.13	エラーログ出力時のレベルの指定	42
2.4.14	ログインリトライ回数の指定	42

2.4.15	MIME タイプ指定がない場合のデフォルト値の指定	43
2.4.16	アップロードファイルのサイズチェックの指定	43
2.4.17	Groupmax Address Server のユーザ認証用ポート番号の指定	43
2.4.18	Groupmax Address Server の IP アドレス又はホスト名称の指定	44
2.4.19	ゲストユーザのユーザ名の指定	44
2.4.20	ログイン方法の初期設定値の指定	44
2.4.21	環境情報標準値の指定	45
2.4.22	環境情報背景色の指定	51
2.4.23	ウィンドウのタイトルバーでのログインユーザ情報表示の指定	51
2.4.24	パスワードの有効期限を通知する日数の指定	52
2.4.25	パスワードの有効期間を表示するフォーマットの指定	53
2.4.26	JavaScript ファイルのディレクトリの指定	53
2.4.27	個人属性保存先ディレクトリの指定	53
2.4.28	アクセスログファイルの取得サイズの指定	54
2.4.29	エラーログファイルの取得サイズの指定	54
2.4.30	カテゴリの終了をクリックしないでブラウザを終了したときのログアウト実行方法の指定	55
2.4.31	Internet Explorer 外でダウンロードファイルを開く拡張子の指定	55
2.4.32	別ウィンドウを開く拡張子の指定	56
2.4.33	フォントの拡大の指定	57
2.4.34	タイムアウト抑止機能の指定	58
2.4.35	先行ログインセッションの強制終了の指定	58
2.4.36	メイン画面のツリービュー及びリストビューのサイズ指定	59
2.4.37	添付ファイルを開くときのセキュリティレベルの指定	60
2.4.38	特定機能抑止の指定	62
2.4.39	新着監視画面の再表示を抑止する指定	63
2.4.40	ツリーアイテムのクリックで下位階層を開くようにする指定	64
2.5	「文書管理」サービスの定義ファイルの修正	66
2.5.1	Document Manager Server のポート番号の指定	66
2.5.2	Document Manager Server の IP アドレスの指定	66
2.5.3	文書データベースの OID の指定	66
2.5.4	検索条件指定がない場合の動作モードの指定	67
2.5.5	Groupmax サーバから文書を取り出すときのモードの設定	67
2.5.6	Groupmax サーバへ文書を登録するときのモードの設定	68
2.5.7	圧縮対象のファイルの拡張子の指定	68
2.5.8	文書所有者名削除時の表示文字列の指定	69
2.5.9	日付属性表示形式の指定	69

2.5.10	Document Manager Server のホスト名の指定	69
2.5.11	Document Manager Server のユーザ名の指定	70
2.5.12	外部フィルタプログラム名の指定	70
2.5.13	新規文書作成時のフォルダの指定	70
2.5.14	文書一覧のソートキーとなる属性の指定	71
2.5.15	リストビューに表示する属性の指定	71
2.5.16	リストビューの文書一覧に表示する拡張子別フォーマットの指定	73
2.5.17	gisd_doc_format で指定した文字列と対応するファイルの拡張子の指定	76
2.5.18	リストビューの文書一覧に表示するデフォルトフォーマットの指定	77
2.5.19	リストビューの文書一覧に表示するフォーマットの指定	77
2.5.20	文書管理機能で使用する定義項目	78
2.6	「メール、掲示板」サービスの定義ファイルの修正	80
2.6.1	サーバに関する設定	80
2.6.2	メール一覧、掲示板一覧に関する設定	85
2.6.3	メール、記事の本文に関する設定	95
2.6.4	メール、記事の添付ファイルに関する設定	100
2.6.5	メールの送信に関する設定	105
2.6.6	メール及び掲示板の簡易表示に関する設定	107
2.6.7	メール及び記事の内容表示画面に関する設定	112
2.6.8	メールの下書き、格納に関する設定	114
2.6.9	メールの宛先指定に関する設定	116
2.6.10	メールの宛先確認に関する設定	132
2.6.11	メールの宛先検索に関する設定	134
2.6.12	ローカル宛先に関する設定	137
2.6.13	外部宛先に関する設定	141
2.6.14	その他のメール、掲示板の設定	148
2.7	「ワークフロー」サービスの定義ファイルの修正	150
2.7.1	ログインモードの指定	150
2.7.2	強制ログイン先 Workflow Server 名の指定	151
2.7.3	Workflow Server のポート番号の指定	151
2.7.4	BP 名グルーピング文字数の指定	151
2.7.5	リスト情報の最大数の指定	152
2.7.6	AP 起動作業情報がある場合の案件投入・処理抑止の指定	152
2.7.7	Groupmax フォーム表示情報がある場合の標準フォーム操作抑止の指定	152
2.7.8	Groupmax フォーム表示作業情報がある場合の確認ダイアログ表示抑止の指定	153
2.7.9	INBOX でのロール案件混在表示の指定	153
2.7.10	INBOX での配布種別表示の指定	154

2.7.11	INBOX での属性値表示の指定	154
2.7.12	振り替え時のサブ組織展開階層数の指定	154
2.7.13	送信ログでの削除されたワーク表示の抑止の指定	155
2.7.14	送信ログでの引き戻したワーク表示の抑止の指定	155
2.7.15	案件配布先リストボックス表示桁数の指定	155
2.7.16	ユーザ作成ライブラリへの絶対パスの指定	156
2.7.17	ユーザ作成ライブラリへの連携用関数の指定	156
2.8	「スケジュール」サービスの定義ファイルの修正	157
2.8.1	Scheduler Server の IP アドレスの指定	157
2.8.2	Scheduler Server のポート番号の指定	157
2.8.3	Facilities Manager の IP アドレスの指定	157
2.8.4	Facilities Manager のポート番号の指定	158
2.8.5	スケジュールからの [メール作成] アンカー表示の指定	158
2.8.6	メンバのスケジュール表示時のアラートダイアログ表示の指定	159
2.8.7	「空き時間を表示する」チェックボックス表示の指定	159
2.8.8	上司の未読スケジュール表示時の保留回答抑止の指定	159
2.8.9	ニックネームの表示可否の指定	160
2.8.10	日本語名の表示方法の指定	160
2.8.11	役職名の表示の指定	161
2.8.12	役職順序番号の表示の指定	161
2.8.13	受・発信一覧の取得期間の指定	162
2.8.14	過去分の受・発信一覧の取得期間の指定	162
2.8.15	未来分の受・発信一覧の取得期間の指定	162
2.8.16	「本日以降の予定欄」の表示日数モードの指定	163
2.8.17	「本日以降の予定欄」の表示日数の指定	163
2.9	「フォーム」サービスの定義ファイルの修正	164
2.9.1	ユーザの詳細情報取得の指定	164
2.10	WWW サーバの設定	165
2.10.1	CGI ディレクトリの設定	165
2.10.2	Groupmax WWW 基盤スクリプトプログラムディレクトリの設定	165
2.10.3	アイコンファイルのディレクトリの設定	165
2.10.4	マニュアルファイルのディレクトリの設定	166
2.10.5	Groupmax のホームページへのリンク	166
2.10.6	パスワード変更画面へのリンク	167
2.10.7	Groupmax WWW サーバマシンと Groupmax Address サーバマシンが異なる場合の注意	168
2.11	ブロードキャストメッセージの設定	169

2.11.1	ブロードキャストメッセージファイルの設定方法	169
2.12	キャッシュ無効化の設定	170

3

システムの運用		171
3.1	Groupmax WWW の運用	172
3.1.1	Groupmax WWW のプロセス構成	172
3.1.2	Groupmax WWW の開始と終了	172
3.1.3	Groupmax WWW 運用上の注意	173
3.1.4	メール使用時の注意	173
3.2	運用コマンド	174
3.3	こんなときには ...	175
3.3.1	全体	175
3.3.2	メール	176
3.3.3	スケジューラ	177

4

障害対策		179
4.1	Groupmax WWW の障害対策	180

付録

付録		181
付録 A	ローカル宛先ファイルの削除コマンド	182
付録 B	メッセージ	184
B.1	メッセージの概要	184
B.2	メッセージの詳細	185
付録 C	接続ドメイン情報	193
C.1	格納位置	193
C.2	オブジェクトクラス定義	193
C.3	各ユーザ情報に対応する属性値の注意事項	196
付録 D	用語解説	198

索引

索引	201
-----------	------------

目次

図 1-1	Groupmax WWW の動作環境	3
図 1-2	WWW ブラウザからの要求の処理の流れ	8
図 1-3	ファイアウォールの設置例 (その 1)	11
図 1-4	ファイアウォールの設置例 (その 2)	12
図 1-5	ファイアウォールの設置例 (その 3)	13
図 2-1	Groupmax WWW の環境設定の流れ	16
図 2-2	初期画面	18
図 2-3	インストールできるファイルセット一覧	19
図 2-4	デリートできるファイルセット一覧	19
図 2-5	インストール済みプログラムプロダクト一覧	20
図 2-6	Groupmax コンテンツ以外の [ファイル操作] ダイアログ	62
図 2-7	[掲示板] カテゴリを表示しない指定にした例	93
図 2-8	[デスクトップ] カテゴリの [掲示板] アイテムを表示しない指定にした例	94
図 2-9	本文の折り返し表示を「NO」に指定した場合	96
図 2-10	本文の折り返し表示を「AUTO」に指定した場合	97
図 2-11	本文の折り返し表示を「FORCE」に指定した場合	98
図 2-12	組織名アンカーによって下位組織を展開させる指定を「ON」にした場合の表示例	131
図 3-1	Groupmax WWW のプロセス構成	172

表目次

表 1-1	利用できる WWW ブラウザ	4
表 1-2	ファイアウォールの方式と使用可否	13
表 2-1	システム管理者が修正する定義項目	21
表 2-2	gmax_title_format で指定できる変数と表示されるログインユーザ情報	52
表 2-3	WWW ブラウザが Internet Explorer の場合	61
表 2-4	WWW ブラウザが Netscape Communicator の場合	61
表 2-5	文書管理機能で使用する定義項目	78
表 2-6	サーバに関する設定	80
表 2-7	gml_login_reconnect の指定と RE_CONNECT の指定との組み合わせ	81
表 2-8	メール一覧, 掲示板一覧に関する設定	85
表 2-9	メール, 記事の本文に関する設定	95
表 2-10	メール, 記事の添付ファイルに関する設定	101
表 2-11	メールの送信や記事の掲示に関する設定	105
表 2-12	メール及び掲示板の簡易表示に関する設定	107
表 2-13	メール及び掲示板の内容表示画面に関する設定	112
表 2-14	メールの下書き, 格納に関する設定	114
表 2-15	メールの宛先指定に関する設定	116
表 2-16	メールの宛先確認に関する設定	132
表 2-17	メールの宛先検索に関する設定	134
表 2-18	ローカル宛先に関する設定	137
表 2-19	外部宛先に関する設定	142
表 2-20	その他のメール, 掲示板に関する設定	148
表 2-21	Groupmax のホームページの URL	167
表 C-1	Groupmax 汎用サーバ参照クラス定義	193
表 C-2	ユーザ情報と属性の対応	195
表 C-3	ユーザ情報とそれに対応する Groupmax ディレクトリサーバの属性	196

1

概要

Groupmax WWW は、WWW 環境と Groupmax を接続するプログラムです。この章では、Groupmax WWW の概要、機能、及びほかのプログラムとの関係について説明します。

1.1 Groupmax WWW とは

1.2 Groupmax WWW のシステム構成

1.3 Groupmax のサービスと Groupmax サーバとの関係

1.4 Groupmax WWW の処理の流れ

1.5 Groupmax のホームページ

1.6 インターネットとセキュリティ

1.1 Groupmax WWW とは

インターネット及びイントラネットを取りまくコンピュータ環境は、急速に発展しています。インターネット及びイントラネットは多くの企業で利用され、WWW 環境を使用して業務を行うことは珍しくありません。Groupmax WWW は、WWW 環境と Groupmax を接続するプログラムです。Groupmax WWW を使用すると、WWW 環境から Groupmax のサービスを利用できるようになります。

一方、Groupmax とは、業務効率と生産性の向上を目的として、業務の形態に合わせて御利用いただけるソフトウェアです。Groupmax は、ビジネスの業務プロセスを形成する次のような面を円滑化します。

- 情報の流通
- 書類の回覧
- 意思決定までの協議，検討

Groupmax WWW を使用すると、WWW ブラウザ上で Groupmax にログインして、Groupmax の各種サービスを利用できるようになります。WWW 環境と Groupmax を組み合わせて業務を行うことで、情報の利用手段が広がり、より一層の効率向上を図ることができます。

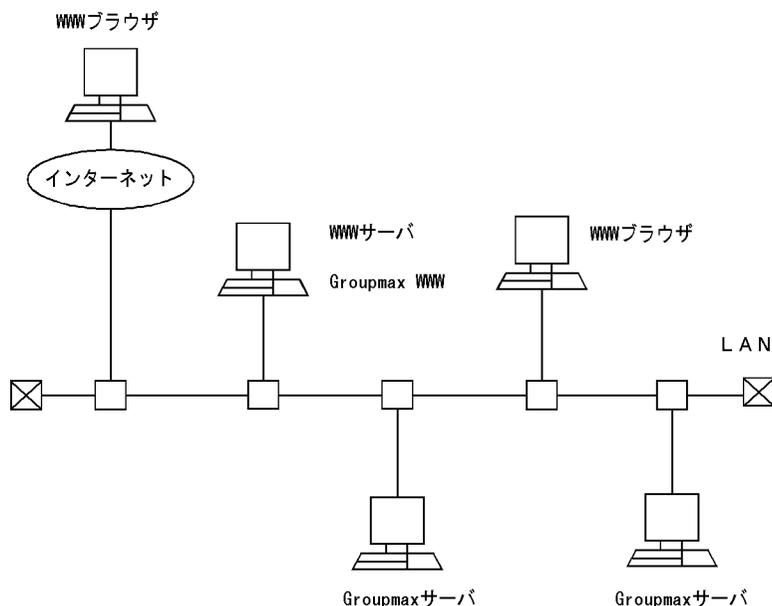
1.2 Groupmax WWW のシステム構成

この節では、Groupmax WWW を使用したシステムの構成を示します。Groupmax WWW は、次のプログラムと連携して動作します。

- WWW ブラウザ
- WWW サーバ
- Groupmax サーバ

Groupmax WWW の動作環境を図 1-1 に示します。

図 1-1 Groupmax WWW の動作環境



Groupmax WWW は、WWW サーバから Groupmax WWW 基盤プログラムを使用して要求を受け取り、Groupmax の各サーバにアクセスします。そして、Groupmax の各サービスを利用できるようにします。

なお、システム負荷の分散、及びシステムリソースの確保のため、Groupmax サーバと Groupmax WWW はそれぞれ別のマシンに載せることをお勧めします。

1.2.1 Groupmax WWW を利用できる WWW ブラウザ

Groupmax WWW を利用できる WWW ブラウザと適用 OS (Operating System) を次に示します。

1. 概要

(1) 利用できる WWW ブラウザ

利用できる WWW ブラウザを表 1-1 に示します。

表 1-1 利用できる WWW ブラウザ

WWW ブラウザ名	WWW ブラウザのバージョン ¹	注意事項
Microsoft Internet Explorer	4.01 ServicePack 1 ²	適用 OS が Macintosh 8.X 及び Macintosh OS9 の場合は利用できない
	4.01 ServicePack 2 ²	適用 OS が Macintosh 8.X 及び Macintosh OS9 の場合は利用できない
	5.0	適用 OS が Macintosh 8.X 及び Macintosh OS9 の場合は利用できない
	5.01	適用 OS が Macintosh 8.X 及び Macintosh OS9 の場合は利用できない
	5.5	適用 OS が Macintosh 8.X 及び Macintosh OS9 の場合は利用できない
	6.0	適用 OS が Macintosh 8.X 及び Macintosh OS9 の場合は利用できない
NETSCAPE COMMUNICATOR	4.06	-
	4.5	適用 OS が Macintosh 8.X の場合だけ利用できる
	4.51	適用 OS が Macintosh 8.X の場合は利用できない
	4.6	適用 OS が Macintosh 8.X の場合は利用できない
	4.7	-
	4.75	-
	4.78 ³	適用 OS が Macintosh 8.X 及び Macintosh OS9 の場合は利用できない

注 1 すべて日本語版です。

注 2 Internet Explorer 4.x はセキュリティ上の問題に対する有効な回避策が採れないケースが認められるため、Internet Explorer 5 以降の御使用を推奨します。

注 3 スケジューラ関連の操作は Groupmax World Wide Web Desktop for Scheduler Version 6 06-50 (又はそれ以降) が前提となります。

(2) 適用 OS

適用 OS を次に示します。

- Windows 95
- Windows 98
- Windows Me
- Windows XP
- Windows NT 4.0
- Windows 2000 ¹
- Macintosh 8.X ²
- Macintosh OS9 ³

注 1

利用できる WWW ブラウザは、Microsoft Internet Explorer 5.0（日本語版）以降です。

注 2

利用できる WWW ブラウザは、次のものだけです。

- NETSCAPE COMMUNICATOR 4.06（日本語版）
- NETSCAPE COMMUNICATOR 4.5（日本語版）
- NETSCAPE COMMUNICATOR 4.7（日本語版）

注 3

利用できる WWW ブラウザは、NETSCAPE COMMUNICATOR 4.7（日本語版）だけです。

なお、ブラウザ操作中の注意事項については、マニュアル「Groupmax World Wide Web Desktop Version 6 ユーザーズガイド」を参照してください。

1.2.2 Groupmax WWW を利用できる WWW サーバ

Groupmax WWW を利用できる WWW サーバは、次のとおりです。

- サーバ名：NETSCAPE ENTERPRISE SERVER
V-R : SERVER3.6
適用 OS：HP-UX11.0
- サーバ名：Sun ONE Web Server Enterprise Edition
V-R : SERVER4.0
適用 OS：HP-UX11.0
- サーバ名：Sun ONE Web Server Enterprise Edition
V-R : SERVER4.1
適用 OS：HP-UX11.0

注 Sun ONE4.1 SP5 以降で利用できます。

1. 概要

1.2.3 Groupmax WWW で利用できる Groupmax サーバ

Groupmax WWW を使用して利用できる Groupmax サーバを次に示します。

- Groupmax Address Server Version 6
- Groupmax Mail Server Version 6
- Groupmax Workflow Server Version 6
- Groupmax Document Manager Server Version 6
- Groupmax Scheduler Server Version 6
- Groupmax Facilities Manager Version 6

1.3 Groupmax のサービスと Groupmax サーバとの関係

Groupmax WWW で利用できる Groupmax のサービスを示します。それぞれのサービスを利用するには、括弧内に示した Groupmax サーバと Groupmax Address Server Version 6 が必要です。

- メール (Groupmax Mail Server Version 6)
ネットワーク上で電子メールをやり取りできます。
- ワークフロー (Groupmax Workflow Server Version 6)
ネットワークを利用して文書の回覧ができます。文書の回覧が自動化され、紛失や遅延などを防止できます。
- 掲示板 (Groupmax Mail Server Version 6)
電子掲示板に情報を提供したり、ほかの人から提供された情報を見たりできます。
- 文書管理 (Groupmax Document Manager Server Version 6)
電子化された文書を取り出して利用できます。これらの文書は、検索しやすいように分類・整理されています。
- スケジュール (Groupmax Scheduler Server Version 6)
スケジュールを管理できます。また、ほかの人のスケジュールを参照したり、予約したりできます。Groupmax Facilities Manager Version 6 に接続すると、会議室などを予約できます。
- 業務モニタ (Groupmax Workflow - End-user Tools Version 5 for WWW)
Groupmax ワークフローで運用される業務の状況を、組織単位で把握・管理できます。業務モニタを使用できるのは、ドメイン管理者、ワークフロー運用管理者、又はビジネスプロセス管理者のユーザ権限を持つユーザです。

1.4 Groupmax WWW の処理の流れ

Groupmax WWW を使用すると、ユーザは WWW ブラウザを使用して、Groupmax の各種サービスを利用できるようになります。WWW ブラウザからの要求を Groupmax サーバが処理して結果を返すまでの流れを、図 1-2 に示します。

図 1-2 WWW ブラウザからの要求の処理の流れ

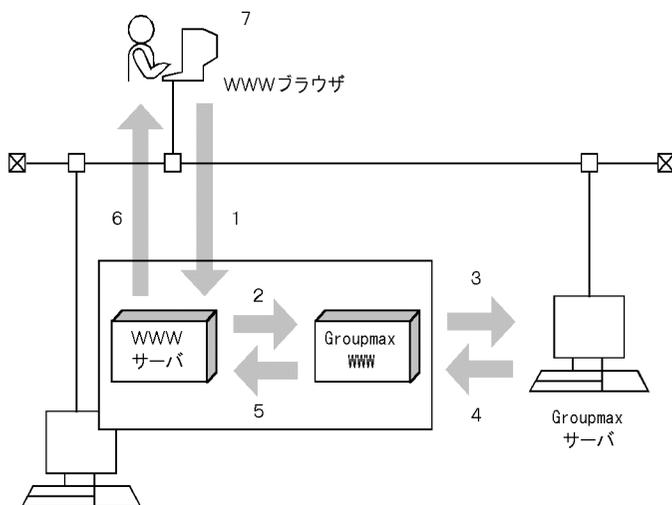


図 1-2 の処理を次に示します。

1. ユーザの操作に従って WWW ブラウザが WWW サーバに要求を出します。
2. WWW サーバが Groupmax WWW 基盤プログラムを起動して、Groupmax WWW に要求を渡します。
3. Groupmax WWW が、該当する Groupmax サーバへ要求を出します。
4. Groupmax サーバが要求を処理し、Groupmax WWW に処理結果を返します。
5. Groupmax WWW が処理結果を HTML (Hyper Text Markup Language) 形式に変換して、WWW サーバへ返します。
6. WWW サーバが WWW ブラウザへ結果を送信します。
7. WWW ブラウザが、送信された HTML データを画面に表示します。

Groupmax WWW の処理の詳細については、「3.1 Groupmax WWW の運用」を参照してください。

1.5 Groupmax のホームページ

WWW ブラウザから Groupmax を利用するには、Groupmax WWW が組み込まれた WWW サーバ上の Groupmax のホームページを URL (Uniform Resource Locators) で指定します。通常、ほかのホームページから張られたリンクをたどることで、Groupmax のホームページにアクセスできます。システム管理者は、適当なホームページから Groupmax のホームページへリンクを張ってください。

Groupmax のホームページには、次の 2 種類があります。

- 一般ユーザ用ホームページ
- ゲストユーザ用ホームページ

それぞれの機能を考慮して、どのホームページにリンクさせるかを選択してください。Groupmax のホームページの URL については、「2.10.5 Groupmax のホームページへのリンク」を参照してください。

1.5.1 Groupmax のホームページとユーザ認証

Groupmax のホームページにアクセスしたとき、ホームページの種類によって、ユーザ認証される場合とされない場合があります。

(1) ユーザ認証されるホームページ

一般ユーザ用ホームページにアクセスした場合、ログインによるユーザ認証がされます。

一般ユーザ用ホームページにアクセスすると、ユーザ名とパスワードを入力するログイン画面が表示されます。Groupmax WWW のログインでは、Groupmax サーバに登録されたユーザ名及びパスワードを入力することでユーザ認証されます。このため、WWW 環境から Groupmax のサービスを利用する場合も、Groupmax サーバで設定されたアクセス権に基づいてアクセス制御がされます。

(2) ユーザ認証されないホームページ

ゲストユーザ用ホームページにアクセスした場合、ユーザ認証はされません。

このホームページにアクセスした場合、ログイン画面は表示されません。このため、ユーザ名及びパスワードの入力なしで Groupmax のホームページを利用できます。これによって、インターネットやイントラネットの不特定のユーザに、Groupmax のサービスを公開できます。このようなユーザをゲストユーザといいます。ゲストユーザは、文書管理の情報だけを参照できます。

Groupmax の内部では、ゲストユーザにもユーザ名が割り当てられます。ゲストユーザがログインするためには、システム管理者が Groupmax Address Server に、ゲストユーザのユーザ名を登録しておく必要があります。このときパスワードは、ユーザ ID と同じ

1. 概要

もの（デフォルト値）にしてください。不特定のユーザが Groupmax Document Manager Server を使用することを考慮して、ゲストユーザのアクセス権には、十分注意してください。

ゲストユーザのユーザ名は、デフォルトでは「guest」です。これ以外のゲストユーザ名を使用する場合、Groupmax WWW の定義ファイルにその設定が必要になります。これについては、「2.4.19 ゲストユーザのユーザ名の指定」を参照してください。

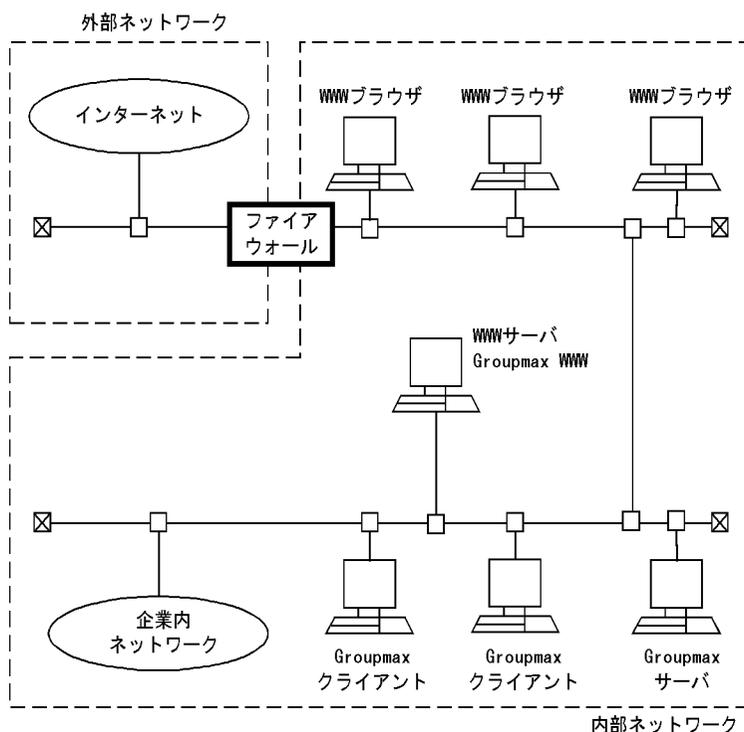
1.6 インターネットとセキュリティ

この節では、Groupmax WWW を使用する場合のセキュリティについて説明します。Groupmax システムを外部のネットワークに接続する場合、システム管理者は、ここで示すセキュリティを考慮してください。

1.6.1 Groupmax のネットワーク構成とファイアウォール

外部ネットワークからの不正なアクセスや機密情報の漏洩などを防止するために、ファイアウォールを利用できます。ファイアウォールの設置位置は、システムの構成やセキュリティポリシーによって異なります。ファイアウォールの設置の例を、図 1-3 から図 1-5 に示します。

図 1-3 ファイアウォールの設置例（その 1）



1. 概要

図 1-4 ファイアウォールの設置例（その2）

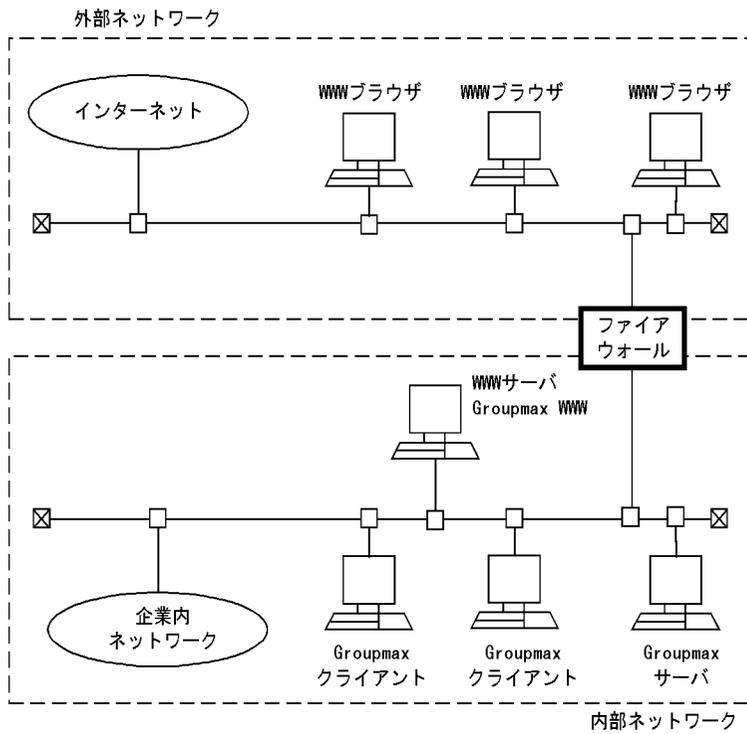
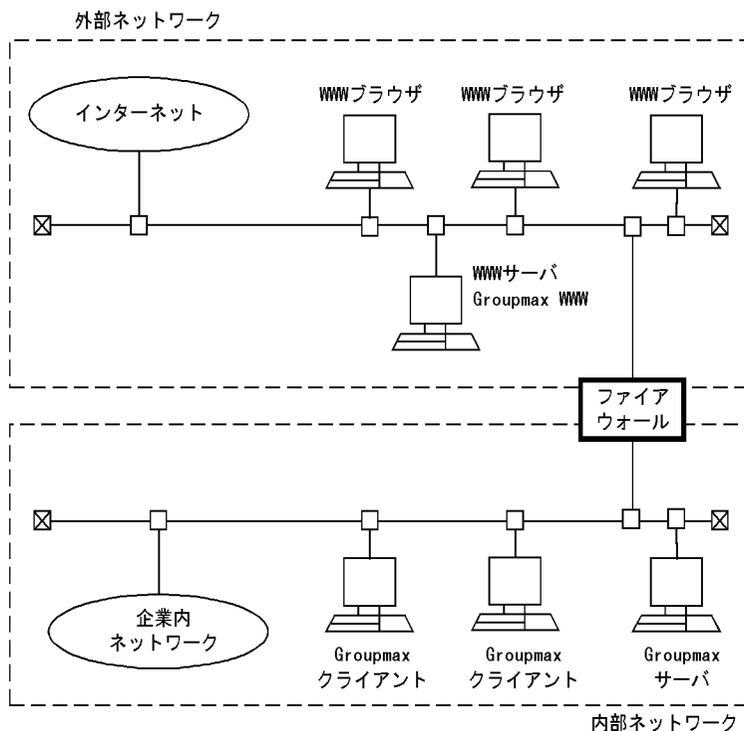


図 1-5 ファイアウォールの設置例（その3）



これらの図を参考にして、ユーザのシステム構成やセキュリティポリシーに応じた適切な位置にファイアウォールを設置してください。

ファイアウォールの主な方式として、パケットフィルタリング方式とアプリケーションゲートウェイ方式があります。これらの方式について、図 1-3 から図 1-5 の設置例での使用可否を表 1-2 に示します。

表 1-2 ファイアウォールの方式と使用可否

設置例	パケットフィルタリング方式	アプリケーションゲートウェイ方式
その1		
その2		
その3		×

(凡例) : 使用できます。 × : 使用できません。

注 Groupmax WWW の機能をインターネットから利用できるように、HTTP (Hyper Text Transfer Protocol) プロトコルを中継できるように設定する必要があります。

パケットフィルタリング方式でのアクセスのアドレス制限、アプリケーションゲート

1. 概要

ウェイ方式でのログ収集，プロキシサーバ機能などについては，各情報システムのセキュリティポリシーに従って設定してください。

1.6.2 WWW のセキュリティの利用

WWW ブラウザと WWW サーバ間の通信では，WWW のセキュリティ機能を使用できません。WWW のセキュリティ機能の例として，SSL (Secure Sockets Layer) があります。これらの機能を使用して，セキュリティを強化できます。

2

Groupmax WWW の環境設定

この章では、Groupmax WWW を実行させるための環境設定の方法について説明します。

2.1 環境設定の流れ

2.2 Groupmax WWW のインストール

2.3 Groupmax WWW の定義ファイルの修正

2.4 共通サービスの定義ファイルの修正

2.5 「文書管理」サービスの定義ファイルの修正

2.6 「メール、掲示板」サービスの定義ファイルの修正

2.7 「ワークフロー」サービスの定義ファイルの修正

2.8 「スケジュール」サービスの定義ファイルの修正

2.9 「フォーム」サービスの定義ファイルの修正

2.10 WWW サーバの設定

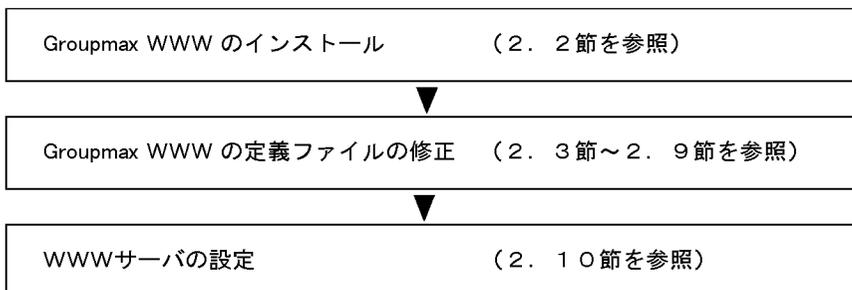
2.11 ブロードキャストメッセージの設定

2.12 キャッシュ無効化の設定

2.1 環境設定の流れ

ここでは、Groupmax WWW の環境設定の流れについて説明します。Groupmax WWW の環境を設定する順序を、図 2-1 に示します。

図 2-1 Groupmax WWW の環境設定の流れ



2.2 Groupmax WWW のインストール

Hitachi PP Installer を使用してインストールしてください。

Hitachi PP Installer は、Groupmax WWW の提供媒体の中に格納されています。このインストーラによって、Groupmax WWW のインストール、デリート及びバージョン情報の表示ができます。

ここでは、Hitachi PP Installer の起動方法及び使い方について説明します。

なお、このインストーラは、スーパーユーザだけが実行できます。実行の際には、カレントディレクトリを「/」(ルートディレクトリ)に移動してください。

(1) Hitachi PP Installer の起動方法

CD-ROM 媒体とテープ媒体では、Hitachi PP Installer の起動手順が異なります。

また、デバイススペシャルファイル名や、CD-ROM ディレクトリは、御使用の OS やハードウェアによって異なりますので、マニュアルなどで御確認の上実行してください。

(a) CD-ROM 媒体からの起動方法

CD-ROM セットアッププログラムによって、Hitachi PP Installer 及び常駐起動プログラムがハードディスク上にインストールされ、Hitachi PP Installer が自動的に起動されます。画面上で次のように入力してください。

```
# mkdir /cdrom
# mount /dev/dsk/c1t2d0 /cdrom
# /cdrom/HPUX/SETUP /cdrom
```

注

「dev/dsk/c1t2d0」の部分には、御使用になる CD-ROM デバイススペシャルファイル名を指定してください。

なお、既に CD-ROM セットアッププログラムを実行し、Hitachi PP Installer がハードディスク上にある場合は、直接 Hitachi PP Installer (/etc/hitachi_setup) を起動してください。

(b) テープ媒体からの起動方法

テープ媒体の場合は、初めに Hitachi PP Installer を取り出してから Hitachi PP Installer を起動してください。

操作方法

1. Groupmax WWW の提供用テープカセットをテープカセット装置にセットし、次のコマンドを実行します。

2. Groupmax WWW の環境設定

```
# tar xvf /dev/rmt/0mn
```

実行後、次の二つのファイルが取り出されます。

/etc/hitachi_setup (Hitachi PP Installer)

/etc/hitachi_start (常駐プロセス自動起動プログラム)

2. 次のコマンドを実行します。

```
# /etc/hitachi_setup -i /dev/rmt/0mn
```

注

「/dev/rmt/0mn」の部分には、自動巻き戻し機能のないデバイススペシャルファイル名を指定してください。

(2) インストール方法

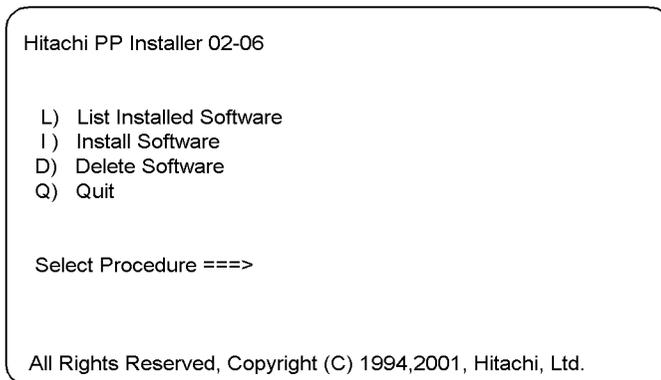
インストール方法を次に示します。

操作方法

1. (1) の起動方法に従って、Hitachi PP Installer を起動します。

図 2-2 に示す初期画面が表示されます。

図 2-2 初期画面



2. 初期画面で、「I」を入力します。

インストールできるファイルセットの一覧が、図 2-3 のように表示されます。

図 2-3 インストールできるファイルセット一覧

PP-NO.	VR	PP-Name
001	GMX6-WWWWH	06-51 Groupmax World Wide Web Desktop

F) Forward B) Back J) Down K) Up Space) select/unselect I) Install Q) Quit

3. インストールしたいファイルセットにカーソルを移動し、スペースバーで選択します。
選択したファイルセットの先頭に、「<@>」が表示されます。
4. 再び「I」を入力します。
画面下に「Install PP? (y:install,n:cancel) ==>」が表示されます。
5. 「Y」を入力します。
先頭に「<@>」が表示されているファイルセットがインストールされます。
インストールが完了すると、画面下に「Installation completed.」が表示されます。
6. 「Q」を入力します。
初期画面に戻ります。

(3) デリート方法

インストールされたファイルセットのデリート（削除）方法を説明します。

操作方法

1. 図 2-2 の初期画面で「D」を入力します。
デリートできるファイルセットの一覧が、図 2-4 のように表示されます。

図 2-4 デリートできるファイルセット一覧

PP-NO.	VR	PP-Name
001	GMX6-WWWWH	06-51 Groupmax World Wide Web Desktop

F) Forward B) Back J) Down K) Up Space) select/unselect D) Delete Q) Quit

2. デリートしたいファイルセットにカーソルを移動し、スペースバーで選択します。
選択したファイルセットの先頭に、「<@>」が表示されます。
3. 再び「D」を入力します。

2. Groupmax WWW の環境設定

画面下に「Delete PP? (y:delete,n:cancel) ==>」が表示されます。

4. 「Y」を入力します。

先頭に「<@>」が表示されているファイルセットがデリートされます。

デリートが完了すると、画面下に「Delete procedure completed.」が表示されます。

5. 「Q」を入力します。

図 2-2 で示す初期画面に戻ります。

(4) バージョン情報の表示

バージョン情報の表示方法について説明します。

操作方法

1. 図 2-2 の初期画面で、「L」を入力します。

インストール済みの日立製品のバージョンが、図 2-5 のように一覧表示されます。

図 2-5 インストール済みプログラムプロダクト一覧

PP-NO.	VR	Install date	PP-Name
001 GMX6-WWWWH	06-51	2003/mm/dd hh:mm	Groupmax World Wide Web Desktop

F) Forward B) Back Q) Quit P) Print to /tmp/hitachi_PPLIST ==>

2. 表示を確認し終わったら、「Q」を入力します。

図 2-2 で示す初期画面に戻ります。

2.3 Groupmax WWW の定義ファイルの修正

Groupmax WWW には、動作に関する情報を格納した定義ファイル「ファイル名：wbp.cnf, WebPGen.cfg, config, gmax.cnf」と「ファイル名：wbp.new, config.new」があります。定義ファイルは、一般的によく使用される設定内容でインストール時に「ファイル名：wbp.new, WebPGen.cfg, config.new, gmax.cnf」に作成されます。システム管理者は、Groupmax WWW を新規に構築した場合は、「ファイル名：config.new」は「ファイル名：config」に名称変更し、システム構成に合わせて各定義ファイル「ファイル名：wbp.cnf, config, gmax.cnf」の内容を修正する必要があります。

Groupmax WWW 環境が構築済みの場合は、既存の「ファイル名：wbp.cnf, WebPGen.cfg, config, gmax.cnf」の内容を修正したり、「ファイル名：wbp.new, config.new」から新規内容を既存の定義ファイルに追加したりする必要があります。ただし、「ファイル名：wbp.cnf, config, gmax.cnf」に、ここで記述した項目以外を変更した場合、Groupmax WWW の動作は保証されません。

システム管理者が修正する定義項目の一覧を、表 2-1 に示します。表 2-1 の見出しの「項番」は、2.4 節～ 2.9 節の各項番号と対応しています。

なお、定義ファイルを修正する場合は、Groupmax WWW のサービスを停止してください。

補足

業務モニタには固有の定義項目はありません。

表 2-1 システム管理者が修正する定義項目

項番	ファイル名	シンボル名	内容	対応するサービス
2.4.1	wbp.cnf	MaxProcess	最大ユーザ数の変更	共通
2.4.2	wbp.cnf	MaxSilentTime	ログアウトし忘れ監視時間の変更	共通
2.4.3	wbp.cnf	MaxIOTime	I/O 処理監視時間の指定	共通
2.4.4	wbp.cnf	IPAddressChecking	IP アドレスチェックの指定	共通
2.4.5	WebPGen.cfg	SERVER_URL	WWW サーバ URL の変更	共通
2.4.6	config	gmax_icon_file_dir	アイコンファイルのディレクトリの指定	共通
2.4.7	config	gmax_client_lang	WWW ブラウザ送信時の文字コードの指定	共通

2. Groupmax WWW の環境設定

項番	ファイル名	シンボル名	内容	対応するサービス
2.4.8	config	gmax_document_mime_type_def	MIME タイプの指定	共通
2.4.9	config	gmax_alias_name	ウィンドウのタイトルバー表示文字列の指定	共通
2.4.10	config	gmax_access_log_facility	アクセスログの出力先の指定	共通
2.4.11	config	gmax_access_log_level	アクセスログ出力時のレベルの指定	共通
2.4.12	config	gmax_error_log_facility	エラーログの出力先の指定	共通
2.4.13	config	gmax_error_log_level	エラーログ出力時のレベルの指定	共通
2.4.14	config	gmax_max_login_count	ログインリトライ回数の指定	共通
2.4.15	config	gmax_default_mime_type	MIME タイプ指定がない場合のデフォルト値の指定	共通
2.4.16	config	gmax_upload_file_null_check	アップロードファイルのサイズチェックの指定	共通
2.4.17	config	gmax_address_portnum	Groupmax Address Server のユーザ認証用ポート番号の指定	共通
2.4.18	config	gmax_address_server	Groupmax Address Server の IP アドレス又はホスト名称の指定	共通
2.4.19	config	gmax_guest_user_name	ゲストユーザのユーザ名の指定	共通
2.4.20	config	gmax_nickname_login	ログイン方法の初期設定値の指定	共通

項番	ファイル名	シンボル名	内容	対応するサービス
2.4.21	config	gmax_default_timezone gmax_default_summer_time gmax_default_summer_hh gmax_default_summer_mm gmax_default_time_type gmax_default_time_def gmax_default_date_type gmax_default_cal_type gmax_default_backcolor gmax_default_username_type gmax_default_tree_focus gmax_default_list_icon_type gmax_default_arrive_report gmax_default_arrive_polling gmax_default_arrive_target.m ail gmax_default_arrive_target.w orkflow gmax_default_calendar_view_h ide gmax_default_content_view_hi de gmax_light_list_mode gmax_default_list_inbox gmax_default_category_view_h ide	環境情報標準値の指定	共通
2.4.22	config	gmax_environment_backcolor.X	環境情報背景色の指定	共通
2.4.23	config	gmax_title_format	ウィンドウのタイトルバーでのログインユーザ情報表示の指定	共通
2.4.24	config	gmax_password_term	パスワードの有効期限を通知する日数の指定	共通
2.4.25	config	gmax_password_format_day	パスワードの有効期間を表示するフォーマットの指定	共通
2.4.26	config	gmax_script_file_dir	JavaScript ファイルのディレクトリの指定	共通
2.4.27	config	gmax_attribute_dir	個人属性保存先ディレクトリの指定	共通
2.4.28	gmax.cnf	gmax_access_log_swap_size	アクセスログファイルの取得サイズの指定	共通

2. Groupmax WWW の環境設定

項番	ファイル名	シンボル名	内容	対応するサービス
2.4.29	gmax.cnf	gmax_error_log_swap_size	エラーログファイルの取得サイズの指定	共通
2.4.30	config	gmax_logout_type	カテゴリの終了をクリックしないでブラウザを終了したときのログアウト実行方法の指定	共通
2.4.31	config	gmax_document_attachment	Internet Explorer 外でダウンロードファイルを開く拡張子の指定	共通
2.4.32	config	gmax_document_window_open	別ウィンドウを開く拡張子の指定	共通
2.4.33	config	gmax_font_size	フォントの拡大の指定	共通
2.4.34	config	gmax_timeout_interval	タイムアウト抑止機能の指定	共通
2.4.35	config	gmax_after_login_notify	先行ログインセッションの強制終了の指定	共通
2.4.36	config	gmax_main_frame_layout	メイン画面のツリービュー及びリストビューのサイズ指定	共通
2.4.37	config	gmax_open_file_security_level	添付ファイルを開くときのセキュリティレベルの指定	共通
2.4.38	config	gmax_noprint_option	特定機能抑止の指定	共通
2.4.39	config	gmax_arrive_reset_timing	新着監視画面の再表示を抑止する指定	メール
2.4.40	config	gmax_open_tree_by_item_click	ツリーアイテムで下位階層を開くようにする指定	掲示板
2.5.1	services	infoshare	Document Manager Server のポート番号の指定	文書管理
2.5.2	config	gis_server_name	Document Manager Server の IP アドレスの指定	文書管理
2.5.3	config	gis_class_oid	文書データベースの OID の指定	文書管理
2.5.4	config	gis_no_cond_search	検索条件指定がない場合の動作モードの指定	文書管理

項番	ファイル名	シンボル名	内容	対応するサービス
2.5.5	config	gis_client_uncompress	Groupmax サーバから文書を取り出すときのモードの設定	文書管理
2.5.6	config	gis_compress_upload	Groupmax サーバへ文書を登録するときのモードの設定	文書管理
2.5.7	config	gis_compress_suffix	圧縮対象のファイルの拡張子の指定	文書管理
2.5.8	config	gis_delete_user_alias	文書所有者名削除時の表示文字列の指定	文書管理
2.5.9	config	gis_init_date_space	日付属性表示形式の指定	文書管理
2.5.10	config	gis_getdoc_server	Document Manager Server のホスト名の指定	文書管理
2.5.11	config	gis_getdoc_user	Document Manager Server のユーザ名の指定	文書管理
2.5.12	config	gis_getdoc_filter	外部フィルタプログラム名の指定	文書管理
2.5.13	config	gis_create_doc_folder	新規文書作成時のフォルダの指定	文書管理
2.5.14	config	gis_list_sort_item	文書一覧のソートキーとなる属性の指定	文書管理
2.5.15	config	gisd_list_item.\$表示番号.{ \$属性表示名称 }	リストビューに表示する属性の指定	文書管理
2.5.16	config	gisd_doc_format.\$対応番号	リストビューの文書一覧に表示する拡張子別フォーマットの指定	文書管理
2.5.17	config	gisd_doc_format_ext.\$対応番号	gisd_doc_format で指定した文字列と対応するファイルの拡張子の指定	文書管理
2.5.18	config	gisd_doc_default_format	リストビューの文書一覧に表示するデフォルトフォーマットの指定	文書管理
2.5.19	config	gisd_doc_no_file_format	リストビューの文書一覧に表示するフォーマットの指定	文書管理
2.5.20	config	gis_attr_selection_and など	文書管理機能で使用する定義項目	文書管理

2. Groupmax WWW の環境設定

項番	ファイル名	シンボル名	内容	対応するサービス
2.6.1(1)	config	gml_mail_portnum	(サーバ) Groupmax Mail Server のサービス用ポート番号の指定	メール、 掲示板
2.6.1(2)	config	gml_address_portnum	(サーバ) Groupmax Address Server のアドレスサービス用ポート番号の指定	メール、 掲示板
2.6.1(3)	config	gml_login_reconnect	(サーバ) Groupmax Address Server への後着優先ログインの指定	メール、 掲示板
2.6.1(4)	config	gml_useroptional_info	(サーバ) Groupmax Address Server のユーザ任意情報の表示の指定	メール
2.6.1(5)	config	gml_change_userinf	(サーバ) Groupmax Address Server のユーザ情報の変更の指定	メール、 掲示板
2.6.1(6)	config	gml_mailtype	(サーバ) Groupmax Address Server のメールタイプの指定(組織メールの指定)	メール、 掲示板
2.6.2(1)	config	gml_rmljpname	(メール一覧/掲示板) 送信者日本語名の表示幅の指定	メール、 掲示板
2.6.2(2)	config	gml_rmljpposition	(メール一覧/掲示板) 役職名の表示幅の指定	メール、 掲示板
2.6.2(3)	config	gml_use_username_type	(メール一覧/掲示板) ユーザ名の表示の指定	メール、 掲示板
2.6.2(4)	config	gml_jname_area	(メール一覧/掲示板) 日本語名の表示の指定	メール、 掲示板
2.6.2(5)	config	gml_mail_readdef	(メール一覧) 受信メール一覧の未読/既読のデフォルトの変更の指定	メール

項番	ファイル名	シンボル名	内容	対応するサービス
2.6.2(6)	config	gml_mail_list_limit	(メール一覧) メールの取得件数の指定	メール
2.6.2(7)	config	gml_bbs_readdef	(掲示板) 記事一覧の未読/既読のデフォルトの変更の指定	掲示板
2.6.2(8)	config	gml_column_order	(掲示板) 記事数の桁そろえの指定	掲示板
2.6.2(9)	config	gml_artcount_view	(掲示板) 掲示板一覧の記事件数表示の指定	掲示板
2.6.2(10)	config	gmax_no_display_tree.bboard	(掲示板) [掲示板]カテゴリを表示しない指定	掲示板
2.6.2(11)	config	gmax_no_display_tree.board	(掲示板) [デスクトップ]カテゴリの[掲示板]アイテムを表示しない指定	掲示板
2.6.2(12)	config	gml_defaultboard	(掲示板) 初期表示する掲示板の指定	掲示板
2.6.3(1)	config	gml_contentwrap	(本文) 本文のウィンドウ幅での折り返し表示の指定	メール, 掲示板
2.6.3(2)	config	gml_contentmargin	(本文) gml_contentwrapでFORCEを指定したときの折り返し文字数の指定	メール, 掲示板
2.6.3(3)	config	gml_useurl	(本文) クリックブル URL の指定	メール, 掲示板
2.6.3(4)	config	gml_keyword1 ~ 3	(本文) クリックブル URL のキーワード名の指定	メール, 掲示板
2.6.3(5)	config	gml_nextscreen	(本文) クリックブル URL の表示先の指定	メール, 掲示板
2.6.4(1)	config	gml_attachfile_unit	(添付ファイル) 添付ファイルサイズの表示単位の指定	メール, 掲示板

2. Groupmax WWW の環境設定

項番	ファイル名	シンボル名	内容	対応するサービス
2.6.4(2)	config	gml_attach_input_num	(添付ファイル) 添付ファイルブラウザボタンのデフォルト表示数の指定	メール, 掲示板
2.6.4(3)	config	gml_fname_encode_char_mode	(添付ファイル) 添付ファイル名の1バイトコードの文字変換方式の指定	メール, 掲示板
2.6.4(4)	config	gml_fname_encode_dwchar_mode	(添付ファイル) 添付ファイル名の2バイトコードの文字変換方式の指定	メール, 掲示板
2.6.4(5)	config	gml_fname_encode_char	(添付ファイル) 添付ファイル名の1バイトコードの変換対象文字の指定	メール, 掲示板
2.6.4(6)	config	gml_fname_encode_dwchar	(添付ファイル) 添付ファイル名の2バイトコードの変換対象文字の指定	メール, 掲示板
2.6.5(1)	config	gml_mail_deliverynotice	(メールの送信) 配信通知のデフォルトを切り替える指定	メール
2.6.5(2)	config	gml_mail_readstatus	(メールの送信) 受信通知のデフォルトを切り替える指定	メール
2.6.5(3)	config	gml_editorclear	(メールの送信) メールの送信, 記事掲示後の作成画面の動作の指定	メール, 掲示板
2.6.6(1)	config	gml_SimDispAddress	(簡易表示) 簡易表示書式の宛先表示の指定	メール
2.6.6(2)	config	gml_SimDispDate	(簡易表示) 簡易表示書式の受信日 / 掲示日表示の指定	メール, 掲示板
2.6.6(3)	config	gml_SimDispTitle	(簡易表示) 簡易表示書式の主題 / 記事名表示の指定	メール, 掲示板
2.6.6(4)	config	gml_SimDispAttribute	(簡易表示) 簡易表示書式の属性表示の指定	メール, 掲示板
2.6.6(5)	config	gml_SimDispSender	(簡易表示) 簡易表示書式の送信者 / 掲示者表示の指定	メール, 掲示板

項番	ファイル名	シンボル名	内容	対応するサービス
2.6.6(6)	config	gml_SimDispAttach	(簡易表示) 簡易表示書式の添付 ファイル名表示の指 定	メール, 掲示板
2.6.6(7)	config	gml_SimDispSendDate	(簡易表示) 簡易表示書式の送信 日表示の指定	メール
2.6.6(8)	config	gml_SimDispCRByte	(簡易表示) 簡易表示の折り返し 文字数の指定	メール, 掲示板
2.6.7(1)	config	gml_contents_mode	(内容表示画面) 内容表示画面フレー ム切り替えを ON に指定したときのデ フォルトの指定	メール, 掲示板
2.6.7(2)	config	gml_contents_select	(内容表示画面) 内容表示画面フレー ム切り替えの指定	メール, 掲示板
2.6.8(1)	config	gml_draft_max_size	(メールの保存) メールの下書き保存 容量の指定	メール
2.6.8(2)	config	gml_draft_save_dir	(メールの保存) メールの下書き保存 先ディレクトリの指 定	メール
2.6.8(3)	config	gml_mail_contents_file_type	(メールの保存) コンテンツファイル 保存形式のデフォ ルトの指定	メール
2.6.8(4)	config	gml_contents_temp_dir	(メールの保存) コンテンツを表示す るときの作業ディレ クトリの指定	メール
2.6.9(1)	config	gml_addr_type_default	(宛先指定) 宛先種別コンボボッ クスの初期設定項目 の指定	メール
2.6.9(2)	config	gml_addr_type_internet	(宛先指定) 宛先種別コンボボッ クスのインターネット アドレス選択項目 の有無の切り替えの 指定	メール
2.6.9(3)	config	gml_inputadr_mode	(宛先指定) 宛先直接入力時の宛 先の一括登録の指定	メール

2. Groupmax WWW の環境設定

項番	ファイル名	シンボル名	内容	対応するサービス
2.6.9(4)	config	gml_inputadr_separate	(宛先指定) 宛先直接入力時の宛先を一括登録した場合の宛先の区切り文字の指定	メール
2.6.9(5)	config	gml_adrclass_show	(宛先指定) 電子アドレス帳の階層名称の表示の指定	メール
2.6.9(6)	config	gml_underlayer_check	(宛先指定) 組織一覧表示時の下位組織チェックの指定	メール
2.6.9(7)	config	gml_userlist_sort	(宛先指定) 宛先の個人リストの表示順の指定	メール
2.6.9(8)	config	gml_grp_userlist_sort	(宛先指定) システム宛先グループの個人リストの表示順の指定	メール
2.6.9(9)	config	gml_orglisort	(宛先指定) 宛先の組織階層及び組織宛先の表示順の指定	メール
2.6.9(10)	config	gml_grp_orglisort	(宛先指定) システム宛先グループの組織階層及び組織宛先の表示順の指定	メール
2.6.9(11)	config	gml_userlist_org	(宛先指定) 組織宛先の表示の指定	メール
2.6.9(12)	config	gml_list_topmode	(宛先指定) 宛先一覧の上位表示の指定	メール
2.6.9(13)	config	gml_adrduplication_mode	(宛先指定) 重複宛先削除機能の指定	メール
2.6.9(14)	config	gml_reciptedit_sort	(宛先指定) 宛先編集画面での宛先の表示順の指定	メール
2.6.9(15)	config	gml_save_addr_type	(宛先指定) Groupmax 格納機能の宛先種別の指定	メール
2.6.9(16)	config	gml_adrtree_open	(宛先指定) 組織名アンカーによって下位組織を展開させる指定	メール

項番	ファイル名	シンボル名	内容	対応するサービス
2.6.9(17)	config	gml_adr_close	(宛先指定) 宛先を反映した後に電子アドレス帳画面を閉じる指定	メール
2.6.10(1)	config	gml_addrcheck	(宛先確認) 宛先確認機能の指定	メール
2.6.10(2)	config	gml_addrcheck_jpnamelen	(宛先確認) 宛先確認画面の日本語名の表示長の指定	メール
2.6.10(3)	config	gml_addrcheck_toporgnamelen	(宛先確認) 宛先確認画面の最上位組織名の表示長の指定	メール
2.6.10(4)	config	gml_addrcheck_orgnamelen	(宛先確認) 宛先確認画面の組織名の表示長の指定	メール
2.6.11(1)	config	gml_adrsearch_conditions	(宛先検索) 宛先検索画面に初期表示する検索条件の指定	メール
2.6.11(2)	config	gml_systemsearch_nokey	(宛先検索) システム宛先の検索で検索キーが指定されていないときの動作の指定	メール
2.6.11(3)	config	gml_directorysearch_nokey	(宛先検索) 外部宛先の検索で検索キーが指定されていないときの動作の指定	メール
2.6.11(4)	config	gml_system_maxsearchnum	(宛先検索) システム宛先検索時の最大取得件数の指定	メール
2.6.12(1)	config	gml_maxfilesize	(ローカル宛先) ローカル宛先ファイルの最大ファイルサイズの指定	メール
2.6.12(2)	config	gml_pathname	(ローカル宛先) ローカル宛先ファイルの格納先ディレクトリの指定	メール
2.6.12(3)	config	gml_deletemode	(ローカル宛先) ローカル宛先ファイルのログアウト時の削除方法の指定	メール

2. Groupmax WWW の環境設定

項番	ファイル名	シンボル名	内容	対応するサービス
2.6.12(4)	config	gml_ladrcomment_auto	(ローカル宛先) コメント自動生成の 指定	メール
2.6.12(5)	config	gml_ladrcnv16	(ローカル宛先) 16ビット版ローカ ル宛先ファイルの指 定	メール
2.6.12(6)	config	gml_ladrgrplist_sort	(ローカル宛先) ローカル宛先台帳の グループの表示順の 指定	メール
2.6.12(7)	config	gml_ladruserlist_sort	(ローカル宛先) ローカル宛先台帳の 宛先一覧の表示順の 指定	メール
2.6.13(1)	config	gml_dirserver_use	(外部宛先) 外部宛先台帳使用の 指定	メール
2.6.13(2)	config	gml_directory_server	(外部宛先) 外部宛先の接続先の 指定	メール
2.6.13(3)	config	gml_dir_servicename	(外部宛先) 外部宛先サーバの サービス名又はポー ト番号の指定	メール
2.6.13(4)	config	gml_dir_dnsuffix_c	(外部宛先) 外部宛先サーバの国 名の指定	メール
2.6.13(5)	config	gml_dir_dnsuffix_o	(外部宛先) 外部宛先サーバのド メイン名称の指定	メール
2.6.13(6)	config	gml_dir_svrlevel	(外部宛先) 外部宛先サーバの管 理レベルの指定	メール
2.6.13(7)	config	gml_dir_dnsuffix_ou	(外部宛先) 外部宛先サーバの組 織名の指定	メール
2.6.13(8)	config	gml_dir_timeout	(外部宛先) 外部宛先のタイムア ウト時間の指定	メール
2.6.13(9)	config	gml_dir_maxsearchnum	(外部宛先) 外部宛先の最大取得 件数の指定	メール
2.6.13(10)	config	gml_dir_cachesize	(外部宛先) 外部宛先キャッシュ サイズの指定	メール

項番	ファイル名	シンボル名	内容	対応するサービス
2.6.13(11)	config	gml_dir_ref_charactercode	(外部宛先) 接続ドメイン情報の 文字コードの指定	メール
2.6.13(12)	config	gml_dir_refdn	(外部宛先) 接続ドメイン情報取 得位置の指定	メール
2.6.13(13)	config	gml_dirlist_sort_use	(外部宛先) 外部宛先の組織表示 順変更の指定	メール
2.6.14(1)	config	gml_positionnumber_display	役職順序番号表示の 指定	メール, 掲示板
2.7.1	config	gfl_login_mode	ログインモードの指 定	ワークフ ロー
2.7.2	config	gfl_server_name	強制ログイン先 Workflow Server 名 の指定	ワークフ ロー
2.7.3	config	gfl_workflow_portnum	Workflow Server の ポート番号の指定	ワークフ ロー
2.7.4	config	gfl_bpgroupingsize	BP 名グルーピング 文字数の指定	ワークフ ロー
2.7.5	config	gfl_limit_line	リスト情報の最大数 の指定	ワークフ ロー
2.7.6	config	gfl_apdefstdformstop	AP 起動作業情報が ある場合の案件投 入・処理抑止の指定	ワークフ ロー
2.7.7	config	gfl_gmaxdefstdformstop	Groupmax フォー ム表示情報がある場 合の標準フォーム操 作抑止の指定	ワークフ ロー
2.7.8	config	gfl_form_dialog_nodisplay	Groupmax フォー ム表示作業情報があ る場合の確認ダイア ログ表示抑止の指定	ワークフ ロー
2.7.9	config	gfl_first_roleswitch	INBOX でのロール 案件混在表示の指定	ワークフ ロー
2.7.10	config	gfl_distribution_item	INBOX での配布種 別表示の指定	ワークフ ロー
2.7.11	config	gfl_list_attribute	INBOX での属性値 表示の指定	ワークフ ロー
2.7.12	config	gfl_suborg_level	振り替え時のサブ組 織展開階層数の指定	ワークフ ロー
2.7.13	config	gfl_deleteworknoprint	送信ログでの削除さ れたワーク表示の抑 止の指定	ワークフ ロー

2. Groupmax WWW の環境設定

項番	ファイル名	シンボル名	内容	対応するサービス
2.7.14	config	gfl_pullbackwork_noprint	送信ログでの引き戻したワーク表示の抑止の指定	ワークフロー
2.7.15	config	gfl_subbp_list_size	案件配布先リストボックス表示桁数の指定	ワークフロー
2.7.16	config	gfl_mtd_lib_path	ユーザ作成ライブラリへの絶対パスの指定	ワークフロー
2.7.17	config	gfl_mtd_lib_entry	ユーザ作成ライブラリへの連携用関数の指定	ワークフロー
2.8.1	config	gam_scheduler_name	Scheduler Server の IP アドレスの指定	スケジュール
2.8.2	config	gam_scheduler_portnum	Scheduler Server のポート番号の指定	スケジュール
2.8.3	config	gam_facilities_name	Facilities Manager の IP アドレスの指定	スケジュール
2.8.4	config	gam_facilities_portnum	Facilities Manager のポート番号の指定	スケジュール
2.8.5	config	gam_use_mail	スケジュールからの [メール作成] アンカー表示の指定	スケジュール
2.8.6	config	gam_memsel_mode	メンバのスケジュール表示時のアラートダイアログ表示の指定	スケジュール
2.8.7	config	gam_timefind_mode	「空き時間を表示する」チェックボックス表示の指定	スケジュール
2.8.8	config	gam_bosssche_unread	上司の未読スケジュール表示時の保留回答抑止の指定	スケジュール
2.8.9	config	gam_nickname_visible	ニックネームの表示可否の指定	スケジュール
2.8.10	config	gam_fullname_mode	日本語名の表示方法の指定	スケジュール
2.8.11	config	gam_position_visible	役職名の表示の指定	スケジュール
2.8.12	config	gam_positionnumber_display	役職順序番号の表示の指定	スケジュール
2.8.13	config	gam_recvsent_term_mode	受・発信一覧の取得期間の指定	スケジュール

項番	ファイル名	シンボル名	内容	対応するサービス
2.8.14	config	gam_recvsent_term_past	過去分の受・発信一覧の取得期間の指定	スケジュール
2.8.15	config	gam_recvsent_term_future	未来分の受・発信一覧の取得期間の指定	スケジュール
2.8.16	config	gam_disp_datecnt_mode	「本日以降の予定欄」の表示日数モードの指定	スケジュール
2.8.17	config	gam_disp_datecnt	「本日以降の予定欄」の表示日数の指定	スケジュール
2.9.1	services	adnt_ap	ユーザの詳細情報取得の指定	フォーム

注 項番は、2.4 節 ~ 2.9 節の各項番号と対応しています。

システム管理者は、使用するサービスに対応する定義項目に、値を設定してください。特に、ファイル名：config に定義した設定値のことを config パラメタと呼びます。

定義ファイルの修正方法は、ファイルの種類によって異なります。例を参考にして修正してください。定義ファイルを修正する場合は、テキストエディタなどを利用してください。

2.4 共通サービスの定義ファイルの修正

2.4.1 最大ユーザ数の変更

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/conf/wbp.cnf

シンボル名 : MaxProcess

対応するサービス : 共通

Groupmax WWW を同時に使用できるユーザの最大数を指定します。ログアウトし忘れたユーザの数を考え、余裕を持った値にしてください。

MaxProcess の指定が大きくなるほど、必要となるリソースが増加します。メモリの容量などシステムの能力を考慮して値を設定してください。

(例)

```
MaxProcess      10
```

2.4.2 ログアウトし忘れ監視時間の変更

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/conf/wbp.cnf

シンボル名 : MaxSilentTime

対応するサービス : 共通

MaxSilentTime で指定した時間が経過しても WWW ブラウザからのアクセスがない場合、ログアウトし忘れたものとみなされて、そのユーザは自動的にログアウトとなります。この指定値の単位は分です。

(例)

```
MaxSilentTime   10
```

注意事項

メール作成画面や記事作成画面で本文を入力している時間は、Groupmax WWW にアクセスしていませんので自動的にログアウトしてしまいます。本文入力に時間が掛かる場合は、宛先確認などを途中で実施してログアウトしないようにしてください。

また、ログアウトし忘れ監視時間が経過しても、自動的にログアウトされないようにするタイムアウト抑止機能を使用する方法もあります。詳細は、「2.4.34 タイムアウト抑止機能の指定」を参照してください。

2.4.3 I/O 処理監視時間の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/conf/wbp.cnf

シンボル名：MaxIOTime

対応するサービス：共通

WWW ブラウザ上での処理は，MaxIOTime で指定した時間が経過すると自動的にログアウトとなります。この指定値の単位は秒です。

(例)

```
MaxIOTime          60
```

2.4.4 IP アドレスチェックの指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/conf/wbp.cnf

シンボル名：IPAddressChecking

対応するサービス：共通

WWW ブラウザからアクセスがあった時に，アクセス元の IP アドレスをチェックするかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合，「on」が仮定されます。

on：IP アドレスをチェックします。

off：IP アドレスをチェックしません。

(例)

```
IPAddressChecking  on
```

注意事項

モバイル PC など、動的に IP アドレスが割り当てられる場合、HTTP リクエストが発行されるたびに IP アドレスが変わる可能性があるため、この IP アドレスチェックをしないでください。

「IPAddressChecking on」のとき、アクセス元の IP アドレスが変更されると以下の現象が発生します。

ブラウザメッセージ「503 Service Unavailable (SECURITY)」

GmaxWWW イベントログへの出力「KFCC0004-W 通信情報が不正です。」

2.4.5 WWW サーバ URL の変更

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/config/WebPGen.cfg

シンボル名：SERVER_URL

対応するサービス：共通

Groupmax WWW をインストールしたマシンの IP アドレス又はホスト名称を URL の形式で設定します。この設定項目は、インストール時に当該マシンのホスト名が設定され

2. Groupmax WWW の環境設定

ます。使用するプロトコルが HTTP 以外の場合は修正が必要となります。

DNS (Domain Name System) 環境で使用する場合は、ホスト名称を指定してください。

(例)

```
SERVER_URL = http://172.16.58.48
```

```
又は, SERVER_URL = http://hostA
```

```
又は, SERVER_URL = http://WWW.hostA.co.jp
```

2.4.6 アイコンファイルのディレクトリの指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gmax_icon_file_dir

対応するサービス : 共通

Groupmax WWW で使用するアイコンファイルの格納ディレクトリを指定します。URL の「/icon」で参照されるディレクトリ以外の位置にアイコンファイルを格納した場合、gmax_icon_file_dir を指定してください。

gmax_icon_file_dir には、次の例のように、URL として参照される形式でディレクトリを指定してください。

(例)

```
gmax_icon_file_dir=/icons/gmax
```

2.4.7 WWW ブラウザ送信時の文字コードの指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gmax_client_lang

対応するサービス : 共通

WWW ブラウザが、Groupmax WWW に対して文字データを送信する場合の文字コードを指定します。指定できる値を次に示します。

項番	指定できる値	内容
1	auto	漢字コードを自動判定します。
2	sjis	入力された文字をシフト JIS コードとして送信します。
3	jis	入力された文字を JIS コードとして送信します。

項番	指定できる値	内容
4	euc	入力された文字を EUC コードとして送信します。
5	ascii	入力された文字を ASCII コードとして送信します。

指定を省略した場合、「sjis」が仮定されます。

注

シフト JIS コードで記述した半角片仮名は、EUC の漢字の 2 バイトコードの先頭 1 バイトと同じコードが使用されています。このため、値として「auto」を指定した場合、半角片仮名はシフト JIS コードか EUC コードか判定できなくなります。このような場合は、漢字を優先させて EUC と判定して処理します。

(例)

```
gmax_client_lang=sjis
```

2.4.8 MIME タイプの指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gmax_document_mime_type_def

対応するサービス：共通

Groupmax サーバから送られてくるファイルについて、拡張子と MIME タイプの対応付けを指定します。WWW ブラウザからヘルパーアプリケーションを起動させる場合、この指定が必要です。gmax_document_mime_type_def は複数指定できます。例に従って指定してください。

(例)

```
gmax_document_mime_type_def.html=text/html
gmax_document_mime_type_def.txt=text/plain
gmax_document_mime_type_def.exe=application/octet-stream
```

- Word , 及び Excel の場合

```
gmax_document_mime_type_def.doc=application/msword
gmax_document_mime_type_def.xls=application/msexcel
```

- GIF ファイル , 及び JPEG ファイルの場合

```
gmax_document_mime_type_def.gif=image/gif
gmax_document_mime_type_def.jpeg=image/pjpeg
```

gmax_document_mime_type_def を一つも指定しなかった場合、それぞれ次の組み合わせがデフォルト値になります。なお、一つでも値を指定した場合、デフォルト値は無効となるので注意してください。

```
htm : text/html
```

2. Groupmax WWW の環境設定

```
html : text/html
```

```
txt : text/plain
```

以下の拡張子については config.new ファイルに初期値として設定されています。

```
gmax_document_mime_type_def.htm=text/html
```

```
gmax_document_mime_type_def.html=text/html
```

```
gmax_document_mime_type_def.txt=text/plain
```

```
gmax_document_mime_type_def.gif=image/gif
```

```
gmax_document_mime_type_def.jpg=image/pjpeg
```

```
gmax_document_mime_type_def.jpeg=image/pjpeg
```

```
gmax_document_mime_type_def.doc=application/msword
```

```
gmax_document_mime_type_def.xls=application/vnd.ms-excel
```

```
gmax_document_mime_type_def.csv=application/vnd.ms-excel
```

```
gmax_document_mime_type_def.ppt=application/vnd.ms-powerpoint
```

```
gmax_document_mime_type_def.pdf=application/pdf
```

注意事項

MIME タイプの内容は、御利用になるマシンの環境によって異なる場合があります。上述の定義例で意図した動作をしない場合は、以下の操作によって MIME タイプを確認の上、config ファイルの設定を変更するか、又は config ファイルに設定した MIME タイプをブラウザの設定に追加してください。

- Internet Explorer の場合

Windows のファイル Explorer のフォルダオプション（又はオプション）で、ファイルタイプを参照してください。なお、ファイルタイプを参照しても MIME タイプが表示されない場合（Windows 2000 など）は、デフォルトの設定値で御使用願います。

- Netscape Navigator の場合

設定画面で Navigator のアプリケーションの設定を参照してください。

2.4.9 ウィンドウのタイトルバー表示文字列の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gmax_alias_name

対応するサービス : 共通

WWW ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示する文字列を指定します。任意の文字列が指定できます。

指定を省略した場合、「Groupmax」が仮定されます。

(例)

```
gmax_alias_name=Groupmax
```

なお、WWW ブラウザのウィンドウのタイトルバーには、この定義項目で指定した文字列のほか、ニックネームなど、ログインユーザの情報も併せて表示できます。ログインユーザの情報の表示については、「2.4.23 ウィンドウのタイトルバーでのログインユーザ情報表示の指定」を参照してください。

2.4.10 アクセスログの出力先の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gmax_access_log_facility

対応するサービス：共通

アクセスログの出力先を指定します。「LOG_USER」又は「LOG_LOCAL0 ~ LOG_LOCAL7」の値を指定してください。指定を省略した場合、「LOG_LOCAL1」が仮定されます。

値を指定しない（又は「NULL」を指定した）場合、アクセスログは出力されません。gmax_access_log_facility 又は gmax_access_log_level のどちらか一方でも値を指定しない（又は「NULL」を指定した）場合は、アクセスログは出力されなくなります。

(例)

```
gmax_access_log_facility=LOG_USER
```

2.4.11 アクセスログ出力時のレベルの指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gmax_access_log_level

対応するサービス：共通

アクセスログを出力するときのレベルを指定します。「LOG_INFO」、「LOG_ERR」、又は「LOG_WARNING」の値を指定してください。指定を省略した場合、「LOG_INFO」が仮定されます。

値を指定しなかった（又は「NULL」を指定した）場合、アクセスログは出力されません。gmax_access_log_facility 又は gmax_access_log_level のどちらか一方でも値を指定しない（又は「NULL」を指定した）場合は、アクセスログは出力されなくなります。

2. Groupmax WWW の環境設定

(例)

```
gmax_access_log_level=LOG_INFO
```

2.4.12 エラーログの出力先の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gmax_error_log_facility

対応するサービス : 共通

エラーログの出力先を指定します。「LOG_USER」又は「LOG_LOCAL0 ~ LOG_LOCAL7」の値を指定してください。指定を省略した場合、「LOG_LOCAL2」が仮定されます。

値を指定しない(又は「NULL」を指定した)場合、エラーログは出力されません。gmax_access_log_facility 又は gmax_access_log_level のどちらか一方でも値を指定しない(又は「NULL」を指定した)場合は、エラーログは出力されなくなります。

(例)

```
gmax_error_log_facility=LOG_LOCAL2
```

2.4.13 エラーログ出力時のレベルの指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gmax_error_log_level

対応するサービス : 共通

エラーログを出力するときのレベルを指定します。「LOG_INFO」、「LOG_ERR」、又は「LOG_WARNING」の値を指定してください。指定を省略した場合、「LOG_ERR」が仮定されます。

値を指定しない(又は「NULL」を指定した)場合、エラーログは出力されません。gmax_access_log_facility 又は gmax_access_log_level のどちらか一方でも値を指定しない(又は「NULL」を指定した)場合は、エラーログは出力されなくなります。

(例)

```
gmax_error_log_level=LOG_ERR
```

2.4.14 ログインリトライ回数の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gmax_max_login_count

対応するサービス：共通

ログインリトライ回数を指定します。0 ~ 2,147,483,647 の値を指定してください。「0」を指定した場合は、リトライ回数を制限されません。指定を省略した場合、「0」が仮定されます。

(例)

```
gmax_max_login_count=0
```

2.4.15 MIME タイプ指定がない場合のデフォルト値の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gmax_default_mime_type

対応するサービス：共通

Groupmax サーバから送られてくるファイルに対応する拡張子が MIME タイプ (gmax_document_mime_type_def) に指定されていない場合のデフォルト値を指定します。指定を省略した場合、「application/octet-stream」が仮定されます。

(例)

```
gmax_default_mime_type=application/octet-stream
```

2.4.16 アップロードファイルのサイズチェックの指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gmax_upload_file_null_check

対応するサービス：共通

アップロードするファイルのサイズが 0 の場合、エラーとするかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、「off」が仮定されます。

on：エラーとします。

off：エラーとしません。

(例)

```
gmax_upload_file_null_check=on
```

2.4.17 Groupmax Address Server のユーザ認証用ポート番号の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

2. Groupmax WWW の環境設定

シンボル名 : gmax_address_portnum

対応するサービス : 共通

Groupmax Address Server のポート番号を指定します。このポート番号は、ユーザ認証のためのものです。gmax_address_portnum は、必ず指定してください。

(例)

```
gmax_address_portnum=9052
```

2.4.18 Groupmax Address Server の IP アドレス又はホスト名称の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gmax_address_server

対応するサービス : 共通

Groupmax Address Server をインストールしたマシンの IP アドレス又はホスト名称を指定します。DNS 環境で使用する場合は、ホスト名称を指定してください。

gmax_address_server は、必ず指定してください。

(例)

```
gmax_address_server=194.70.139.39
```

2.4.19 ゲストユーザのユーザ名の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gmax_guest_user_name

対応するサービス : 共通

ゲストユーザのユーザ名を指定します。ゲストユーザ用ホームページからアクセスしたユーザは、ここで指定したユーザ名で Groupmax Document Manager Server を利用することになります。指定を省略した場合、ゲストユーザ名は「guest」となります。

なお、ゲストユーザがログインできるようにするためには、そのユーザ名を Groupmax Address Server に登録しておく必要があります。

(例)

```
gmax_guest_user_name=wwwguest
```

2.4.20 ログイン方法の初期設定値の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gmax_nickname_login

対応するサービス：共通

ログイン画面のログイン方法の選択ラジオボタンで、ニックネームとユーザ ID のどちらを初期設定にするかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、「off」が仮定されます。

on：ニックネームを初期設定として表示します。

off：ユーザ ID を初期設定として表示します。

(例)

```
gmax_nickname_login=on
```

2.4.21 環境情報標準値の指定

[環境情報の設定] ダイアログの標準値を指定します。指定した内容は、ダイアログの [標準] アンカーをクリックしたときに表示される値となります。

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

対応するサービス：共通

(1) タイムゾーンの指定

シンボル名：gmax_default_timezone

タイムゾーンを指定します。形式は [環境情報の設定] ダイアログの選択表示形式と同じです。指定を省略した場合、「GMT+09:00」(GMT= 世界標準時) が仮定されます。

(例)

```
gmax_default_timezone=GMT+00:00
```

(2) サマータイムの指定

シンボル名：gmax_default_summer_time

サマータイムを使用するかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、「off」が仮定されます。

on：サマータイムを使用します。

off：サマータイムを使用しません。

(例)

```
gmax_default_summer_time=on
```

(3) サマータイムの時間指定 (時部分)

シンボル名: `gmax_default_summer_hh`

サマータイムの時間 (時部分) を指定します。

00 ~ 23 の範囲で指定してください。

指定を省略した場合, 「01」が仮定されます。

(例)

```
gmax_default_summer_hh=01
```

(4) サマータイムの時間指定 (分部分)

シンボル名: `gmax_default_summer_mm`

サマータイムの時間 (分部分) を指定します。

00 ~ 59 の範囲で指定してください。

指定を省略した場合, 「00」が仮定されます。

(例)

```
gmax_default_summer_mm=00
```

(5) 時刻の表示形式の指定

シンボル名: `gmax_default_time_type`

時刻の表示形式を指定します。形式は, [環境情報の設定] ダイアログの選択表示形式と同じです。

指定を省略した場合, 「hh:mm:ss」が仮定されます。

(例)

```
gmax_default_time_type=hh:mm
```

(6) 午前 / 午後の表示形式の指定

シンボル名: `gmax_default_time_def`

午前 / 午後の表示形式を指定します。形式は, [環境情報の設定] ダイアログの選択表示形式と同じです。

指定を省略した場合, 「AM/PM」が仮定されます。

(例)

```
gmax_default_time_def= 午前 / 午後
```

(7) 日付の表示形式の指定

シンボル名 : `gmax_default_date_type`

日付の表示形式を指定します。形式は、[環境情報の設定] ダイアログの選択表示形式と同じです。

指定を省略した場合、「yyyy/mm/dd」が仮定されます。

(例)

```
gmax_default_date_type=mm/dd
```

(8) 暦の表示形式の指定

シンボル名 : `gmax_default_cal_type`

暦の表示形式を指定します。形式は、[環境情報の設定] ダイアログの選択表示形式と同じです。次のどちらかの値を指定してください。

指定を省略した場合、「0」が仮定されます。

0 : 暦を西暦で表示します。

1 : 暦を和暦で表示します。

(例)

```
gmax_default_cal_type=1
```

(9) 背景色の指定

シンボル名 : `gmax_default_backcolor`

ログイン・ログアウト時を除く、Groupmax WWW の画面の背景色を指定します。

指定を省略した場合、「white」(白)が仮定されます。

値として指定できる文字列は、背景色の定義項目で定義されています。背景色の定義については、「2.4.22 環境情報背景色の指定」を参照してください。

(例)

```
gmax_default_backcolor=white
```

(10) ユーザ名称の表示形式の指定

シンボル名 : `gmax_default_username_type`

リストビューなどで表示されるユーザ名称の形式を指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、「off」が仮定されます。

on : 日本語名称 (フルネーム) で表示されます。

2. Groupmax WWW の環境設定

off : ニックネームで表示されます。

(例)

```
gmax_default_username_type=off
```

(11) ツリービューの表示形式の指定

シンボル名 : gmax_default_tree_focus

ツリービューで、他の先頭アイテムに移動したときに、開いているアイテムを自動的に閉じるかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、「on」が仮定されます。

on : 他の先頭アイテムに移動した場合、開いているアイテムを自動的に閉じます。

off : 他の先頭アイテムに移動しても、開いているアイテムは開いたままです。

(例)

```
gmax_default_tree_focus=on
```

(12) リストビューでのアイコンの表示形式の指定

シンボル名 : gmax_default_list_icon_type

リストビューでの各アイテムに対し、アイコンをどのように表示するかを指定します。次の値のどれかを指定してください。指定を省略した場合、「icon」が仮定されます。

icon : アイコンだけを表示します。

string : 文字列だけを表示します。

both : アイコンと文字列の両方を表示します。

(例)

```
gmax_default_list_icon_type=icon
```

(13) 着信監視利用の指定

シンボル名 : gmax_default_arrive_report

着信監視を利用するかどうか指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、「off」が仮定されます。

on : 着信監視を利用します。

off : 着信監視を利用しません。

(例)

```
gmax_default_arrive_report=off
```

(14) 着信監視の間隔の指定

シンボル名: `gmax_default_arrive_polling`

着信監視の間隔を分単位で指定します。

指定を省略した場合、又は0以下の値を指定した場合、「5」が仮定されます。

(例)

```
gmax_default_arrive_polling=5
```

(15) メールに着信監視の指定

シンボル名: `gmax_default_arrive_target.mail`

着信監視にメールを対象とするかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、「on」が仮定されます。

on: メールを着信監視の対象とします。

off: メールを着信監視の対象としません。

(例)

```
gmax_default_arrive_target.mail=on
```

(16) ワークフローに着信監視の指定

シンボル名: `gmax_default_arrive_target.workflow`

着信監視にワークフローを対象とするかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、「on」が仮定されます。

on: ワークフローを着信監視の対象とします。

off: ワークフローを着信監視の対象としません。

(例)

```
gmax_default_arrive_target.workflow=on
```

(17) 起動時のカレンダー表示の指定

シンボル名: `gmax_default_calendar_view_hide`

起動時にカレンダーを表示するかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、「off」が仮定されます。

on: カレンダーを表示しません。

off: カレンダーを表示します。

(例)

2. Groupmax WWW の環境設定

```
gmax_default_calendar_view_hide=off
```

(18) Groupmax コンテンツの表示 / 非表示の指定

シンボル名 : gmax_default_content_view_hide

ツリービューで、[Groupmax コンテンツの表示] 領域を表示するかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、「off」が仮定されません。

on : [Groupmax コンテンツの表示] 領域を表示しません。

off : [Groupmax コンテンツの表示] 領域を表示します。

(例)

```
gmax_default_content_view_hide=off
```

(19) リストビューの表示形式の指定

シンボル名 : gmax_light_list_mode

リストビューで、フレームを使用するかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、「off」が仮定されます。

on : フレームを使用しません。

off : フレームを使用します。

(例)

```
gmax_light_list_mode=off
```

(20) ログイン時のリストビューへの INBOX 表示指定

シンボル名 : gmax_default_list_inbox

ログイン時のリストビューへの INBOX 表示を指定します。

次のどちらかを指定してください。指定を省略した場合、「off」が仮定されます。ただし、guest モードのログインユーザに対しては、on 設定は無効となります。

on : INBOX を表示します。

off : 新着情報を表示します。

(例)

```
gmax_default_list_inbox=off
```

(21) 起動時のカテゴリー一覧の表示指定

シンボル名 : gmax_default_category_view_hide

起動時のカテゴリ一覧の表示を指定します。

次のどちらかを指定してください。指定を省略した場合、「off」が仮定されます。

on : カテゴリ一覧を表示しません。

off : カテゴリ一覧を表示します。

(例)

```
gmax_default_category_view_hide=off
```

2.4.22 環境情報背景色の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gmax_environment_backcolor.X

対応するサービス : 共通

[環境情報の設定] ダイアログの [背景色] コンボボックスで指定する背景色を定義します。背景色は複数定義できます。

X には、HTML で色を指定する文字列が入ります。

値には、[環境情報の指定] ダイアログの [背景色] コンボボックスに表示される文字列を指定します。

(例)

```
gmax_environment_backcolor.white= 白
```

2.4.23 ウィンドウのタイトルバーでのログインユーザ情報表示の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gmax_title_format

対応するサービス : 共通

Groupmax WWW を使用している WWW ブラウザのすべてのウィンドウには、タイトルバーに、画面タイトルの情報や、ログインユーザのニックネームなどのユーザ情報を表示できます。表示する情報の形式は、gmax_title_format で指定します。

値には、タイトルバーに表示する情報を変数の形式で指定します。ユーザ情報を複数表示したい場合は、変数を並列して記述できます。

指定を省略した場合、「\$title」が仮定されます。

gmax_title_format で指定する変数と表示されるログインユーザ情報を、表 2-2 に示しま

2. Groupmax WWW の環境設定

す。

表 2-2 gmax_title_format で指定できる変数と表示されるログインユーザ情報

項番	変数	認証モード		
		一般ユーザ	ゲストユーザ	有効期限切れパスワード変更モード
1	\$title	画面タイトル	画面タイトル	画面タイトル
2	\$nickname	ニックネーム	"guest"	-
3	\$username	名前	"guest"	-
4	\$orgname	組織名称 (日本語)	-	-
5	\$eng_orgname	組織名称 (英語)	-	-
6	\$eng_firstname	英語名	-	-
7	\$eng_surname	英語姓	-	-
8	\$position	役職	-	-

(凡例) - : 表示なし

(例)

```
gmax_title_format=$title [$username]
```

タイトルバーの表示例 (一般ユーザでログインした場合)

Groupmax 案件投入 [日立 太郎]

なお、WWW ブラウザのウィンドウのタイトルバーには、gmax_title_format で指定するユーザ情報などの情報以外に、gmax_alias_name で指定する任意の文字列が表示されません。gmax_alias_name の指定については、「2.4.9 ウィンドウのタイトルバー表示文字列の指定」を参照してください。

2.4.24 パスワードの有効期限を通知する日数の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gmax_password_term

対応するサービス : 共通

パスワード有効期限を何日前から通知するかを数値で指定します。指定を省略した場合、「3」が仮定されます。

(例)

```
gmax_password_term=3
```

2.4.25 パスワードの有効期間を表示するフォーマットの指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gmax_password_format_day

対応するサービス：共通

パスワードの有効期間の表示方法を指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、「off」が仮定されます。

on：日数だけを表示します。

「パスワード有効期間はあと n 日です。」(n：正数)

off：日数と時間を表示します。

「パスワード有効期間はあと n 日と n 時間です。」(n：正数)

(例)

```
gmax_password_format_day=off
```

2.4.26 JavaScript ファイルのディレクトリの指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gmax_script_file_dir

対応するサービス：共通

Groupmax WWW で使用する JavaScript ファイルの格納ディレクトリを指定します。URL の「/script」で参照されるディレクトリ以外の位置に JavaScript ファイルを格納した場合、gmax_script_file_dir を指定してください。

gmax_script_file_dir には、URL として参照される形式でディレクトリを指定してください。

(例)

```
gmax_script_file_dir=/script/gmax
```

2.4.27 個人属性保存先ディレクトリの指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gmax_attribute_dir

対応するサービス：共通

個人属性保存先を指定します。

2. Groupmax WWW の環境設定

任意のディレクトリをフルパスで指定してください。

指定がない場合、/groupmax/gmaxwww/tmp 下となります。

(例)

```
gmax_attribute_dir=/attribute
```

2.4.28 アクセスログファイルの取得サイズの指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/adm/gmax.cnf

シンボル名：gmax_access_log_swap_size

対応するサービス：共通

アクセスログファイルの取得サイズをバイト単位で指定します。1,048,576 ~ 2,147,483,647 の範囲の値を指定してください。1,048,576 以下の値を指定した場合、又は指定を省略した場合は「1048576」が仮定されます。

(例)

```
gmax_access_log_swap_size=1048576
```

注意事項

アクセスログファイルは、指定したサイズを超えるとファイル名が「access.log」から「access_old.log」に変わります。

2.4.29 エラーログファイルの取得サイズの指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/adm/gmax.cnf

シンボル名：gmax_error_log_swap_size

対応するサービス：共通

エラーログファイルの取得サイズをバイト単位で指定します。1,048,576 ~ 2,147,483,647 の範囲の値を指定してください。1,048,576 以下の値を指定した場合、又は指定を省略した場合は「1048576」が仮定されます。

(例)

```
gmax_error_log_swap_size=1048576
```

注意事項

エラーログファイルは、指定したサイズを超えるとファイル名が「error.log」から「error_old.log」に変わります。

2.4.30 カテゴリの終了をクリックしないでブラウザを終了したときのログアウト実行方法の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gmax_logout_type

対応するサービス：共通

カテゴリ領域の [終了] アンカーをクリックしないで, [×] ボタンなどによってブラウザを終了したときに, 自動ログアウトを実行するかどうかを指定します。指定を省略した場合は, 「regular」が仮定されます。

regular：ログアウト処理を行いません。

auto：自動ログアウトします。

dialog：ログアウトを実行するかしないかの指定ダイアログを表示します。

(例)

```
gmax_logout_type=dialog
```

注意事項

- WWW ブラウザに Netscape Communicator を御使用の場合, 「auto」又は「dialog」を指定しても, ブラウザ終了時のログアウト処理は動作しません。
- 「auto」及び「dialog」を指定した場合は, WWW ブラウザの「再表示」ボタンを実行したとき, 又はほかの Web サイトに移動したときにも, ログアウト処理又はダイアログ表示がされます。

2.4.31 Internet Explorer 外でダウンロードファイルを開く拡張子の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gmax_document_attachment

対応するサービス：共通

ファイルの拡張子別に, HTTP ヘッダに Content-Disposition ヘッダ追加を指定します。ヘッダの追加は, 「gmax_document_attachment= 拡張子」として定義した拡張子のファイルに対して行われます。なお, 以下の拡張子については config.new ファイルに初期値として設定されています。

```
gmax_document_attachment=doc
```

```
gmax_document_attachment=xls
```

```
gmax_document_attachment=csv
```

2. Groupmax WWW の環境設定

```
gmax_document_attachment=ppt
```

```
gmax_document_attachment=pdf
```

このシンボルは Internet Explorer 4, 又は Internet Explorer 5 を御使用の場合に, メールやワークフロー案件に添付されているファイルや, 文書管理に登録されているファイルを左クリックして開いたとき, 以下のどれかの事象が発生して, ファイルのオープンやダウンロードが正常に行えない問題を回避するために指定します。

1. 添付ファイルの内容が Groupmax のログイン認証画面のようなものになっている。
2. ブラウザ内に「ページを表示できません」のメッセージが表示されてエラーとなる。
3. 添付ファイルを開いているアプリケーションを終了させると, アプリケーションエラーとなる。
4. 添付ファイルの内容を表示する画面が一瞬開くが, すぐに閉じる。
5. 拡張子が欠落する。
6. ファイル名称が無意味な英数字になる。

ブラウザでの操作

- 添付ファイル, 又は登録されている文書ファイルを左クリックします。
- ファイルのダウンロードダイアログが表示されるので, 「開く」を選択して [OK] ボタンをクリックします。
- キャッシュファイルへのダウンロードが実行された後, 別ウィンドウでアプリケーションが起動されます。

注意事項

- クライアント PC の設定で, 該当する拡張子の設定が「ダウンロード時に確認する」となっている場合, ダウンロード画面が 2 回表示されます。
- 定義で設定した拡張子のファイルは該当するアプリケーションによって別ウィンドウで表示されます。
- Internet Explorer 4.01 SP1, 及び SP2 を御使用の場合, この指定を行ってもファイルのダウンロード画面は表示されません。
Internet Explorer 5.5 SP1 を御使用の場合, ファイルのダウンロード画面が 2 回 (該当する拡張子の設定が「ダウンロード時に確認する」となっている場合は 3 回) 表示されます。1 回目のダウンロード画面では必ず「開く」を選んでください。

2.4.32 別ウィンドウを開く拡張子の指定

ファイル名: /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名: gmax_document_window_open

対応するサービス: 共通

メールやワークフロー案件に添付されているファイルや, 文書管理に登録されているファイルを左クリックして開いた場合に別ブラウザウィンドウを開く拡張子を指定しま

す。このシンボルが指定されていないデフォルトの状態では、拡張子が txt, htm, html, gif, jpg, jpeg の添付ファイルをクリックした場合に別ブラウザウィンドウを開いて添付ファイルの内容を表示します。

(例)

```
gmax_document_window_open=png
```

注意事項

このシンボルを 1 個でも指定した場合は、デフォルトの指定値はすべて無効になります。別ウィンドウで表示したい拡張子を追加する場合は、デフォルトの txt, htm, html, gif, jpg, jpeg についても漏れなく指定してください。

2.4.33 フォントの拡大の指定

ファイル名: /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名: gmax_font_size

対応するサービス: 共通

標準サイズのアイコン及びスタイルシートを使用するか、拡大版のアイコン及びスタイルシートを使用するかを指定します。

指定を省略した場合は、「normal」が仮定されます。

normal: 標準サイズのアイコン, スタイルシートを使用します。

large: 拡大版のアイコン, スタイルシートを使用します。

(例)

```
gmax_font_size =normal
```

注意事項

- このシンボルを指定又は変更する場合は、以下の操作も同時に行う必要があります。

【large を指定する場合】

1. スタイルシートファイルの差し替え
 拡大版のスタイルシートは、/groupmax/gmaxwww/sample/css/DEFAULT.css です。このファイルを /groupmax/gmaxwww/script/DEFAULT.css と差し替えます。
 /groupmax/gmaxwww/script/DEFAULT.css は、標準サイズに戻す場合に必要となるスタイルシートなので、差し替える前に必ずバックアップを作成してください。
2. WWW サーバのアイコン用仮想パスの内容変更
 「2.10.3 アイコンファイルのディレクトリの設定」で説明する、Groupmax のホームページで使用するアイコンファイルのディレクトリを次のディレク

2. Groupmax WWW の環境設定

トリに変更します。

`/groupmax/gmaxwww/icon_large`

【normal を指定する場合】

1. スタイルシートファイルの差し替え
バックアップしておいた標準のスタイルシートを `/groupmax/gmaxwww/script/DEFAULT.css` と差し替えます。
2. WWW サーバのアイコン用仮想パスの内容変更
「2.10.3 アイコンファイルのディレクトリの設定」で説明する、Groupmax のホームページで使用するアイコンファイルのディレクトリを次のディレクトリに変更します。
`/groupmax/gmaxwww/icon`

【ブラウザでの注意事項】

ブラウザにキャッシュされている `DEFAULT.css` やアイコン画像が使用されると画面表示が正しく行われな場合がありますので、ブラウザのキャッシュをクリアしてください。

2.4.34 タイムアウト抑止機能の指定

ファイル名：`/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config`

シンボル名：`gmax_timeout_interval`

対応するサービス：共通

コンテンツ画面表示中に `MaxSilentTime` で指定した時間が経過しても、自動ログアウトされないようにしたい場合に指定します。この機能が有効となるコンテンツ画面は「メール作成画面」と「記事作成画面」です。

値に 0 を指定した場合は自動ログアウトの抑止は行いません。

指定を省略した場合は、「0」が仮定されます。

自動ログアウトを抑止する場合は `MaxSilentTime` の半分以下の値を設定します。

(例)

```
gmax_timeout_interval=5
```

注意事項

この機能は設定された値の間隔（分単位）でサーバとログイン維持の通信を行うことで自動ログアウトを抑止しています。このためネットワークに一定の負荷が掛かります。

2.4.35 先行ログインセッションの強制終了の指定

ファイル名：`/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config`

シンボル名 : `gmax_after_login_notify`

対応するサービス : 共通

同一ユーザ ID で (多重) ログインされた場合に、先行ログインセッションを強制終了させるかどうかを指定します。

指定を省略した場合は「off」が仮定されます。

on : 先行ログインセッションを強制終了させます。

off : 先行ログインセッションを強制終了させません。

(例)

```
gmax_after_login_notify=on
```

注意事項

on を設定時は「2.6.1(3)Groupmax Address Server への後着優先ログインの指定」(`gml_login_reconnect`) を YES に設定してください。

2.4.36 メイン画面のツリービュー及びリストビューのサイズ指定

ファイル名 : `/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config`

シンボル名 : `gmax_main_frame_layout`

対応するサービス : 共通

メイン画面のツリービュー、リストビューの各フレームサイズを設定します。省略時は、「258,165,80,145,50,125,290,220,105,182,50,146」が仮定されます。

シンボル設定時の各パラメタは 1 ~ 3 桁の符号なし 10 進数字を指定し、各パラメタの省略はできません。単位はピクセル数を示します。なお、通常フォント、拡大フォントとは「2.4.33 フォントの拡大の指定」(`gmax_font_size`) でそれぞれ

`gmax_font_size=normal` 指定時は通常フォント、`gmax_font_size=large` 指定時は拡大フォントであることを示します。

第 1 パラメタ = 通常フォント時のツリービューの横幅

第 2 パラメタ = 通常フォント時のカテゴリ部の高さ (カテゴリを表示する場合)

第 3 パラメタ = 通常フォント時のカテゴリ部の高さ (カテゴリを表示しない場合)

第 4 パラメタ = 通常フォント時のカレンダー部の高さ

第 5 パラメタ = 通常フォント時のコンテンツ表示部の高さ

第 6 パラメタ = 通常フォント時のリストビューヘッダ部の高さ

2. Groupmax WWW の環境設定

第 7 パラメタ = 拡大フォント時のツリービューの横幅

第 8 パラメタ = 拡大フォント時のカテゴリ部の高さ (カテゴリを表示する場合)

第 9 パラメタ = 拡大フォント時のカテゴリ部の高さ (カテゴリを表示しない場合)

第 10 パラメタ = 拡大フォント時のカレンダー部の高さ

第 11 パラメタ = 拡大フォント時のコンテンツ表示部の高さ

第 12 パラメタ = 拡大フォント時のリストビューヘッダ部の高さ

(例)

```
gmax_main_frame_layout=258,165,80,145,50,125,290,220,105,182,50,146
```

注意事項

ブラウザに Windows 版 Internet Explorer 及び Netscape Communicator を使用する場合の推奨値をデフォルト値としています。ブラウザに Macintosh 版 Netscape Communicator4.7 を使用する場合は

gmax_main_frame_layout=270,165,80,178,50,132,336,240,110,220,50,156 を推奨します。

2.4.37 添付ファイルを開くときのセキュリティレベルの指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gmax_open_file_security_level

対応するサービス : 共通

ブラウザが Internet Explorer の場合、添付されたファイルに JavaScript などが記述されていると、WWW ブラウザでファイルを開いたときに、その内容が実行されるというセキュリティホールがあります。このセキュリティホールを回避するために Groupmax コンテンツファイル以外の添付ファイルを開くときのセキュリティレベルを設定します。省略時は「low」が仮定されます。設定できるセキュリティレベルは low,middle,high の 3 種類です。各レベルでの動作はブラウザによって異なります。

御利用になる WWW ブラウザが Internet Explorer 4.x の場合は、この指定に関係なく WWW ブラウザでファイルを開いてしまうセキュリティ上の問題がありますので、Internet Explorer はバージョン 5 以降の御利用を推奨します。

WWW ブラウザが Internet Explorer の場合を、表 2-3 に示します。また、WWW ブラウザが Netscape Communicator の場合を、表 2-4 に示します。

表 2-3 WWW ブラウザが Internet Explorer の場合

gmax_open_file_security_level	gmax_document_attachment に指定されていないファイルタイプ	gmax_document_attachment に指定されているファイルタイプ
low	WWW ブラウザでファイルを開く ¹	WWW ブラウザ外でファイルを開く ¹
middle	Groupmax コンテンツ以外の [ファイル操作] ダイアログを表示し処理方法を問い合わせる ^{2 3}	
high	WWW ブラウザ外でファイルを開く ¹	

注 1 Internet Explorer 4.x ではどちらの指定でも WWW ブラウザでファイルを開いてしまいます。添付ファイルをディスクに保存するときは、対象ファイルのアンカーを右クリックして「対象をファイルに保存」を選んでください。

注 2 Internet Explorer 4.x では選択したラジオボタンにかかわらず WWW ブラウザでファイルを開いてしまいます。添付ファイルをディスクに保存するときは [キャンセル] アンカーで [ファイル操作] ダイアログを閉じ、対象ファイルのアンカーを右クリックして「対象をファイルに保存」を選んでください。

注 3 添付ファイルのアンカーを右クリックで保存した場合は、添付ファイルではなく、左クリック時に表示されるファイル操作 (セキュリティ確認) 画面の HTML がダウンロードされます。また、Internet Explorer 4.x を御使用の環境では、左クリックは必ず「ファイルを開く」操作となるため、添付ファイルを保存することができなくなります。Internet Explorer 4.x を御使用の環境、及び右クリックでのファイルの保存をする場合は、middle を指定しないで、low 又は high を指定してください。

表 2-4 WWW ブラウザが Netscape Communicator の場合

gmax_open_file_security_level	gmax_document_attachment に指定されていないファイルタイプ	gmax_document_attachment に指定されているファイルタイプ
low	WWW ブラウザでファイルを開く ¹	WWW ブラウザでファイルを開く (ただし、Content-Disposition の HTTP ヘッダを付加する) ¹
middle	Groupmax コンテンツ以外の [ファイル操作] ダイアログを表示し処理方法を問い合わせる ^{2 3}	
high	WWW ブラウザでファイルを開く (ただし、gmax_document_attachment が指定されている場合と同等の HTTP ヘッダを付加する) ¹	

注 1 ブラウザの「アプリケーション」で設定された動作が実行されます。ファイルをディスクに保存するときは、対象ファイルのアンカーを右クリックして、「リンクを名前を付けて保存」を選ん

2. Groupmax WWW の環境設定

てください。

注 2 選択したラジオボタンにかかわらず、ブラウザの「アプリケーション」で設定された動作が実行されます。ファイルをディスクに保存するときは [キャンセル] アンカーで [ファイル操作] ダイアログを閉じ、対象ファイルのアンカーを右クリックして、「リンクを名前を付けて保存」を選んでください。

注 3 添付ファイルのアンカーを右クリックで保存した場合は、添付ファイルではなく、左クリック時に表示されるファイル操作（セキュリティ確認）画面の HTML がダウンロードされます。このため、ブラウザの設定によっては、添付ファイルを保存することができなくなる場合があります。Netscape Communicator を御使用の環境では、middle を指定しないで、low 又は high を指定してください。

Groupmax コンテンツ以外の [ファイル操作] ダイアログを、図 2-6 に示します。

図 2-6 Groupmax コンテンツ以外の [ファイル操作] ダイアログ



2.4.38 特定機能抑止の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : `gmax_noprint_option`

対応するサービス : 共通

標準テンプレートの特定の機能を抑止する場合に指定します。

`noenter` :

- Netscape Communicator を使用している場合 , [Enter] キーを押してのログインを抑止します。
- Windows 版 Netscape Communicator 4.73 以前の Netscape Communicator を使用するとき , 全角文字のニックネームでログインできない現象を回避するための指定です。
- Windows 版 Netscape Communicator 4.73 以前の Netscape Communicator を WWW ブラウザとして使用しない場合は , 指定しないでください。
- このオプションを指定して , Netscape Communicator を使用する場合は , [Enter] キーを押してのログインを行うことができないため , [ログイン] ボタンを押してログインするようにしてください。

(例)

```
gmax_noprint_option=noenter
```

2.4.39 新着監視画面の再表示を抑止する指定

ファイル名 : `/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config`

シンボル名 : `gmax_arrive_reset_timing`

対応するサービス : メール

[着信監視] の指定で「着信通知を行う」設定がされている場合 , 新着メールが到着すると新着監視画面が表示されます。このとき , 受信メール一覧を参照しないで新着監視画面を閉じると , 新着メールが到着しなくても , 着信監視時間が経過すると , 新着監視画面が再表示されます。

このような場合に , 新着メールが到着するまで , 新着監視画面を再表示しないようにするかどうかを指定します。

指定を省略した場合は , 「inbox」が仮定されます。

`dialog` :

新着メールが到着するまで , 新着監視画面が再表示されません。

`inbox` :

新着メールが到着しなくても , 着信監視時間が経過すると , 新着監視画面が再表示されます。

(例)

2. Groupmax WWW の環境設定

```
gmax_arrive_reset_timing=dialog
```

注意事項

- 着信監視時間を経過しなくても、受信メール一覧及び案件一覧を参照しないでカテゴリを変更すると、新着監視画面は再表示されます。
- 新着監視画面が表示された後で、受信メール一覧及び案件一覧を参照してから新着監視画面を閉じた場合は、新着メール又は新着案件が到着するまで新着監視画面は再表示されません。
- この指定は、メールの新着監視を行っている場合だけ有効となります。ワークフロー案件の新着監視を行っている場合は、gmax_arrive_reset_timing=dialogの指定であっても、新着監視画面の再表示を抑制できません。

2.4.40 ツリーアイテムのクリックで下位階層を開くようにする指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gmax_open_tree_by_item_click

対応するサービス：掲示板

ツリーアイテムをクリックした場合に、下位階層のアイテムを開くかどうかを指定します。下位階層のアイテムが既に開かれている場合は、ツリーの表示を変更しません。

この指定は、掲示板のアイテムを対象にしています。

board :

[デスクトップ] カテゴリの [掲示板] アイテム下の各掲示板名のアンカーをクリックすると、右のリストビューに記事の一覧を表示するとともに、クリックしたアイテムの下位にあるツリーを同時に開きます。

[デスクトップ] カテゴリからマイデスクトップへ登録した [掲示板] アイテムも、同じ動作になります。

bboard :

[掲示板] カテゴリの [掲示板] アイテム下の各掲示板名のアンカーをクリックすると、右のリストビューに記事の一覧を表示するとともに、クリックしたアイテムの下位にあるツリーを同時に開きます。

[掲示板] カテゴリからマイデスクトップへ登録した [掲示板] アイテムも、同じ動作になります。

(例)

```
gmax_open_tree_by_item_click =board
```

```
gmax_open_tree_by_item_click =bboard
```

注意事項

- [+] ボタンを押すと、従来どおり下位階層のアイテムを開く又は閉じることがで

きます。

- 下位階層のアイテムが多い場合、画面の表示が遅いときがあります。
- [デスクトップ] カテゴリの [掲示板] アイテムと [掲示板] カテゴリの両方を表示する運用¹で、このオプションを指定する場合は、

`gmax_open_tree_by_item_click =board` と `gmax_open_tree_by_item_click =bboard` を同時に指定することをお勧めします。

片方だけが指定されていると、[掲示板] アイテムをマイデスクトップへ登録した場合に、[デスクトップ] カテゴリから登録したものと [掲示板] カテゴリから登録したものでは動作が異なります。マイデスクトップへ登録した [掲示板] アイテムは表示上区別がつかないため、異なる動作が混在すると、ユーザが混乱するおそれがあります。

注 1 [デスクトップ] カテゴリの [掲示板] アイテムと、[掲示板] カテゴリの表示の設定については、「2.6.2(10) [掲示板] カテゴリを表示しない指定」又は「2.6.2(11) [デスクトップ] カテゴリの [掲示板] アイテムを表示しない指定」を参照してください。

2.5 「文書管理」サービスの定義ファイルの修正

2.5.1 Document Manager Server のポート番号の指定

ファイル名 : `services`

シンボル名 : `infoshare`

対応するサービス : 文書管理

Groupmax Document Manager Server を使用する場合、そのポート番号をサービス名ファイル (`services`) に登録する必要があります。サービス名は `infoshare` としてください。

(例)

```
infoshare      40005/tcp
```

2.5.2 Document Manager Server の IP アドレスの指定

ファイル名 : `/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config`

シンボル名 : `gis_server_name`

対応するサービス : 文書管理

Groupmax Document Manager Server をインストールしたマシンの IP アドレスを指定します。ホスト名ファイル (`hosts`) にホスト名と IP アドレスを登録している場合、そのホスト名を指定できます。このパラメタが指定されていない場合は該当するユーザについて、Groupmax Address Server に登録されている Groupmax Document Manager ホームサーバに接続します。

指定を省略した場合、ログインユーザのホームサーバに接続します。通常は、この項目は指定を省略してください。

(例)

```
gis_server_name=194.70.139.39
```

2.5.3 文書データベースの OID の指定

ファイル名 : `/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config`

シンボル名 : `gis_class_oid`

対応するサービス : 文書管理

文書管理を使用する場合に、スキーマ管理をする文書データベースの OID (Object ID) を指定します。スキーマ管理をする文書データベースとしてシステム文書データベース以外を設定する場合に必要です。

指定を省略した場合、ホームサーバのシステム文書データベースが仮定されます。通常は、この項目は指定を省略してください。

(例)

```
gis_class_oid=C000000000000162
```

2.5.4 検索条件指定がない場合の動作モードの指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gis_no_cond_search

対応するサービス : 文書管理

一般文書データベースを検索する場合に、検索条件の指定がない場合の動作モードを指定します。

次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、「all_hit」が仮定されます。

all_hit :

検索条件の指定がない場合は、全文書が検索されます。

error :

検索条件の指定がない場合は、エラーとなります (エラーメッセージ : KFCG2232-S)。

(例)

```
gis_no_cond_search=error
```

2.5.5 Groupmax サーバから文書を取り出すときのモードの設定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gis_client_uncompress

対応するサービス : 文書管理

Groupmax サーバで文書を圧縮して管理している場合、文書を Groupmax サーバから Groupmax WWW に取り出すときに、その文書を Groupmax サーバ又は Groupmax WWW で伸長する必要があります。Groupmax WWW 上でファイルを伸長した場合、ファイルを圧縮したまま Groupmax WWW へ取り出すため、Groupmax WWW と

2. Groupmax WWW の環境設定

Groupmax サーバ間の通信量が削減されます。

次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、「off」が仮定されます。

on :

Groupmax サーバから圧縮形式のまま Groupmax WWW へ取り出して、Groupmax WWW 上でファイルを伸長します。

off :

Groupmax サーバで伸長してから、Groupmax WWW に取り出します。

(例)

```
gis_client_uncompress=off
```

2.5.6 Groupmax サーバへ文書を登録するときのモードの設定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gis_compress_upload

対応するサービス : 文書管理

Groupmax サーバで文書を圧縮して管理している場合、Groupmax WWW から Groupmax サーバへ文書を登録するときに、その文書を Groupmax サーバ又は Groupmax WWW で圧縮する必要があります。Groupmax WWW 上でファイルを圧縮した場合、ファイルを圧縮してからサーバに登録するため、Groupmax WWW と Groupmax サーバ間の通信量が削減されます。

次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、「off」が仮定されます。

on : Groupmax WWW で圧縮した文書を Groupmax サーバへ登録します。

off : Groupmax サーバで文書を圧縮します。

(例)

```
gis_compress_upload=off
```

2.5.7 圧縮対象のファイルの拡張子の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gis_compress_suffix

対応するサービス : 文書管理

Groupmax サーバで文書を圧縮して管理している場合、Groupmax WWW から

Groupmax サーバへ文書を登録するときに、Groupmax WWW で圧縮するファイルの拡張子を指定します。

(Word で作成したファイルを圧縮する場合の指定例)

```
gis_compress_suffix=doc
```

2.5.8 文書所有者名削除時の表示文字列の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gis_delete_user_alias

対応するサービス : 文書管理

文書の所有者、更新者が Groupmax Address Server から削除されている場合、所有者名欄に代わりに表示する文字列を指定します。指定を省略した場合、「*」が仮定されます。

(例)

```
gis_delete_user_alias=*
```

2.5.9 日付属性表示形式の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gis_init_date_space

対応するサービス : 文書管理

日付属性の値が 0 の場合に表示する形式を指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、「off」が仮定されます。

on : 何も表示しません。

off : 日付を日付文字列形式に変換して表示します。

(例)

```
gis_init_date_space=off
```

2.5.10 Document Manager Server のホスト名の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gis_getdoc_server

対応するサービス : 文書管理

Groupmax Document Manager Server で管理されている文書ファイルを、Groupmax

2. Groupmax WWW の環境設定

の認証なしで取得 (ISgetdoc メソッドを使用) する場合の, Groupmax Document Manager Server のホスト名を指定します。指定を省略した場合, 「localhost」が仮定されます。

(例)

```
gis_getdoc_server=localhost
```

2.5.11 Document Manager Server のユーザ名の指定

ファイル名: /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名: gis_getdoc_user

対応するサービス: 文書管理

Groupmax Document Manager Server で管理されている文書ファイルを, Groupmax の認証なしで参照 (ISgetdoc メソッド及び Isgetdocmulti メソッドを使用) する場合の, Groupmax Document Manager Server へのログインユーザ ID を指定します。指定を省略した場合, 「guest」が仮定されます。

(例)

```
gis_getdoc_user=guest
```

2.5.12 外部フィルタプログラム名の指定

ファイル名: /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名: gis_getdoc_filter

対応するサービス: 文書管理

Groupmax Document Manager Server で管理されている文書ファイルを, Groupmax の認証なしで参照 (ISgetdoc メソッド及び Isgetdocmulti メソッドを使用) する場合の, 外部フィルタプログラム名を絶対パス名で指定します。

(例)

```
gis_getdoc_filter=/BIN/FILTER.EXE
```

2.5.13 新規文書作成時のフォルダの指定

ファイル名: /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名: gis_create_doc_folder

対応するサービス: 文書管理

新規文書作成時, フォルダ指定がない場合の格納フォルダを指定します。次のどちらか

の値を指定してください。指定を省略した場合、「default」が仮定されます。

default :

Groupmax Document Manager Server のデフォルトフォルダに文書を作成します。

root :

root フォルダに文書を作成します。

(例)

```
gis_create_doc_folder=default
```

2.5.14 文書一覧のソートキーとなる属性の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gis_list_sort_item

対応するサービス : 文書管理

文書一覧画面でのソートキーとなる属性名を指定します。

属性名の指定を省略した場合は「IS_modify_time」(更新日時)が仮定されます。

指定できる属性名を次に示します。

IS_object_name : 文書名がソートキーになります。

IS_create_time : 作成日時がソートキーになります。

IS_modify_time : 更新日時がソートキーになります。

IS_file_size : 文書のファイルサイズがソートキーになります。

IS_file_name : 文書のファイル名がソートキーになります。

IS_comment : コメントがソートキーになります。

ユーザ属性 : ユーザ属性がソートキーになります。

(例)

```
gis_list_sort_item=IS_modiy_time
```

2.5.15 リストビューに表示する属性の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gisd_list_item.\$表示番号.[\$属性表示名称]

対応するサービス : 文書管理

リストビューに表示する属性名称を指定します。

2. Groupmax WWW の環境設定

「\$ 表示番号」には、リストビューに表示する順序を指定します。番号 1 から昇順に指定してください。

「\$ 属性表示名称」には、リストビューに表示する属性の表示名称を指定します。指定できる表示名称は次のとおりです。

- 名前
- 作成者
- 作成日時
- 更新日時
- サイズ
- 実体ファイル
- 全文検索文書 ID
- コメント
- 編集ユーザ

「\$ 属性表示名称」を省略した場合は、属性名称が仮定されます。

属性名称

指定できる属性名称は次のとおりです。

IS_object_name :

「\$ 属性表示名称」に「名前」を指定した場合、この値を指定します。

IS_creator_name :

「\$ 属性表示名称」に「作成者」を指定した場合、この値を指定します。

IS_create_time :

「\$ 属性表示名称」に「作成日時」を指定した場合、この値を指定します。

IS_modify_time :

「\$ 属性表示名称」に「更新日時」を指定した場合、この値を指定します。

IS_file_size :

「\$ 属性表示名称」に「サイズ」を指定した場合、この値を指定します。

IS_file_name :

「\$ 属性表示名称」に「実体ファイル名」を指定した場合、この値を指定します。

IS_ts_document_id :

「\$ 属性表示名称」に「全文検索文書 ID」を指定した場合、この値を指定します。

IS_comment :

「\$ 属性表示名称」に「コメント」を指定した場合、この値を指定します。

IS_doc_lock_user :

「\$ 属性表示名称」に「編集ユーザ」を指定した場合、この値を指定します。

(例)

```
gisd_list_item.1. 名前 =IS_object_name
```

注意事項

- 表示番号は、番号が連続しているものだけが表示の対象になります。したがって、表示番号は連続した番号で指定してください。

(例)

次のように表示番号を指定した場合、1と2の番号の属性だけが表示の対象となります。

```
gisd_list_item.1. 名前 =IS_object_name
gisd_list_item.2. 作成者 =IS_creator_name
gisd_list_item.4. 更新日時 =IS_modify_time
gisd_list_item.5. サイズ =IS_file_size
```

- 編集集中ユーザを文書一覧に表示した場合、文書一覧を編集集中ユーザで並べ替えができません。ただし、文書一覧に表示されているニックネーム名称ではなく、内部情報として保持しているユーザ ID で並べ替えを実施するため、並べ替えた結果が実際の表示情報と異なる場合があります。

2.5.16 リストビューの文書一覧に表示する拡張子別フォーマットの指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gisd_doc_format.\$ 対応番号

対応するサービス：文書管理

リストビューの文書一覧を表示するときの、文書実体表示アンカー部の拡張子別フォーマットを指定します。「\$ 対応番号」には、「gisd_doc_format_ext」と対応する番号を指定してください。「gisd_doc_format_ext」については、「2.5.17 gisd_doc_format で指定した文字列と対応するファイルの拡張子の指定」を参照してください。

なお、この指定を行った場合は、システム側が TXT, HTM, GIF, JPEG などの拡張子に対して用意しているデフォルト設定（別ウィンドウで表示する指定）がすべて無効となり、新たに設定した定義だけが有効となります。

TXT, HTM, GIF, JPEG などに対するシステム側のデフォルト設定を有効にしたい場合は、次の定義を参考にして、新たに設定した定義内容と矛盾のないように、明示的に定義してください。

```
「#gisd_doc_default_format='<A HREF=""... '</A>'」
```

```
「#gisd_doc_no_file_format='<A HREF=""... '</A>'」
```

```
「#gisd_doc_format.1='<A HREF=""... '</A>'」
```

```
「#gisd_doc_format_ext.1=*」( *の部分には txt, htm などの拡張子が記述され
```

2. Groupmax WWW の環境設定

ています)。

それぞれの設定内容の詳細は、「2.5.17 gisd_doc_format で指定した文字列と対応するファイルの拡張子の指定」、「2.5.18 リストビューの文書一覧に表示するデフォルトフォーマットの指定」、「2.5.19 リストビューの文書一覧に表示するフォーマットの指定」を参照してください。

フォーマットの記述形式を次に示します。

フォーマットの記述形式

<フォーマットの記述> ::= {<文字列指定> | <変数指定>}

- <文字列指定> では、「' 文字列 '」と指定してください。
- 文字列中に「'」を指定する場合は「¥'」と指定してください。
- 文字列中に「¥」を指定する場合は「¥¥」と指定してください。
- <変数指定> では、「変数名称」と指定してください。

指定できる変数名称

`$icon_dir :`

アイコン格納ディレクトリパスを出力します。

`$script_name :`

スクリプト名称、又は起動中の Groupmax WWW 基盤プログラムパスを出力します。

`$auth_mode :`

認証モードを出力します。

`$schema :`

スキーマ名称を出力します。

`$server_address :`

文書が格納されている Groupmax Document Manager Server の IP アドレスを出力します。

`$server_id :`

文書が格納されている Groupmax Document Manager Server の識別子を出力します。

`$oid_string :`

文書のオブジェクト ID を出力します。

`$file_name :`

文書のファイル名称を出力します。

`$encode_file_name :`

文書のファイル名中に次の記号がある場合、その記号に対応した文字列に変換したファイル名を表示します。

- 半角スペース

- " (ダブルコーテーション)
- # (シャープ)
- % (パーセント)
- & (アンド)
- <> (山括弧)
- + (プラス)

\$full_encode_file_name :

文書のファイル名を URL エンコード規則に従って変換したファイル名を表示します。

\$icon_name :

文書の更新モードごとのアイコン名称を出力します。

対象文書が非編集の場合 : gisd_doc.gif

対象文書が自編集の場合 : gisd_doc_use.gif

対象文書が他編集の場合 : gisd_doc_other.gif

\$icon_alt :

アイコンに対する ALT 指定の文字列を出力します。

対象文書が非編集の場合 : 非編集

対象文書が自編集の場合 : 自編集

対象文書が他編集の場合 : 他編集

(例)

```
gisd_doc_format.1=
'<a href="" $script_name '/' $auth_mode '/GISgetdocmulti/'
$schema '/' $oid_string '/' $server_address '/'
$encode_file_name '?gis_encode_file_name='
$full_encode_file_name
'&gmax_language=japanese&gmax_language_file=japanese.msg&gis_doc_file_name=' $encode_file_name " target="gis_contents"
onClick="_gmaxDskWindowOpen( ¥¥'¥¥', ¥¥'gis_contents¥¥',
_gmaxDskWindowStandardHeight, _gmaxDskWindowStandardWidth
)"><img src="" $icon_dir '/' $icon_name " alt="" $icon_alt "
border="0"></a>'
```

注意事項

一つでも変数を指定した場合、デフォルト値は無効となりますので注意してください。デフォルト値は次のとおりです。

```
gisd_doc_format.1=
'<a href="" $script_name '/' $auth_mode '/GISgetdocmulti/'
$schema '/' $oid_string '/' $server_address '/'
$full_encode_file_name '?gis_encode_file_name='
```

2. Groupmax WWW の環境設定

```
$full_encode_file_name  
'&gmax_language=japanese&gmax_language_file=japanese.msg&gis_doc_file_name=/' $encode_file_name '" target="gis_contents" onClick="_gmaxDskWindowOpen( ¥¥'¥¥', ¥'gis_contents¥', _gmaxDskWindowStandardHeight, _gmaxDskWindowStandardWidth )">' $list_icon_mode '</a>'
```

2.5.17 gisd_doc_format で指定した文字列と対応するファイルの拡張子の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gisd_doc_format_ext.\$ 対応番号

対応するサービス : 文書管理

「gisd_doc_format.\$ 対応番号」と対応するファイルの拡張子を指定します。「\$ 対応番号」には「gisd_doc_format.」と対応する番号を指定してください。

「gisd_doc_format.」については、「2.5.16 リストビューの文書一覧に表示する拡張子別フォーマットの指定」を参照してください。

なお、この指定を行った場合は、システム側が TXT, HTM, GIF, JPEG などの拡張子に対して用意しているデフォルト設定（別ウィンドウで表示する指定）がすべて無効となり、新たに設定した定義に対応します。

TXT, HTM, GIF, JPEG などに対するシステム側のデフォルト設定を有効にしたい場合は、「2.5.16 リストビューの文書一覧に表示する拡張子別フォーマットの指定」を参照してください。

(例)

```
gisd_doc_format_ext.1=txt
```

注意事項

一つでも拡張子を指定した場合、デフォルト値は無効となりますので注意してください。デフォルト値は次のとおりです。

```
gisd_doc_format_ext.1=txt  
gisd_doc_format_ext.1=htm  
gisd_doc_format_ext.1=html  
gisd_doc_format_ext.1=gif  
gisd_doc_format_ext.1=jpg  
gisd_doc_format_ext.1=jpeg  
gisd_doc_format_ext.1=wff  
gisd_doc_format_ext.1=ali  
gisd_doc_format_ext.1=cip
```

2.5.18 リストビューの文書一覧に表示するデフォルトフォーマットの指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gisd_doc_default_format

対応するサービス : 文書管理

リストビューの文書一覧表示で、文書の内容を表示するためのアンカーのデフォルトフォーマットを指定します。

フォーマットの記述形式については、「2.5.16 リストビューの文書一覧に表示する拡張子別フォーマットの指定」の「フォーマットの記述形式」を参照してください。

なお、この指定を行った場合は、システム側が TXT, HTM, GIF, JPEG などの拡張子に対して用意しているデフォルト設定（別ウィンドウで表示する指定）がすべて無効となり、新たに設定した定義に対応します。

TXT, HTM, GIF, JPEG などに対するシステム側のデフォルト設定を有効にしたい場合は、「2.5.16 リストビューの文書一覧に表示する拡張子別フォーマットの指定」を参照してください。

(例)

```
gisd_doc_default_format=
'<a href=" " $script_name '/' $auth_mode '/GISgetdocmulti/'
$schema '/' $oid_string '/' $server_address '/'
$encode_file_name
'?gis_encode_file_name=' $full_encode_file_name
'&gmax_language=japanese&gmax_language_file=japanese.msg&gis_do
c_file_name=/' $encode_file_name '"></a>'
```

2.5.19 リストビューの文書一覧に表示するフォーマットの指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gisd_doc_no_file_format

対応するサービス : 文書管理

リストビューの文書一覧の表示で、文書実体ファイルがない場合のアンカーのフォーマットを指定します。

フォーマットの記述形式については、「2.5.16 リストビューの文書一覧に表示する拡張子別フォーマットの指定」の「フォーマットの記述形式」を参照してください。

2. Groupmax WWW の環境設定

なお、この指定を行った場合は、システム側が TXT, HTM, GIF, JPEG などの拡張子に対して用意しているデフォルト設定（別ウィンドウで表示する指定）がすべて無効となり、新たに設定した定義に対応します。

TXT, HTM, GIF, JPEG などに対するシステム側のデフォルト設定を有効にしたい場合は、「2.5.16 リストビューの文書一覧に表示する拡張子別フォーマットの指定」を参照してください。

(例)

```
gisd_doc_no_file_format=  
'<a href="" $script_name '/' $auth_mode '/GMAXnothing/' $schema  
'/GISdocfiles?gis_oid_string=' $oid_string  
'&gis_server_address=' $server_address '&gis_server_id='  
$server_id '&gmax_template_sub_dir=library/3pane/  
japanese&gmax_language=japanese&gmax_language_file=japanese.msg  
" target="gis_contents" onClick="_gmaxDskWindowOpen( ¥¥'¥¥',  
¥¥'gis_contents¥¥', _gmaxDskWindowStandardHeight,  
_gmaxDskWindowStandardWidth )" ><img src="" $icon_dir '/'  
$icon_name '" alt="" $icon_alt '" border="0"></a>'
```

2.5.20 文書管理機能で使用する定義項目

文書管理機能では、「2.5.1 Groupmax Document Manager Server のポート番号の指定」～「2.5.19 リストビューの文書一覧に表示するフォーマットの指定」で説明している定義項目のほかに、表 2-3 に示す定義項目を使用できます。文書管理機能で使用できる定義項目の詳細については、マニュアル「Groupmax World Wide Web Desktop Version 6 カスタマイズの手引（文書管理機能編）」を参照してください。

表 2-5 文書管理機能で使用する定義項目

定義項目	内容
gis_attr_selection_and	複数の属性を検索条件にして検索する場合の指定
gis_class_deep_access	指定した文書データベースの検索の指定
gis_document_filter_program	文書実体ファイルを変換するための外部フィルタプログラム名の指定
gis_folder_deep_access	指定したフォルダを検索するかどうかの指定
gis_list_display_base_condition	絞り込み検索をするときの検索条件の表示方法の指定
gis_list_max_size	文書一覧画面の一画面に表示する文書件数の指定
gis_list_sort_ascending	文書一覧のソート順序の指定
gis_mvi_deep_access	指定した分類索引を検索するかどうかの指定
gis_mvi_selection_and	複数の分類索引で検索するための結合条件の指定

定義項目	内 容
gis_print_doc_suffix	gis_printdoc コマンドで出力するファイルの指定
gis_suffix_compare_mode	指定されたファイルがない場合、拡張子が一致するファイルを表示するかどうかの指定

2.6 「メール，掲示板」サービスの定義ファイルの修正

2.6.1 サーバに関する設定

Groupmax Mail Server や Groupmax Address Server に関する設定について説明します。この項で説明する項目を，表 2-6 に示します。

表 2-6 サーバに関する設定

項番	内容	ファイル名	シンボル名
(1)	Groupmax Mail Server のサービス用ポート番号の指定	config	gml_mail_portnum
(2)	Groupmax Address Server のアドレスサービス用ポート番号の指定	config	gml_address_portnum
(3)	Groupmax Address Server への後着優先ログインの指定	config	gml_login_reconnect
(4)	Groupmax Address Server のユーザ任意情報の表示の指定	config	gml_useroptional_info
(5)	Groupmax Address Server のユーザ情報の変更の指定	config	gml_change_userinf
(6)	Groupmax Address Server のメールタイプの指定 (組織メールの指定)	config	gml_mailtype

(1) Groupmax Mail Server のサービス用ポート番号の指定

ファイル名： /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名： gml_mail_portnum

対応するサービス：メール，掲示板

Groupmax Mail Server のサービス用ポート番号を指定します。サービス用ポート番号は，Groupmax Mail Server マシンで定義している uad と同じ値を設定します。メール，掲示板サービスを利用するときは，gml_mail_portnum を必ず指定してください。

定義項目を省略した場合，又は設定値を省略した場合は，ポート番号「9100」が仮定されます。誤った指定をした場合はエラーになります。

(例)

```
gml_mail_portnum=9100
```

(2) Groupmax Address Server のアドレスサービス用ポート番号の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_address_portnum

対応するサービス：メール，掲示板

Groupmax Address Server のアドレスサービス用ポート番号を指定します。アドレスサービス用ポート番号は，Groupmax Address Server マシンで定義している adagt_ap と同じ値を設定します。メール，掲示板サービスを利用するときは，gml_address_portnum を指定してください。

定義項目を省略した場合，又は設定値を省略した場合は，ポート番号「9080」が仮定されます。なお，誤った指定をした場合は Groupmax WWW にログインする時にエラーになります。

(例)

```
gml_address_portnum=9080
```

(3) Groupmax Address Server への後着優先ログインの指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_login_reconnect

対応するサービス：メール，掲示板

あるユーザが Groupmax Address Server へログインしている状態で，同一ユーザに対してログインした場合に，先にログインしていたユーザをログアウトして，後からのログインを有効にする（後着優先ログイン）か，二重ログインとし後からのログインを無効にする（通常ログイン）かどうかを指定します。次の値のどちらかを指定してください。値は大文字で指定してください。

なお，後着優先ログインになるか，通常ログインになるかは，Groupmax Address Server の gmpublicinfo ファイルの RE_CONNECT キーワードの指定との組み合わせによって決定されます。gml_login_reconnect の指定と RE_CONNECT の指定との組み合わせを，表 2-7 に示します。

表 2-7 gml_login_reconnect の指定と RE_CONNECT の指定との組み合わせ

gml_login_reconnect	RE_CONNECT		
	Y (後着優先)	N (通常)	省略
YES (後着優先)	後着優先	通常	後着優先
NO (通常)	後着優先	通常	通常
省略 (通常)	通常	通常	通常

2. Groupmax WWW の環境設定

なお、次の場合は通常ログインとなります。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「NO」、「YES」以外を指定した場合

NO :

通常ログインで動作します。

YES :

後着優先ログインで動作します。

(例)

```
gml_login_reconnect=YES
```

注意事項

後着優先ログインの場合は、`gmax_after_login_notify=on` を設定してください。
`gmax_after_login_notify=on` を設定しないと、先のログインで使用していた Groupmax WWW クライアントプロセスが残ります。次に `gmax_after_login_notify` 設定の動作の違いを示します。

- `gmax_after_login_notify=on` の場合

先のログインで使用していた Groupmax WWW クライアントプロセスは、後着がログインした時点で消えます。リソース消費を抑えるために、この指定をお勧めします。

先のログインで使用していた画面を操作すると、ログイン画面が表示され、そこからログインすると、Groupmax WWW を使用することはできますが、その時点で後着側の Groupmax WWW クライアントプロセスが消えます。

- `gmax_after_login_notify=off`、又は、設定されていない場合

先のログインで使用していた Groupmax WWW クライアントプロセスは、ログアウトし忘れ監視時間 (MaxSilentTime) が経過するまで消えません。ログアウトし忘れ監視時間が設定されていないと、ユーザがログアウトするまで Groupmax WWW クライアントプロセスは消えません。このため、ログアウトし忘れ監視時間は必ず設定してください。

ログアウトし忘れ監視時間が経過する前に、先のログインで使用していた画面で操作すると、再度アドレスサーバへ接続するため、先のログインで使用していた画面でも Groupmax WWW を使用することができます。

この場合は、先のログインの Groupmax WWW クライアントプロセスと後のログインの Groupmax WWW クライアントプロセスの両方が使用されるため、リソースを消費します。

また、ログアウトし忘れ監視時間を設定してあっても、ユーザが、着信間隔をログアウトし忘れ監視時間より短く設定して、着信監視機能を使用している場合は、ログアウトし忘れ監視時間が経過しても、先のログインで使用していた Groupmax WWW クライアントプロセスが消えないことがあります。その間もリソースを消費しますので、注意してください。

(4) Groupmax Address Server のユーザ任意情報の表示の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_useroptional_info

対応するサービス : メール

ユーザの詳細情報表示画面, 及びユーザ情報変更画面に Groupmax Address Server で設定されたユーザ任意情報を表示するかどうかを指定します。なお, Groupmax Address Server で「ユーザ任意情報を使用しない」と設定している場合はユーザ任意情報は表示されません。次の値のどちらかを指定してください。値は大文字で指定してください。

なお, 次の場合は「OFF」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「ON」, 「OFF」以外を設定した場合

ON :

ユーザ任意情報を表示します。

OFF :

ユーザ任意情報を表示しません。

(例)

```
gml_useroptional_info=OFF
```

(5) Groupmax Address Server のユーザ情報の変更の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_change_userinf

対応するサービス : メール, 掲示板

Groupmax Address Server で設定されたユーザ情報の一部を, GroupmaxWWW クライアントから変更できるようにするかどうかを指定します。なお, 変更できるのは自分のユーザ情報だけで, 他のユーザ情報を変更することはできません。次の値のどちらかを指定してください。値は大文字で指定してください。

次の場合は「ON」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「ON」, 「OFF」以外を設定した場合

ON :

ユーザ情報の一部を変更できるようにします。[環境] カテゴリの [メールの設定]

2. Groupmax WWW の環境設定

のツリービューに [ユーザ情報変更] アンカーを表示します。また, [電子アドレス帳] 画面に [ユーザ情報変更] アンカーを表示します。

自分のユーザ情報を「詳細情報」画面で表示した場合には, [情報変更] アンカーを表示します。

OFF :

ユーザ情報を変更できないようにします。[ユーザ情報変更] アンカーを表示しません。

(例)

```
gml_change_userinf=ON
```

(6) Groupmax Address Server のメールタイプの指定 (組織メールの指定)

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_mailtype

対応するサービス : メール, 掲示板

個人メールを使用するか, 個人メールと組織メールの両方を使用するかを指定します。次の値のどちらかを指定してください。値は大文字で指定してください。

次の場合は「USER」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「USER」, 「ALL」以外を指定した場合

USER :

個人メールだけを使用します。

直接入力で宛先を指定すれば, 組織宛先へのメール送信ができます。ただし, 電子アドレス帳で, 組織宛先を宛先指定領域又はローカル宛先編集領域に追加できません。

メール作成の送信者は, ログインユーザとなります。

記事作成の掲示者は, ログインユーザとなります。

ALL :

個人メールと組織メールの両方を使用します。

ユーザと組織の両方でログインするため, メールサーバのログイン数を2倍消費します。組織メールを使用する場合は, システムリソースやログイン数の設定

(Groupmax Address Server の gmpublicinfo ファイルの MAX_LOGIN_USER キーワード) を見直してください。ログイン数の設定については, マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。

なお, この指定ではユーザごとに, 個人メールと組織メールの使用を選択できます。

ユーザごとの設定方法については、マニュアル「Groupmax World Wide Web Desktop Version 6 ユーザーズガイド」の「メールタイプの設定」を参照してください。

電子アドレス帳では、宛先指定画面に、個人宛先及び組織宛先を選択して追加できます。

メール作成の送信者は、ログインユーザ又は所属組織を選択できます。

記事作成の掲示者は、ログインユーザ又は所属組織を選択できます。

(例)

```
gml_mailtype=USER
```

注意事項

- gml_userlist_org=NO (組織宛先の表示の指定) の場合は、電子アドレス帳画面の宛先一覧に組織が表示されません。組織メールを使用する場合は、gml_userlist_org=YES を設定してください。組織宛先の表示の指定方法については、「2.6.9(11) 組織宛先の表示の指定」を参照してください。
- ユーザが組織メールを使用できるようにするためには、ユーザに所属組織へアクセスする権利を与える必要があります。しかし、最上位組織及びアドレス帳組織に所属しているユーザには所属組織へのアクセス権を設定することはできないため、これらのユーザは組織メールを使用することはできません。

Groupmax Address Server の権利設定方法については、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。

2.6.2 メール一覧，掲示板一覧に関する設定

受信メール一覧，送信メール一覧，記事一覧，及び掲示板一覧に関する設定について説明します。この項で説明する項目を表 2-8 に示します。

表 2-8 メール一覧，掲示板一覧に関する設定

項番	内容	ファイル名	シンボル名
(1)	送信者 / 掲示者の日本語名の表示幅の指定	config	gml_rmljpname
(2)	役職名の表示幅の指定	config	gml_rmljpposition
(3)	ユーザ名の表示の指定	config	gml_use_username_type
(4)	日本語名の表示の指定	config	gml_jname_area
(5)	受信メール一覧の未読 / 既読のデフォルトの変更の指定	config	gml_mail_readdef
(6)	メール一覧のメールの取得件数の指定	config	gml_mail_list_limit
(7)	記事一覧の未読 / 既読のデフォルトの変更の指定	config	gml_bbs_readdef
(8)	掲示板一覧の記事数の桁そろえの指定	config	gml_column_order
(9)	掲示板一覧の記事件数表示の指定	config	gml_artcount_view

2. Groupmax WWW の環境設定

項番	内容	ファイル名	シンボル名
(10)	[掲示板] カテゴリを表示しない指定	config	gmax_no_display_tree.bboard
(11)	[デスクトップ] カテゴリの [掲示板] アイテムを表示しない指定	config	gmax_no_display_tree.board
(12)	初期表示する掲示板の指定	config	gml_defaultboard

(1) 送信者 / 掲示者の日本語名の表示幅の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_rmljpname

対応するサービス : メール, 掲示板

受信メール一覧の送信者名, 及び記事一覧での掲示者名を日本語表示した場合の送信者名表示幅を指定します。表示幅は, 半角換算で 1 ~ 128 文字の範囲で指定してください。

なお, gml_rmljpname の指定と Groupmax WWW の表示項目の設定が異なる場合は, 小さい値を設定した方が優先されます。Groupmax WWW の表示項目の設定が優先された場合, 表示幅を超えた 2 バイトコードの文字は表示されません。

有効範囲外の文字数を指定した場合, 又は定義項目を省略した場合は「10」が仮定されます。設定値を省略した場合, 又は誤った指定をした場合は, Groupmax WWW のサービスを起動後, ユーザが Groupmax WWW を利用しようとしたときに次のエラーメッセージが表示され, Groupmax WWW を利用できません。

「KFCG1302-S : 指定した config パラメタ ("xxxxx") はフォーマットが誤っています。config パラメタを見直してください。」(xxxxx : パラメタ名)

(例)

```
gml_rmljpname=10
```

(2) 役職名の表示幅の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_rmljpposition

対応するサービス : メール, 掲示板

受信メール一覧の送信者名を日本語表示した場合の送信者の職名の表示幅を指定します。表示幅は, 半角換算で 1 ~ 32 文字の範囲で指定してください。

なお, gml_rmljpposition の指定と Groupmax WWW の表示項目の設定が異なる場合は, 小さい値を設定した方が優先されます。Groupmax WWW の表示項目の設定が優先された場合, 表示幅を超えた 2 バイトコードの文字は表示されません。

有効範囲外の文字数を指定した場合, 又は定義項目を省略した場合は「8」が仮定されま

す。設定値を省略した場合，又は誤った指定をした場合は，Groupmax WWW のサービスを起動後，ユーザが Groupmax WWW を利用しようとしたときに次のエラーメッセージが表示され，Groupmax WWW を利用できません。

「KFCG1302-S：指定した config パラメタ ("xxxxx") はフォーマットが誤っています。config パラメタを見直してください。」(xxxxx：パラメタ名)

(例)

```
gml_rmljpposition=8
```

(3) ユーザ名の表示の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_use_username_type

対応するサービス：メール，掲示板

受信メール一覧，送信メール一覧，及び記事一覧で表示されるユーザ名をニックネームで表示するかどうかを指定します。次の値のどちらかを指定してください。値は大文字で指定してください。

なお，次の場合は「DEFAULT」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「DEFAULT」，「NICKNAME」以外を指定した場合

DEFAULT：

Groupmax WWW の環境設定で指定したユーザ名表示の設定に従います。

NICKNAME：

ユーザ名表示をニックネームで表示します。

(例)

```
gml_use_username_type=DEFAULT
```

(4) 日本語名の表示の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_jname_area

対応するサービス：メール，掲示板

受信メール一覧，及び記事一覧に日本語名を表示するかどうかを指定します。次の値のどちらかを指定してください。値は大文字で指定してください。

なお，次の場合は「OFF」が仮定されます。

2. Groupmax WWW の環境設定

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「ON」、「OFF」以外を指定した場合

また、Groupmax WWW の表示項目の設定と異なる指定をした場合は、`gml_jname_area` よりも Groupmax WWW の表示項目の設定が優先されるため、Groupmax WWW の表示項目の設定どおりに表示されます。

ON :

日本語名を表示します。

OFF :

日本語名を表示しません。

(例)

`gml_jname_area=OFF`

(5) 受信メール一覧の未読 / 既読のデフォルトの変更の指定

ファイル名 : `/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config`

シンボル名 : `gml_mail_readdef`

対応するサービス : メール

ログイン後、初めて受信メール一覧を表示した場合、未読メールだけを表示する、又は未読メールと既読メールをすべて表示するかどうかを指定します。次の値のどれかを指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「UNREAD」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「READ」、「UNREAD」、「KEEP」以外を指定した場合

READ :

未読メールと既読メールすべてを表示します。

UNREAD :

未読メールだけを表示します。

KEEP :

前回ログアウト直前に表示した受信メール一覧の未読 / 既読の状態を表示します。初めて Groupmax WWW サーバへログインしたときは、未読メールだけを表示します。

KEEP を設定しても、ほかのフィルタの設定は、ログイン時に以下のデフォルトの表示に戻ります。

- [至急] チェックボックス : チェックなし

- [個人 + 組織] ラジオボタン：チェックあり
- [個人] ラジオボタン：チェックなし
- [組織] ラジオボタン：チェックなし

(例)

```
gml_mail_readdef=UNREAD
```

(6) メール一覧のメールの取得件数の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_mail_list_limit

対応するサービス：メール

受信メール一覧，送信メール一覧，受信メール検索結果一覧，及び送信メール検索結果一覧で取得する件数を指定します。

取得する件数は 0 ~ 1,000 の範囲で指定してください。

なお，次の場合は全件取得されます。

- 取得する件数を 0 と指定した場合
- 定義項目を省略した場合
- 有効範囲外の数値を指定した場合

なお，次の場合はエラーになります。

- 設定値を省略した場合
- 設定した件数を取得する前にメモリが不足した場合
- 数値以外を指定した場合

gml_mail_list_limit で指定した件数より，受信メールボックス及び送信メールボックスの件数が多い場合は次のように動作します。

- 受信メール一覧
gml_mail_list_limit で指定した件数が表示されます。
gml_mail_list_limit を「100」と指定し，受信メールボックスに 300 通のメールがある場合は，そのうちの 100 件が表示されます。
- 送信メール一覧
gml_mail_list_limit で指定した件数が表示されます。
gml_mail_list_limit を「100」と指定し，送信メールボックスに 300 通のメールがある場合は，そのうちの 100 件が表示されます。
- 受信メール検索結果一覧
受信メール一覧で取得した件数に対する検索結果が表示されます。
gml_mail_list_limit を「100」と指定し，受信メールボックスに 300 通のメールがある場合は，受信メール一覧で取得した 100 件に対する検索結果が表示されます。
- 送信メール検索結果一覧

2. Groupmax WWW の環境設定

送信メールボックスにあるすべてのメールに対する検索結果のうち、`gml_mail_list_limit` で設定した件数まで表示されます。
`gml_mail_list_limit` を「100」と指定し、送信メールボックスに 300 通のメールがある場合は、300 通の検索結果のうち 100 件まで表示されます。
ただし、「主題」が検索条件に含まれる場合は、「主題」以外の検索によって、`gml_mail_list_limit` で設定した件数以下に絞った後に「主題」の検索結果が表示されます。
なお、検索条件が「主題」だけの場合は、送信メール一覧で取得した件数に対する検索結果が表示されます。

(例)

```
gml_mail_list_limit=0
```

(7) 記事一覧の未読 / 既読のデフォルトの変更の指定

ファイル名: `/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config`

シンボル名: `gml_bbs_readdef`

対応するサービス: 掲示板

ログイン後、初めて記事一覧を表示した場合、未読記事だけを表示する、又は未読記事と既読記事をすべて表示するかどうかを指定します。次の値のどちらかを指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「READ」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「READ」、「UNREAD」以外を指定した場合

READ :

未読記事と既読記事をすべて表示します。

UNREAD :

未読記事だけを表示します。

(例)

```
gml_bbs_readdef=READ
```

(8) 掲示板一覧の記事数の桁そろえの指定

ファイル名: `/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config`

シンボル名: `gml_column_order`

対応するサービス: 掲示板

掲示板一覧に表示する総記事数、及び未読記事数の表示桁をそろえるかどうかを指定し

ます。次のどちらかの値を指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「OFF」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「ON」、「OFF」以外を指定した場合

ON :

桁をそろえます。

OFF :

桁をそろえません。

(例)

```
gml_column_order=ON
```

(9) 掲示板一覧の記事数表示の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_artcount_view

対応するサービス : 掲示板

掲示板一覧に表示する記事数の表示項目を指定します。次の値のどれかを指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「ALL」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「NOTHING」、「UNREAD」、「TOTAL」、「ALL」以外を指定した場合

NOTHING :

記事数を表示しません。

UNREAD :

未読数を表示します。

TOTAL :

総記事数を表示します。

ALL :

未読数と総記事数をすべて表示します。

(例)

```
gml_artcount_view=ALL
```

(10) [掲示板] カテゴリを表示しない指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gmax_no_display_tree.bboard

対応するサービス : 掲示板

このオプションを指定すると、ユーザのマイデスクトップ環境に影響を及ぼしますので、次の点に注意して定義項目を指定してください。

既に [掲示板] カテゴリを表示して運用している場合

ユーザが登録したマイデスクトップの [掲示板] カテゴリの [掲示板] アイテムが、マイデスクトップからなくなります。この場合は、ユーザへ次の操作を指示してください。

1. マイデスクトップの並べ替え画面で、いったん [掲示板] アイテムを削除します。
2. 再度、[デスクトップ] カテゴリから [掲示板] アイテムをマイデスクトップへ登録します。

運用前の新規環境設定時の場合

このオプションを指定して運用を開始してください。

掲示板の機能は、[デスクトップ] カテゴリと [掲示板] カテゴリの両方で使用できます。[デスクトップ] カテゴリにある掲示板だけを使用したい場合、このオプションを指定して [掲示板] カテゴリを表示しないようにできます。

次の場合は「FALSE」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「TRUE」、「FALSE」以外を指定した場合

TRUE :

[掲示板] カテゴリを表示しません。

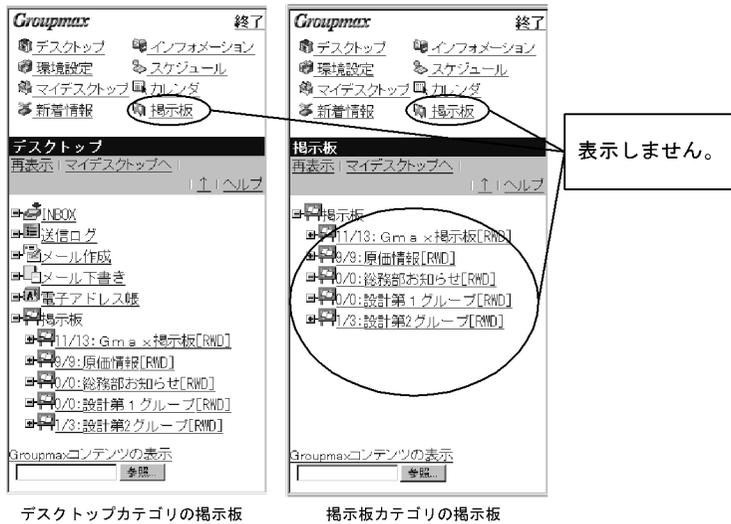
FALSE :

[掲示板] カテゴリを表示します。

(例)

gmax_no_display_tree.bboard=TRUE

図 2-7 [掲示板] カテゴリを表示しない指定にした例



(11) [デスクトップ] カテゴリの [掲示板] アイテムを表示しない指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gmax_no_display_tree.board

対応するサービス : 掲示板

このオプションを指定すると、ユーザのマイデスクトップ環境に影響を及ぼしますので、次の点に注意して定義項目を指定してください。

既に [デスクトップ] カテゴリの [掲示板] アイテムを表示して運用している場合

ユーザが登録したマイデスクトップの [デスクトップ] カテゴリの [掲示板] アイテムが、下位の [掲示板] アイテムも含めマイデスクトップからなくなります。この場合は、ユーザへ次の操作を指示してください。

1. マイデスクトップの並べ替え画面で、いったん [掲示板] アイテムをすべて削除します。
2. 再度、[掲示板] カテゴリから [掲示板] アイテムをマイデスクトップへ登録します。

運用前の新規環境設定時の場合

このオプションを指定して運用を開始してください。

掲示板の機能は、[デスクトップ] カテゴリと [掲示板カテゴリ] の両方で使用できます。[掲示板] カテゴリだけを使用したい場合、このオプションを指定して、[デスクトップ] カテゴリの [掲示板] アイテムを表示しないようにできます。

次の場合は「FALSE」が仮定されます。

2. Groupmax WWW の環境設定

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「TRUE」、「FALSE」以外を指定した場合

TRUE :

[デスクトップ] カテゴリの [掲示板アイテム] を表示しません。

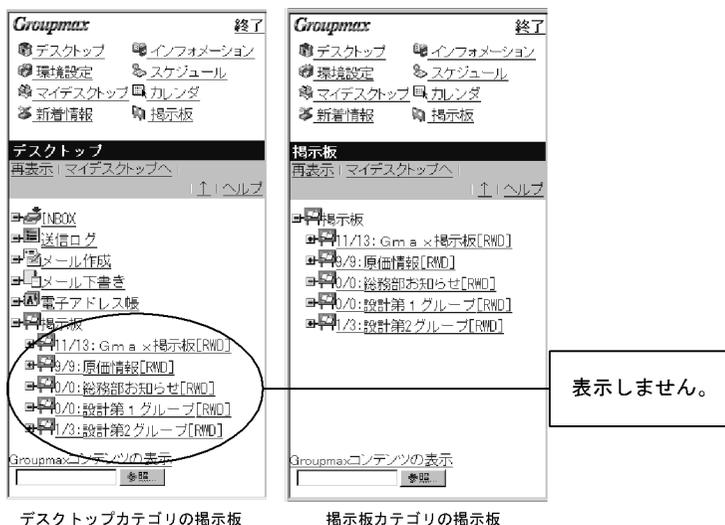
FALSE :

[デスクトップ] カテゴリの [掲示板] アイテムを表示します。

(例)

```
gmax_no_display_tree.board=TRUE
```

図 2-8 [デスクトップ] カテゴリの [掲示板] アイテムを表示しない指定にした例



(12) 初期表示する掲示板の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_defaultboard

対応するサービス : 掲示板

[掲示板] カテゴリを選択したとき、リストビュー領域に初期表示する記事一覧の掲示板 ID を指定します。掲示板を閲覧するすべてのユーザにアクセス権がある掲示板を指定してください。掲示板 ID は、メールサーバで確認してください。掲示板 ID の確認方法については、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 6 システム管理者ガイド 基本操作編」の「掲示板の設定」を参照してください。

なお、定義項目を省略した場合、又は設定値を省略した場合は、[掲示板] カテゴリを選択しても、リストビューの表示は変更されません。

存在しない掲示板 ID を指定した場合は、[掲示板] カテゴリを選択したとき、次のエラーメッセージが表示され、リストビュー領域には、空の記事一覧が表示されます。

「KFCG4204-W: 指定した掲示板がありません。」

また、ユーザにアクセス権限のない掲示板 ID を指定した場合は、[掲示板] カテゴリを選択しても、リストビューの表示は変更されません。ただし、エラーログに次のメッセージが表示されます。

「KFCG4200-W: 指定した掲示板、または、記事を参照できません。」

(例)

```
gml_defaultboard=B0001
```

2.6.3 メール、記事の本文に関する設定

メール、記事の本文に関する設定について説明します。この項で説明する項目を表 2-9 に示します。

表 2-9 メール、記事の本文に関する設定

項番	内容	ファイル名	シンボル名
(1)	本文のウィンドウ幅での折り返し表示の指定	config	gml_contentwrap
(2)	gml_contentwrap で FORCE を指定したときの折り返し文字数の指定	config	gml_contentmargin
(3)	クリックブル URL の指定	config	gml_useurl
(4)	クリックブル URL のキーワード名の指定	config	gml_keyword1 ~ 3
(5)	クリックブル URL の表示先の指定	config	gml_nextscreen

(1) 本文のウィンドウ幅での折り返し表示の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_contentwrap

対応するサービス：メール、掲示板

受信 / 送信メール及び記事の本文を表示するときに、ブラウザのウィンドウ幅で文字を折り返して表示するかどうかを指定します。次の値のどれかを指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「NO」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合

2. Groupmax WWW の環境設定

- 設定値を省略した場合
- 「NO」、「AUTO」、「FORCE」以外を指定した場合

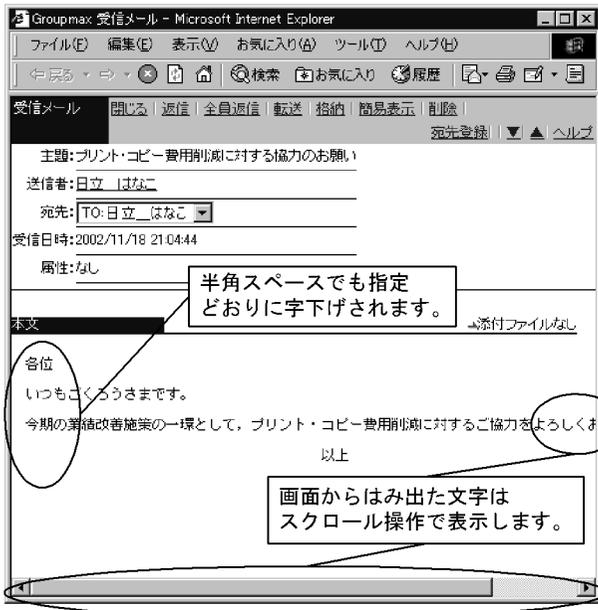
NO :

強制的な折り返しをしません。

「NO」を指定した場合、本文中に改行コードを入れたときだけ改行されます。改行コードを入れないかぎり本文が折り返しされないので、入力した状態をそのままブラウザ上に表示できます。

本文がブラウザの表示幅より大きい場合は、画面をはみ出すことがありますので、受信者のブラウザの表示幅を考慮して、各ユーザで改行を挿入してください。なお、受信したメールの本文が、ブラウザの表示幅より大きい場合は、スクロール操作をして表示できます。

図 2-9 本文の折り返し表示を「NO」に指定した場合



AUTO :

ブラウザの幅に合わせて折り返します。

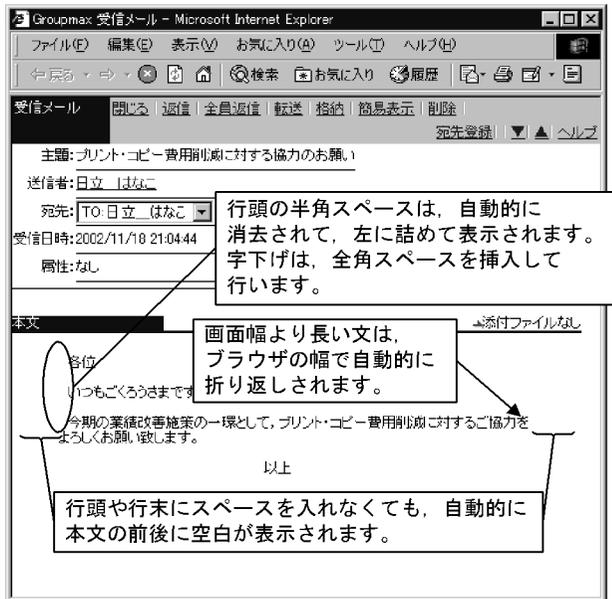
「AUTO」を指定した場合、次の二つの方法によって本文を折り返せます。

- 改行して本文を折り返します。
- ブラウザの表示幅に合わせて自動的に本文を折り返します。

なお、自動的に本文を折り返す場合、ブラウザの表示幅だけでなく、入力した文字列の単語も意識して折り返しされる場合があります。したがって、入力した文字列によっては、ブラウザの表示幅に合わせて本文が折り返されません。ブラウザ上に本文が表示されていない場合は、スクロール操作をして本文を表示してください。なお、本文の行頭にある半角スペースは消去されて、左に詰めて表示されます。字

下げやインデントを空白で調整したい場合は、全角スペースで行ってください。

図 2-10 本文の折り返し表示を「AUTO」に指定した場合



FORCE :

文字数を指定して折り返します。文字数の指定は `gml_contentmargin` で指定します。

「FORCE」を指定した場合、次の二つの方法によって本文を折り返せます。

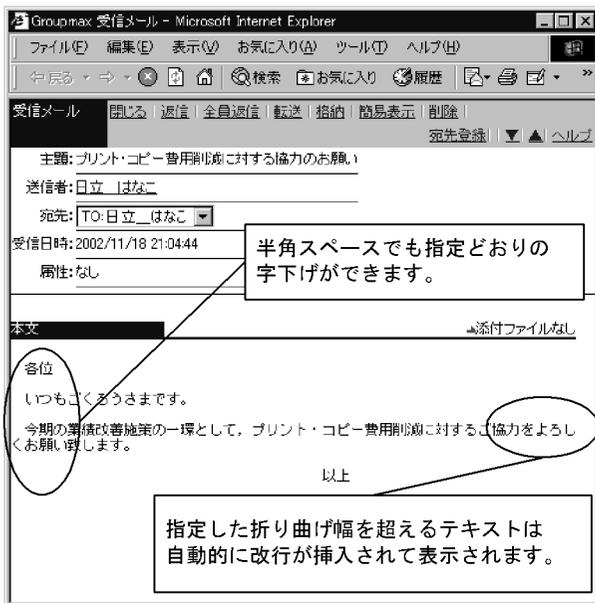
- 改行して本文を折り返します。
- 指定した文字数で本文を折り返します。

改行しなくても指定した文字数で折り返しできるので、スクロール操作を削減できます。

なお、指定した文字数で本文を折り返す場合、指定した文字数だけでなく、入力した文字列の単語も意識して折り返しされる場合があります。したがって、入力した文字列によっては、指定した文字数に合わせて本文が折り返されません。ブラウザ上に本文が表示されていない場合は、スクロール操作をして本文を表示してください。

2. Groupmax WWW の環境設定

図 2-11 本文の折り返し表示を「FORCE」に指定した場合



(例)

```
gml_contentwrap=NO
```

(2) gml_contentwrap で FORCE を指定したときの折り返し文字数の指定

ファイル名: /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名: gml_contentmargin

対応するサービス: メール, 掲示板

gml_contentwrap で「FORCE」を指定したとき、折り返す文字数を指定します。

文字数は、半角換算で 40 ~ 128 文字数の範囲で指定してください。有効範囲外の文字数を指定した場合、又は定義項目を省略した場合は 80 文字で折り返します。

設定値を省略した場合、又は誤った指定をした場合は、Groupmax WWW のサービスを起動後、ユーザが Groupmax WWW を利用しようとしたときに次のエラーメッセージが表示され、Groupmax WWW を利用できません。

「KFCG1302-S: 指定した config パラメタ ("xxxxx") はフォーマットが誤っています。config パラメタを見直してください。」(xxxxx: パラメタ名)

(例)

```
gml_contentmargin=80
```

(3) クリックابل URL の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_useurl

対応するサービス：メール，掲示板

クリックابل URL を有効にするかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。値は大文字で指定してください。

なお，次の場合は「YES」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「YES」, 「NO」以外を指定した場合

YES：

クリックابل URL を有効にします。

NO：

クリックابل URL を無効にします。

クリックابل URL については「付録 D 用語解説」を参照してください。

(例)

```
gml_useurl=YES
```

(4) クリックابل URL のキーワード名の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_keyword1

gml_keyword2

gml_keyword3

対応するサービス：メール，掲示板

クリックابل URL のキーワードを指定します。ここで指定した文字列名とその後に続く文字列がクリックابل URL として表示されます。キーワードは、「gml_keyword1」, 「gml_keyword2」, 及び「gml_keyword3」の三つにそれぞれ指定できます。キーワードとして指定できる文字列は最大 31 文字です。

定義項目を省略した場合，又はキーワードを一つも指定しなかった場合は，「http://」だけを指定した場合と同じ動作になります。

「http://」以外を指定した場合は，指定した値がキーワードになります。

2. Groupmax WWW の環境設定

クリックابل URL については、「付録 D 用語解説」を参照してください。

(例)

```
gml_keyword1=http://  
gml_keyword2=https://  
gml_keyword3=ftp://
```

注意事項

クリックابل URL のキーワードを変更するときは、ブラウザが URL として認識できる文字列を指定してください。URL として認識できない文字列を指定した場合、ユーザが URL をクリックすると、以下のメッセージが表示されて、キーワードを変更できません。

「KFCG1304+S:スキーマ("xxxxx")は誤っています。スキーマ名を見直してください。」(xxxxx:スキーマ名)

(5) クリックابل URL の表示先の指定

ファイル名: /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名: gml_nextscreen

対応するサービス: メール, 掲示板

クリックابل URL が設定されている場合、URL で指定されたページの内容をどこに表示するのかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。

なお、次の場合は「gmaxxml_nextscreen」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「gmaxxml_nextscreen」, 「_self」以外を指定した場合

gmaxxml_nextscreen:

「gmaxxml_nextscreen」に、URL で指定されたページの内容を表示します。

_self:

現在表示している画面内に、URL で指定したページの内容を表示します。

クリックابل URL については、「付録 D 用語解説」を参照してください。

(例)

```
gml_nextscreen=gmaxxml_nextscreen
```

2.6.4 メール、記事の添付ファイルに関する設定

メール、記事の添付ファイルに関する設定について説明します。この項で説明する項目を表 2-10 に示します。

表 2-10 メール、記事の添付ファイルに関する設定

項番	内容	ファイル名	シンボル名
(1)	添付ファイルサイズの表示単位の指定	config	gml_attachfile_unit
(2)	添付ファイルブラウザボタンのデフォルト表示数の指定	config	gml_attach_input_num
(3)	添付ファイル名の 1 バイトコードの文字変換方式の指定	config	gml_fname_encode_char_mode
(4)	添付ファイル名の 2 バイトコードの文字変換方式の指定	config	gml_fname_encode_dwc har_mode
(5)	添付ファイル名の 1 バイトコードの変換対象文字の指定	config	gml_fname_encode_char
(6)	添付ファイル名の 2 バイトコードの変換対象文字の指定	config	gml_fname_encode_dwc har

(1) 添付ファイルサイズの表示単位の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_attachfile_unit

対応するサービス：メール、掲示板

添付ファイルのサイズの表示単位を指定します。次のどちらかの値を指定してください。表示単位は小文字で指定してください。

なお、次の場合は「kilobyte」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「kilobyte」、「byte」以外を指定した場合

kilobyte：

キロバイト (KB) 単位で表示します。

byte：

バイト (Bytes) 単位で表示します。

(例)

gml_attachfile_unit=kilobyte

(2) 添付ファイルブラウザボタンのデフォルト表示数の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_attach_input_num

対応するサービス：メール、掲示板

2. Groupmax WWW の環境設定

メール作成、及び記事作成時の添付ファイルブラウザボタンのデフォルト表示数を指定します。1 ~ 24 の範囲の値を指定してください。

なお、次の場合は「7」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 1 ~ 24 の範囲以外を指定した場合
- 数値以外を指定した場合

(例)

```
gml_attach_input_num=7
```

(3) 添付ファイル名の 1 バイトコードの文字変換方式の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_fname_encode_char_mode

対応するサービス : メール, 掲示板

添付ファイル、及びローカル宛先ファイルのダウンロード時、[名前を付けて保存]ダイアログに初期表示するファイル名で 1 バイトコードの文字変換方式を指定します。次の値のどれかを指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「ENCODE_TO_HEX」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「NOT_ENCODE」、「ENCODE_TO_HEX」、「ENCODE_TO_UNDERBAR」以外を指定した場合

NOT_ENCODE :

変換対象文字を変換しないでそのまま出力します。

ENCODE_TO_HEX :

変換対象文字を「%nn」に変換して出力します (nn は変換対象文字の 16 進コードです)。

ENCODE_TO_UNDERBAR :

変換対象文字を半角のアンダーバーに変換して出力します。

また、変換対象文字については、「(5) 添付ファイル名の 1 バイトコードの変換対象文字の指定」を参照してください。

(例)

```
gml_fname_encode_char_mode=ENCODE_TO_HEX
```

注意事項

使用するブラウザによっては、変換方式を指定すると 0x5C, 0x7C の文字コードの文字をファイル名に使用したファイルを、ダウンロードできます。
 ただし、変換することで正しいファイル名でのダウンロードができないため、正しいファイル名を再入力してください。

(4) 添付ファイル名の 2 バイトコードの文字変換方式の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_fname_encode_dwchar_mode

対応するサービス : メール, 掲示板

添付ファイル, 及びローカル宛先ファイルのダウンロード時, [名前を付けて保存] ダイアログに初期表示するファイル名で 2 バイトコードの文字変換方式を指定します。

次の値のどれかを指定してください。値は大文字で指定してください。

なお, 次の場合は「ENCODE_TO_HEX」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「NOT_ENCODE」, 「ENCODE_TO_HEX」, 「ENCODE_TO_UNDERBAR」以外を指定した場合

NOT_ENCODE :

変換対象文字を変換しないでそのまま出力します。

ENCODE_TO_HEX :

変換対象文字を「%mm%nn」に変換して出力します。

- mm は, 変換対象文字 1 バイト目の 16 進コードです。
- nn は, 変換対象文字 2 バイト目の 16 進コードです。

ENCODE_TO_UNDERBAR :

変換対象文字を全角のアンダーバーに変換して出力します。

また, 変換対象文字については, 「(6) 添付ファイル名の 2 バイトコードの変換対象文字の指定」を参照してください。

(例)

```
gml_fname_encode_dwchar_mode=ENCODE_TO_HEX
```

注意事項

使用するブラウザによっては、変換方式を指定すると 0x5C, 0x7C の文字コードの文字をファイル名に使用したファイルを、ダウンロードができます。
 ただし、変換することで正しいファイル名でのダウンロードができないため、正しいファイル名を再入力してください。

(5) 添付ファイル名の 1 バイトコードの変換対象文字の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_fname_encode_char

対応するサービス : メール, 掲示板

添付ファイル, 及びローカル宛先ファイルのダウンロード時, [名前を付けて保存] ダイアログに初期表示するファイル名で変換する 1 バイト文字コードを指定します。

値は 16 進コードで 00 ~ FF の範囲で指定してください。指定できる文字の最大個数は 256 です。

- 値は大文字で指定してください。
- 複数の文字を指定する場合は, 「,」(コンマ) で区切ってください。
- 定義項目を省略した場合, 設定値を省略した場合, 又は指定が誤っていた場合は, 次の指定をしたときと同じ動作をします。
 - 半角スペース (16 進コード : 20)
 - 「# (シャープ)」(16 進コード : 23)
 - 「% (パーセント)」(16 進コード : 25)

1 バイトコードの文字変換方式については, 「(3) 添付ファイル名の 1 バイトコードの文字変換方式の指定」を参照してください。

(例)

```
gml_fname_encode_char=20,23,25
```

(6) 添付ファイル名の 2 バイトコードの変換対象文字の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_fname_encode_dwchar

対応するサービス : メール, 掲示板

添付ファイル, 及びローカル宛先ファイルのダウンロード時, [名前を付けて保存] ダイアログに初期表示するファイル名で変換する 2 バイト文字コードを指定します。

- 値は 16 進コードで 00 ~ FF, 及び 0000 ~ FFFF の範囲で指定してください。なお, 通常は 4 桁で指定してください (例えば「8140」と 4 桁で指定します)。2 桁で指定した場合は, 指定した 2 桁の文字コードを 2 バイト目に含む, すべての文字が対象となります。

(例)

「5C」と 2 桁で指定した場合は, 「895C」, 「8C5C」など, 2 バイト目が「5C」となるすべての文字を対象とします。

- 指定できる文字の最大個数は 256 個です。

- なお、指定する文字コードの個数が多い場合でも、途中で改行を入れないでください。
- 値は大文字で指定してください。
 - 複数の文字を指定する場合は、「,」（コンマ）で区切ってください。
 - 定義項目を省略した場合、設定値を省略した場合、又は指定が誤っていた場合は、全角スペース、「0x5C」、及び「0x7C」を含む 2 バイト文字コードを変換したファイル名が仮定されます。

2 バイトコードの文字変換方式については、「(4) 添付ファイル名の 2 バイトコードの文字変換方式の指定」を参照してください。

(例)

```
gml_fname_encode_dwchar=8140,5C,7C
```

2.6.5 メールの送信に関する設定

メールの送信や記事の掲示に関する設定について説明します。この項で説明する項目を表 2-11 に示します。

表 2-11 メール送信や記事の掲示に関する設定

項番	内容	ファイル名	シンボル名
(1)	配信通知のデフォルトを切り替える指定	config	gml_mail_deliverynotice
(2)	受信通知のデフォルトを切り替える指定	config	gml_mail_readstatus
(3)	メールの送信、記事掲示後の作成画面の動作の指定	config	gml_editorclear

(1) 配信通知のデフォルトを切り替える指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_mail_deliverynotice

対応するサービス：メール

メール作成画面で、「配信通知あり」又は「配信通知なし」のどちらをデフォルトにするのかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「YES」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「YES」、「NO」以外を指定した場合

YES：

「配信通知あり」をデフォルトにします。

NO：

2. Groupmax WWW の環境設定

「配信通知なし」をデフォルトにします。

(例)

```
gml_mail_deliverynotice=YES
```

(2) 受信通知のデフォルトを切り替える指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_mail_readstatus

対応するサービス : メール

メール作成画面で、「受信通知あり」又は「受信通知なし」のどちらをデフォルトにするのかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「YES」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「YES」、「NO」以外を指定した場合

YES :

「受信通知あり」をデフォルトにします。

NO :

「受信通知なし」をデフォルトにします。

(例)

```
gml_mail_readstatus=YES
```

(3) メールの送信、記事掲示後の作成画面の動作の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_editorclear

対応するサービス : メール, 掲示板

メールの送信、及び記事の掲示が正常に終了した場合の作成画面の動作を指定します。次の値のどれかを指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「CLOSE」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「YES」、「NO」、「CLOSE」以外を指定した場合

YES :

主題，本文，宛先などの設定情報，及びメール，記事の属性情報をクリアして作成画面を再表示します。

内容の異なるメール，記事を連続して複数作成できます。

NO：

主題，本文，宛先などの設定情報を送信前の状態のままにして，作成画面を再表示します。内容を一部変更したメール，及び記事を連続して複数作成できます。

CLOSE：

作成画面を閉じます。

「CLOSE」を指定するとメールを連続して複数作成しない場合，メール及び記事を作成した後に作成用のウィンドウを閉じる操作が不要になります。

(例)

```
gml_editorclear=CLOSE
```

2.6.6 メール及び掲示板の簡易表示に関する設定

メール及び掲示板の簡易表示に関する設定について説明します。この項で説明する項目を表 2-12 に示します。

表 2-12 メール及び掲示板の簡易表示に関する設定

項番	内容	ファイル名	シンボル名
(1)	簡易表示書式の宛先表示の指定	config	gml_SimDispAddress
(2)	簡易表示書式の受信日 / 掲示日表示の指定	config	gml_SimDispDate
(3)	簡易表示書式の主題 / 記事名表示の指定	config	gml_SimDispTitle
(4)	簡易表示書式の属性表示の指定	config	gml_SimDispAttribute
(5)	簡易表示書式の送信者 / 掲示者表示の指定	config	gml_SimDispSender
(6)	簡易表示書式の添付ファイル名表示の指定	config	gml_SimDispAttach
(7)	簡易表示書式の送信日表示の指定	config	gml_SimDispSendDate
(8)	簡易表示書式の折り返し文字数の指定	config	gml_SimDispCRByte

(1) 簡易表示書式の宛先表示の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_SimDispAddress

対応するサービス：メール

簡易表示を設定した場合，宛先を表示するかどうかを指定します。

次のどちらかの値を指定してください。値は大文字で指定してください。

なお，次の場合は「ON」が仮定されます。

2. Groupmax WWW の環境設定

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「ON」、「OFF」以外を指定した場合

また、「ON」を指定すると、簡易表示書式設定画面の初期表示は、[宛先]チェックボックスがチェックされた状態で表示されます。

ON :

宛先を表示します。

OFF :

宛先を表示しません。

(例)

```
gml_SimDispAddress=ON
```

(2) 簡易表示書式の受信日 / 掲示日表示の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_SimDispDate

対応するサービス : メール, 掲示板

簡易表示を設定した場合、受信日又は掲示日を表示するかどうかを指定します。

次のどちらかの値を指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「ON」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「ON」、「OFF」以外を指定した場合

また、「ON」を指定すると、簡易表示書式設定画面の初期表示は、[受信 / 掲示日]チェックボックスがチェックされた状態で表示されます。

ON :

受信日又は掲示日を表示します。

OFF :

受信日又は掲示日を表示しません。

(例)

```
gml_SimDispDate=ON
```

(3) 簡易表示書式の主題 / 記事名表示の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_SimDispTitle

対応するサービス：メール，掲示板

簡易表示を設定した場合，主題又は記事名を表示するかどうかを指定します。

次のどちらかの値を指定してください。値は大文字で指定してください。

なお，次の場合は「ON」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「ON」, 「OFF」以外を指定した場合

また，「ON」を指定すると，簡易表示書式設定画面の初期表示は，[主題 / 記事名] チェックボックスがチェックされた状態で表示されます。

ON：

主題又は記事名を表示します。

OFF：

主題又は記事名を表示しません。

(例)

```
gml_SimDispTitle=ON
```

(4) 簡易表示書式の属性表示の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_SimDispAttribute

対応するサービス：メール，掲示板

簡易表示を設定した場合，属性を表示するかどうかを指定します。

次のどちらかの値を指定してください。値は大文字で指定してください。

なお，次の場合は「ON」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「ON」, 「OFF」以外を指定した場合

また，「ON」を指定すると，簡易表示書式設定画面の初期表示は，[属性] チェックボックスがチェックされた状態で表示されます。

ON：

属性を表示します。

OFF：

2. Groupmax WWW の環境設定

属性を表示しません。

(例)

```
gml_SimDispAttribute=ON
```

(5) 簡易表示書式の送信者 / 掲示者表示の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_SimDispSender

対応するサービス : メール, 掲示板

簡易表示を設定した場合, 送信者又は掲示者を表示するかどうかを指定します。

次のどちらかの値を指定してください。値は大文字で指定してください。

なお, 次の場合は「ON」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「ON」, 「OFF」以外を指定した場合

また, 「ON」を指定すると, 簡易表示書式設定画面の初期表示は, [送信者 / 掲示者] チェックボックスがチェックされた状態で表示されます。

ON :

送信者又は掲示者を表示します。

OFF :

送信者又は掲示者を表示しません。

(例)

```
gml_SimDispSender=ON
```

(6) 簡易表示書式の添付ファイル名表示の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_SimDispAttach

対応するサービス : メール, 掲示板

簡易表示を設定した場合, 添付ファイル名を表示するかどうかを指定します。

次のどちらかの値を指定してください。値は大文字で指定してください。

なお, 次の場合は「ON」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「ON」, 「OFF」以外を指定した場合

また、「ON」を指定すると、簡易表示書式設定画面の初期表示は、[添付ファイル] チェックボックスがチェックされた状態で表示されます。

ON :

添付ファイル名を表示します。

OFF :

添付ファイル名を表示しません。

(例)

```
gml_SimDispAttach=ON
```

(7) 簡易表示書式の送信日表示の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_SimDispSendDate

対応するサービス : メール

簡易表示を設定した場合、送信日を表示するかどうかを指定します。

次のどちらかの値を指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「ON」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「ON」、「OFF」以外を指定した場合

また、「ON」を指定すると、簡易表示書式設定画面の初期表示は、[送信日] チェックボックスがチェックされた状態で表示されます。

ON :

送信日を表示します。

OFF :

送信日を表示しません。

(例)

```
gml_SimDispSendDate=ON
```

(8) 簡易表示の折り返し文字数の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_SimDispCRByte

対応するサービス : メール, 掲示板

簡易表示する場合の折り返しを行う文字数を指定します。文字数は0, 又は半角換算で2

2. Groupmax WWW の環境設定

～ 32,767 の範囲で指定してください。「0」を指定した場合は、簡易表示画面の折り返しはしません。

有効範囲外の数値を指定した場合、又は定義項目を省略した場合は、「0」が仮定されません。

なお、設定値を省略した場合、又は誤った指定をした場合は Groupmax WWW のサービス起動後、ユーザが Groupmax WWW を利用しようとしたときに次のエラーメッセージが表示され、Groupmax WWW を利用できません。

「KFCG1302-S：指定した config パラメタ ("xxxxx") はフォーマットが誤っています。config パラメタを見直してください。」(xxxxx：パラメタ名)

(例)

```
gml_SimDispCRByte=100
```

2.6.7 メール及び記事の内容表示画面に関する設定

メール及び掲示板の内容表示画面に関する設定について説明します。この項で説明する項目を表 2-13 に示します。

表 2-13 メール及び掲示板の内容表示画面に関する設定

項番	内容	ファイル名	シンボル名
(1)	メール及び記事の内容表示画面フレーム切り替えを ON に指定したときのデフォルトの指定	config	gml_contents_mode
(2)	メール及び記事の内容表示画面フレーム切り替えの指定	config	gml_contents_select

(1) メール及び記事の内容表示画面フレーム切り替えを ON に指定したときのデフォルトの指定

ファイル名： /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名： gml_contents_mode

対応するサービス：メール、掲示板

ツリービュー ([環境設定] カテゴリ選択時) の [表示画面設定] のフレーム表示指定で [デフォルト] を選択したときの画面表示モードを指定します。「フレームあり」とするか、「フレームなし」とするかを指定してください。「フレームあり」と「フレームなし」の違いについては、マニュアル「Groupmax World Wide Web Desktop Version 6 ユーザーズガイド」の「内容表示画面の表示方式を設定する」記述を参照してください。

次の値のどちらかを指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「ON」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「ON」、「OFF」以外を指定した場合

ON :

デフォルトを選択した場合、「フレームあり」で内容表示画面を表示します。

OFF :

デフォルトを選択した場合、「フレームなし」で内容表示画面を表示します。

(例)

```
gml_contents_mode=ON
```

(2) メール及び記事の内容表示画面フレーム切り替えの指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_contents_select

対応するサービス : メール, 掲示板

内容表示画面の「フレームあり」と「フレームなし」の切り替えを個人で設定するかどうかを指定します。フレーム切り替え機能の対象は、「受信メール内容表示画面」、「送信メール内容表示画面」、及び「記事内容表示画面」です。次の値のどちらかを指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「OFF」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「ON」、「OFF」以外を指定した場合

ON :

[環境設定] カテゴリの [メールの設定] - [表示画面設定] アイテムが表示されて、[表示画面設定] 画面から「フレームあり」と「フレームなし」の切り替えを行うことができます。

OFF :

[環境設定] カテゴリの [メールの設定] - [表示画面設定] アイテムが表示されません。この場合の「フレームあり」と「フレームなし」の設定は、「gml_contents_mode」の指定に従います。詳細は、「(1) メール及び記事の内容表示画面フレーム切り替えを ON に指定したときのデフォルトの指定」を参照してください。

(例)

```
gml_contents_select=ON
```

2.6.8 メールの下書き，格納に関する設定

メールの下書き，格納に関する設定について説明します。この項で説明する項目を表 2-14 に示します。

表 2-14 メールの下書き，格納に関する設定

項番	内容	ファイル名	シンボル名
(1)	メールの下書き保存容量の指定	config	gml_draft_max_size
(2)	メールの下書き保存先ディレクトリの指定	config	gml_draft_save_dir
(3)	コンテンツファイル保存形式のデフォルトの指定	config	gml_mail_contents_file_type
(4)	コンテンツを表示するときの作業ディレクトリの指定	config	gml_contents_temp_dir

(1) メールの下書き保存容量の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_draft_max_size

対応するサービス：メール

メールの下書き保存機能を使用するために，1 ユーザ当たりの最大保存可能容量をキロバイト単位（1 キロバイト = 1,024 バイト）で指定します。

指定できる値は，0 ~ 2,147,483,647 の範囲です。有効範囲外の数値を指定した場合，又は定義項目を省略した場合は，「0」が仮定されます。

「0」を指定した場合は，下書き保存機能は使用できません。ツリービューの「メール下書き」アイテム，及び「メール作成」画面の「下書き」メニューは表示されません。

なお，設定値を省略した場合，又は誤った指定をした場合は Groupmax WWW のサービス起動後，ユーザが Groupmax WWW を利用しようとしたときに次のエラーメッセージが表示され，Groupmax WWW を利用できません。

「KFCG1302-S：指定した config パラメタ ("xxxxx") はフォーマットが誤っています。config パラメタを見直してください。」(xxxxx：パラメタ名)

(例)

```
gml_draft_max_size=1000
```

(2) メールの下書き保存先ディレクトリの指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_draft_save_dir

対応するサービス：メール

メールの下書きを保存するときの保存先ディレクトリを絶対パスで指定します。

- 指定するディレクトリは既存のディレクトリでなくてもかまいません。
- 指定したディレクトリにほかのファイルを入れないでください。
- 指定するディレクトリには、「#」(シャープ)は指定できません。
- 定義項目を省略した場合、又は設定値を省略した場合は、「/groupmax/gmaxwww/mail/draft」下に下書きを保存します。
- 絶対パスを指定しない場合、又は権限がないディレクトリを指定するなどの誤った指定の場合は、下書き保存実行時に以下のメッセージを出力してエラーとなります。
「KFCG4331-S：メールの保存に失敗しました。」

(例)

```
gml_draft_save_dir=/groupmax/gmaxwww/mail/draft
```

注意事項

下書き保存先ディレクトリの変更は、Groupmax WWW サービスを停止してから行ってください。

運用開始後に、この項目を新たに指定する場合、又は指定内容を変更する場合は、以前に指定していたディレクトリ下に作成されたディレクトリとファイルすべて(指定を省略していた場合は、/groupmax/gmaxwww/mail/draft 下のディレクトリとファイルすべて)を、新たに指定したディレクトリの下に複写する必要があります。

(3) コンテンツファイル保存形式のデフォルトの指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_mail_contents_file_type

対応するサービス：メール

メールをコンテンツファイルに保存するとき、メールファイル形式(*.mlf)にするか、テキスト形式にするかどうかのデフォルトの値を指定します。[コンテンツファイル保存形式設定]画面の[デフォルト]を選択したときの保存形式です。次の値のどちらかを指定してください。値は大文字で指定してください。

次の場合は「MLF」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「MLF」、「TEXT」以外を指定した場合

MLF：

メールをメールファイル形式(*.mlf)でコンテンツファイルに保存します。メールファイル形式で保存した場合は、コンテンツファイルの表示ができます。

TEXT：

2. Groupmax WWW の環境設定

メールをテキスト形式 (*.txt) でコンテンツファイルに保存します。テキスト形式で保存した場合は、コンテンツファイルの表示はできません。

(例)

```
gml_mail_contents_file_type=MLF
```

(4) コンテンツを表示するときの作業ディレクトリの指定

ファイル名: /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名: gml_contents_temp_dir

対応するサービス: メール

コンテンツを表示するとき使用する作業ディレクトリを絶対パスで指定します。

- 指定するディレクトリは既存のディレクトリでなくてもかまいません。
- 指定したディレクトリにほかのファイルを入れないでください。
- 指定するディレクトリには、「#」(シャープ)は指定できません。
- 定義項目を省略した場合、又は設定値を省略した場合は、「/groupmax/gmaxwww/tmp/mail」下を作業ディレクトリとして使用します。
- 絶対パスを指定しない場合、又は権限がないディレクトリを指定するなどの誤った指定の場合は、メールのコンテンツ表示の実行時に、以下のメッセージを出力してエラーとなります。

「KFCG4336-S: コンテンツファイルの読み込みに失敗しました。」

(例)

```
gml_contents_temp_dir=/groupmax/gmaxwww/tmp/mail
```

注意事項

作業ディレクトリの変更は、Groupmax WWW サービスを停止してから行ってください。

2.6.9 メール宛先指定に関する設定

メールの宛先指定に関する設定について説明します。この項で説明する項目を表 2-15 に示します。

表 2-15 メール宛先指定に関する設定

項番	内容	ファイル名	シンボル名
(1)	宛先種別コンボボックスの初期設定項目の指定	config	gml_addr_type_default
(2)	宛先種別コンボボックスのインターネットアドレス選択項目の有無の切り替えの指定	config	gml_addr_type_internet
(3)	宛先直接入力時の宛先の一括登録の指定	config	gml_inputadr_mode
(4)	宛先直接入力時の宛先を一括登録した場合の宛先の区切り文字の指定	config	gml_inputadr_separate

項番	内容	ファイル名	シンボル名
(5)	電子アドレス帳の階層名称の表示の指定	config	gml_adrclass_show
(6)	組織一覧表示時の下位組織チェックの指定	config	gml_underlayer_check
(7)	宛先の個人リストの表示順の指定	config	gml_userlist_sort
(8)	システム宛先グループの個人リストの表示順の指定	config	gml_grp_userlist_sort
(9)	宛先の組織階層及び組織宛先の表示順の指定	config	gml_orglist_sort
(10)	システム宛先グループの組織階層及び組織宛先の表示順の指定	config	gml_grp_orglist_sort
(11)	組織宛先の表示の指定	config	gml_userlist_org
(12)	宛先一覧の上位表示の指定	config	gml_list_topmode
(13)	重複宛先削除機能の指定	config	gml_adrduplication_mode
(14)	宛先編集画面での宛先の表示順の指定	config	gml_recipedit_sort
(15)	Groupmax 格納機能の宛先種別の指定	config	gml_save_addr_type
(16)	組織名アンカーによって下位組織を展開させる指定	config	gml_adrtree_open
(17)	宛先を反映した後に電子アドレス帳画面を閉じる指定	config	gml_adr_close

(1) 宛先種別コンボボックスの初期設定項目の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_addr_type_default

対応するサービス：メール

電子アドレス帳の宛先指定時の Groupmax 宛先直接入力画面，電子アドレス帳のローカル宛先編集時の Groupmax 宛先直接入力画面，及びメール作成画面の宛先直接入力の種類を選択するコンボボックスに，初期表示される種別を指定します。値は大文字で指定してください。

なお，次の場合は「NICKNAME」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「NICKNAME」, 「ORNAME」, 「INTERNET」, 「JUDGE」以外を指定した場合

NICKNAME：

コンボボックスに「ニックネーム」を初期表示します。

ORNAME：

コンボボックスに「O/R 名」を初期表示します。

2. Groupmax WWW の環境設定

INTERNET :

コンボボックスに「インターネットアドレス」を初期表示します。ただし、`gml_addr_type_internet` で「OFF」を指定している場合は、「ニックネーム」を初期表示します。

JUDGE :

コンボボックスに「自動判定」を初期表示します。

(例)

```
gml_addr_type_default=NICKNAME
```

(2) 宛先種別コンボボックスのインターネットアドレス選択項目の有無の切り替えの指定

ファイル名 : `/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config`

シンボル名 : `gml_addr_type_internet`

対応するサービス : メール

メール作成画面、及び宛先直接入力画面の宛先種別を選択するコンボボックスに、「インターネットアドレス」を表示するかどうかを指定します。次の値のどちらかを指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「ON」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「ON」、「OFF」以外を指定した場合

ON :

インターネットアドレスの項目を表示します。

OFF :

インターネットアドレスの項目を表示しません。

(例)

```
gml_addr_type_internet=ON
```

(3) 宛先直接入力時の宛先の一括登録の指定

ファイル名 : `/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config`

シンボル名 : `gml_inputadr_mode`

対応するサービス : メール

宛先の直接入力をするとき、宛先を区切り文字で区切って入力することで、複数の宛先を一括して登録できるようにするかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定して

ください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「SINGLE」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「SINGLE」、「MULTI」以外を指定した場合

また、区切り文字は「gml_inputadr_separate」で指定してください。

「gml_inputadr_separate」については、「(4)宛先直接入力時の宛先を一括登録した場合の宛先の区切り文字の指定」を参照してください。

SINGLE :

複数の宛先の一括登録はできません。

MULTI :

複数の宛先を一括登録できます。

「MULTI」を指定した場合、半角 339 文字以内で複数の宛先を一度に指定できます。

この指定によって次の操作が不要になります。

- メール作成画面での [追加] 選択の操作
- 宛先直接入力画面の表示
- 宛先直接入力画面での宛先の直接入力
- 宛先直接入力画面での [OK] 選択の操作

(例)

```
gml_inputadr_mode=SINGLE
```

(4) 宛先直接入力時の宛先を一括登録した場合の宛先の区切り文字の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_inputadr_separate

対応するサービス : メール

宛先の直接入力時に複数の宛先を一括登録する場合、宛先の区切りに使用する文字を指定します。

次の値のどれかを指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「COMMA」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「COMMA」、「SPACE」、「SHARP」、「SEMICOLON」以外を指定した場合

COMMA :

「,」(半角コンマ)を区切り文字に使用します。

2. Groupmax WWW の環境設定

半角コンマは、すべての宛先種別で使用できる文字のため、半角コンマを含んだ宛先には使用できません。

SPACE :

半角スペースを区切り文字に使用します。

半角スペースは O/R 名で使用できる文字のため、宛先種別を O/R 名にしている場合は、区切り文字として使用しないでください。

SHARP :

「#」(半角シャープ)を区切り文字に使用します。

半角シャープは宛先には使用できない文字です。したがって、どの宛先種別でも区切り文字として使用できます。

SEMICOLON :

「;」(半角セミコロン)を区切り文字に使用します。

半角セミコロンは、ニックネームに使用できる文字です。したがって、システム内でニックネームに半角セミコロンを使用している場合は、区切り文字として使用しないでください。

(例)

```
gml_inputadr_separate=COMMA
```

(5) 電子アドレス帳の階層名称の表示の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_adrclass_show

対応するサービス : メール

宛先一覧に現在一覧を表示している階層の名前を表示するかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「YES」が仮定されます。

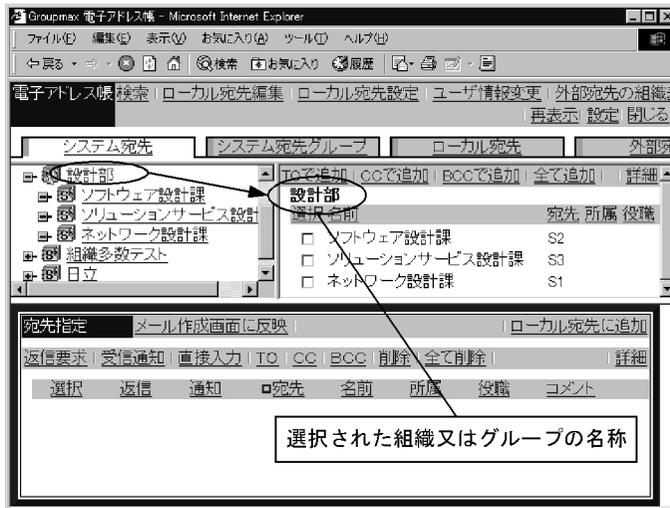
- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「YES」、「NO」以外を指定した場合

YES : 宛先一覧に現在一覧を表示している階層の名前を表示します。

NO : 宛先一覧に現在一覧を表示している階層の名前を表示しません。

(例)

```
gml_adrclass_show=YES
```



(6) 組織一覧表示時の下位組織チェックの指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_underlayer_check

対応するサービス：メール

[電子アドレス帳]画面の[システム宛先]で、組織一覧を表示する場合に、下位組織の有無をチェックするかどうかを指定します。

次の値のどちらかを指定してください。値は大文字で指定してください。

次の場合は「YES」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「YES」、「NO」以外を指定した場合

YES：

[電子アドレス帳]画面の[システム宛先]で、組織一覧を表示する場合、下位組織の有無をチェックしてから表示します。

下位組織がない場合は「-」のアイコンを、下位組織がある場合は「+」のアイコンを組織名の前に表示します。

ただし、組織の数が多い場合、システム宛先の表示が遅くなる場合があります。

NO：

[電子アドレス帳]画面の[システム宛先]で、組織一覧を表示する場合、下位組織の有無をチェックしないで表示します。

組織一覧の表示は、「YES」を指定した場合より速くなります。

2. Groupmax WWW の環境設定

ただし、下位組織がない場合も「+」のアイコンを組織名の前に表示します。

(例)

```
gml_underlayer_check =YES
```

(7) 宛先の個人リストの表示順の指定

ファイル名: /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名: gml_userlist_sort

対応するサービス: メール

システム宛先台帳、システム宛先グループ、及び外部宛先台帳の宛先の表示順を指定します。ただし、システム宛先グループの宛先の表示順は「gml_grp_userlist_sort」の指定が優先されます。詳細は「(8) システム宛先グループの個人リストの表示順の指定」を参照してください。

次の値のどれかを指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「NOSORT」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「NAME」、「POSITION」、「POSITION_NONAME」、「POSITION_PNAME」、「NICKNAME」、「NOSORT」以外を指定した場合

NAME :

日本語名順に表示します。日本語名が同じ場合は、順不同となります。

POSITION :

役職順に表示します。同じ役職順位が設定されている場合は、役職名順に表示します。役職名の役職順序番号(#文字以降)は表示順の対象とはなりません。「課長#1」と「課長#2」は同じ役職名と判断します。また、役職名(#文字より前)が同じ場合は、日本語名順に表示します。さらに、日本語名も同じ場合は、ユーザ ID 順に表示します。外部宛先の場合は、ディレクトリサーバからの到着順に表示します。

POSITION_NONAME :

役職順に表示します。同じ役職順位が設定されている場合は、役職名順に表示します。役職名の役職順序番号(#文字以降)は表示順の対象とはなりません。「課長#1」と「課長#2」は同じ役職名と判断します。また、役職名(#文字より前)が同じ場合は、ユーザ ID 順に表示します。外部宛先の場合は、ディレクトリサーバからの到着順に表示します。

POSITION_PNAME :

役職順に表示します。同じ役職順位が設定されている場合は、役職名順に表示します。役職名の役職順序番号(#文字以降)は表示順の対象とします。「課長#1」と

「課長 #2」は異なる役職名となります。また、役職名が同じ場合は、ユーザ ID 順に表示します。外部宛先の場合は、ディレクトリサーバからの到着順に表示します。

NICKNAME :

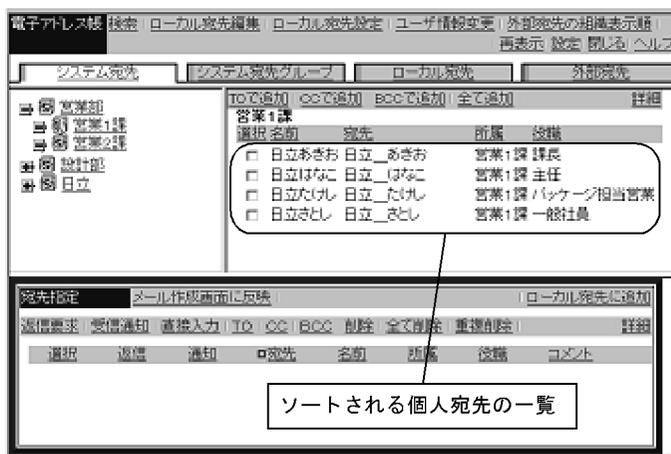
ニックネーム順（外部宛先の場合は O/R 名順）に表示します。

NOSORT :

ユーザ ID 順に表示します。外部宛先の場合は、ディレクトリサーバからの到着順に表示します。

(例)

`gml_userlist_sort=NAME`



注意事項

Groupmax Address Server で役職定義を変更した場合は、次のファイルを削除してください。なお、ファイルの削除は、WWW サービスが停止しているときに実行してください。

`/groupmax/gmaxwww/tmp/mail/posinfo`

(8) システム宛先グループの個人リストの表示順の指定

ファイル名：`/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config`

シンボル名：`gml_grp_userlist_sort`

対応するサービス：メール

システム宛先グループの宛先の表示順を指定します。次の値のどれかを指定してください。値は大文字で指定してください。

次の場合は、「`gml_userlist_sort`」で指定した表示順となります。

- 定義項目を省略した場合

2. Groupmax WWW の環境設定

- 設定値を省略した場合
- 「NAME」、「POSITION」、「POSITION_NONAME」、「POSITION_PNAME」、「NICKNAME」、「NOSORT」以外を指定した場合

NAME :

日本語名順に表示します。日本語名が同じ場合は、順不同となります。

POSITION :

役職順に表示します。同じ役職順位が設定されている場合は、役職名順に表示します。役職名の役職順序番号（#文字以降）は表示順の対象とはなりません。「課長 #1」と「課長 #2」は同じ役職名と判断します。また、役職名（#文字より前）が同じ場合は、日本語名順に表示します。

POSITION_NONAME :

役職順に表示します。同じ役職順位が設定されている場合は、役職名順に表示します。役職名の役職順序番号（#文字以降）は表示順の対象とはなりません。「課長 #1」と「課長 #2」は同じ役職名と判断します。また、役職名（#文字より前）が同じ場合は、ユーザ ID 順に表示します。

POSITION_PNAME :

役職順に表示します。同じ役職順位が設定されている場合は、役職名順に表示します。役職名の役職順序番号（#文字以降）は表示順の対象とします。「課長 #1」と「課長 #2」は異なる役職名となります。また、役職名が同じ場合は、ユーザ ID 順に表示します。

NICKNAME :

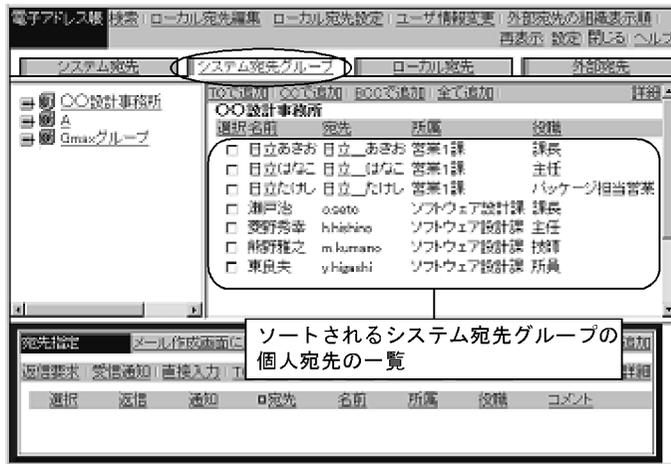
ニックネーム順に表示します。

NOSORT :

ユーザ ID 順に表示します。

(例)

```
gml_grp_userlist_sort=NAME
```



注意事項

Groupmax Address Server で役職定義を変更した場合は、次のファイルを削除してください。なお、ファイルの削除は、WWW サービスが停止しているときに行ってください。

/groupmax/gmaxwww/tmp/mail/posinfo

(9) 宛先の組織階層及び組織宛先の表示順の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_orglist_sort

対応するサービス：メール

システム宛先台帳、システム宛先グループ、外部宛先台帳の組織階層、及び宛先一覧に表示する組織宛先の表示順を指定します。次の値のどれかを指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「NAME」が仮定されます。

- ・ 定義項目を省略した場合
- ・ 設定値を省略した場合
- ・ 「NAME」、「ID」、「NOSORT」以外を指定した場合

NAME：

日本語名順に表示します。

ID：

- ・ システム宛先台帳の場合は、組織 ID 順に表示します。
- ・ システム宛先グループの場合は、グループ階層をグループ ID 順に表示し、宛先一覧の組織宛先を組織 ID 順に表示します。

2. Groupmax WWW の環境設定

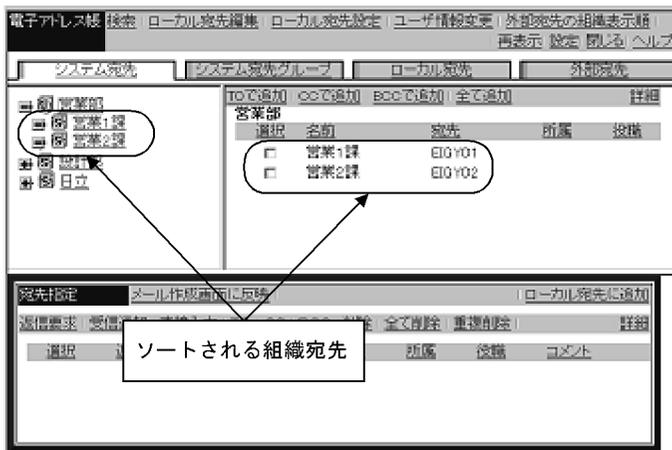
- 外部宛先台帳の場合は、ドメイン DN 順に表示します。

NOSORT :

- システム宛先台帳の場合は、組織 ID 順に表示します。
- システム宛先グループの場合は、グループ階層をグループ ID 順に表示し、宛先一覧の組織宛先を組織 ID 順に表示します。
- 外部宛先台帳の場合は、ディレクトリサーバからの到着順に表示します。

(例)

`gml_orglist_sort=NAME`



(10) システム宛先グループの組織階層及び組織宛先の表示順の指定

ファイル名 : `/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config`

シンボル名 : `gml_grp_orglist_sort`

対応するサービス : メール

システム宛先グループの組織階層、及び宛先一覧に表示する組織宛先の表示順を指定します。次の値のどれかを指定してください。値は大文字で指定してください。

次の場合は「`gml_orglist_sort`」で指定した表示順となります。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「NAME」、「ID」、「NOSORT」以外を指定した場合

NAME :

- グループ階層をグループ名称順に表示します。
- 宛先一覧の組織宛先を組織の略称名順に表示します。

ID :

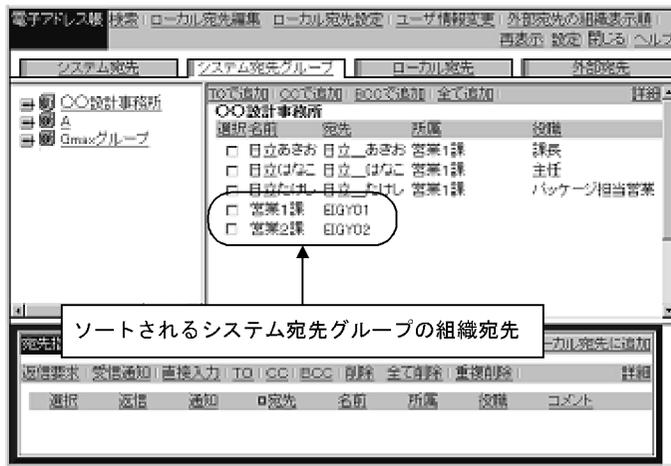
- グループ階層をグループ ID 順に表示します。
- 宛先一覧の組織宛先を組織 ID 順に表示します。

NOSORT :

- グループ階層をグループ ID 順に表示します。
- 宛先一覧の組織宛先を組織 ID 順に表示します。

(例)

`gml_grp_orglist_sort=NAME`



(11) 組織宛先の表示の指定

ファイル名 : `/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config`

シンボル名 : `gml_userlist_org`

対応するサービス : メール

システム宛先台帳、及びシステム宛先グループからの宛先指定時に、組織宛先を表示するかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「NO」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「YES」、「NO」以外を指定した場合

YES :

組織宛先を表示します。

NO :

組織宛先を表示しません。

2. Groupmax WWW の環境設定

(例)

```
gml_userlist_org=NO
```

(12)宛先一覧の上位表示の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_list_topmode

対応するサービス : メール

システム宛先で組織宛先を使用する場合、上位に表示する宛先を指定します。次のどちらかの値を指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「USER」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「USER」、「ORG」以外を指定した場合

USER :

個人宛先を上位に表示します。

ORG :

組織宛先を上位に表示します。

(例)

```
gml_list_topmode=USER
```

(13)重複宛先削除機能の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_adrduplication_mode

対応するサービス : メール

送信先に指定した宛先に同一の宛先がある場合、自動的に同一の宛先を削除するかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「AUTO」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「AUTO」、「MANUAL」以外を指定した場合

AUTO :

同一の宛先を自動的に削除します。

MANUAL :

同一の宛先を自動的に削除しません。ただし、[重複削除] ボタンを選択して同一の宛先を削除できます。

(例)

```
gml_adrduplication_mode=AUTO
```

(14)宛先編集画面での宛先の表示順の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_reciptedit_sort

対応するサービス : メール

宛先編集画面での宛先の表示順を指定します。次のどちらかの値を指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「NOSORT」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「PREFIX」, 「NOSORT」以外を指定した場合

PREFIX :

プリフィックス順に表示します。

なお、同一プリフィックス内ではニックネーム順に表示します。

NOSORT :

指定した順に表示します。

(例)

```
gml_reciptedit_sort=PREFIX
```

(15)Groupmax 格納機能の宛先種別の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_save_addr_type

対応するサービス : メール

格納インターフェースを使用して、メール・掲示板以外の機能からメール作成画面を起動する場合の宛先種別を指定します。次の値のどちらかを指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「JUDGE」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合

2. Groupmax WWW の環境設定

- 「JUDGE」, 「NICKNAME」以外を指定した場合

NICKNAME :

指定された宛先の種別をニックネームとして判断します。

JUDGE :

指定された宛先の種別を自動判定で判断します。

(例)

```
gml_save_addr_type=NICKNAME
```

注意事項

ニックネームに「@」が含まれている場合は、「NICKNAME」を指定してください。
「JUDGE」を指定して自動判定を行うと Internet Address として判断し、正しくメールを送信することができません。

(16) 組織名アンカーによって下位組織を展開させる指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_adrtree_open

対応するサービス : メール

電子アドレス帳のツリー表示の組織名アンカーをクリックすると、下位の組織がある場合は、下位組織を展開するかどうか指定します。この指定が適用される宛先台帳は、システム宛先と外部宛先です。次の値のどちらかを指定してください。値は大文字で指定してください。

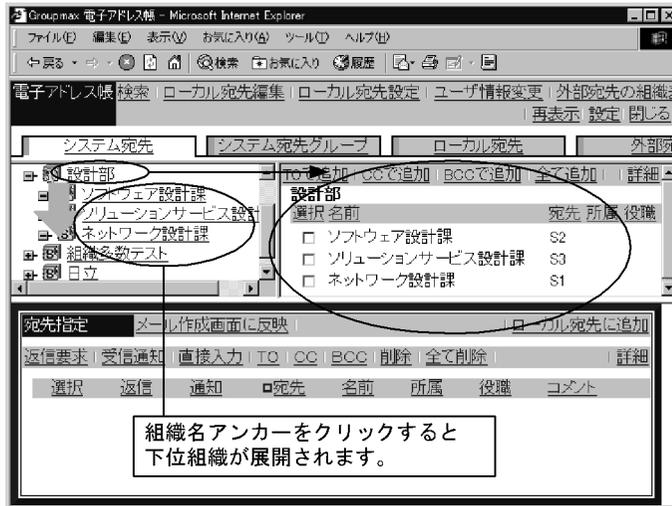
次の場合は「OFF」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「ON」, 「OFF」以外を指定した場合

ON :

電子アドレス帳のツリー表示の組織名アンカーをクリックすると、下位の組織がある場合は、下位組織を展開し、指定された組織の宛先一覧を表示します。

図 2-12 組織名アンカーによって下位組織を展開させる指定を「ON」にした場合の表示例



OFF :

電子アドレス帳のツリー表示の組織名アンカーをクリックすると、指定された組織の宛先一覧を表示します。下位組織は展開されません。下位組織を展開するには、[+] ボタンを指定してください。

(例)

```
gml_adrtree_open=OFF
```

注意事項

gml_adrtree_open=ON の場合、下位組織が多数あると、表示が遅くなる場合があります。

(17)宛先を反映した後に電子アドレス帳画面を閉じる指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_adr_close

対応するサービス：メール

[電子アドレス帳] 画面で宛先を編集し、[メール作成画面に反映] アンカーをクリックして、宛先指定領域の宛先一覧をメール作成画面の宛先に反映した場合に、[電子アドレス帳] 画面を自動的に閉じるかどうかを設定します。次の値のどちらかを指定してください。値は大文字で指定してください。

次の場合は「NO」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合

2. Groupmax WWW の環境設定

- 設定値を省略した場合
- 「YES」、「NO」以外を指定した場合

YES :

電子アドレス帳の「メール作成画面に反映」アンカーをクリックすると、宛先指定領域の宛先一覧をメール作成画面の宛先に反映した後に、[電子アドレス帳] 画面を自動的に閉じます。

NO :

電子アドレス帳の「メール作成画面に反映」アンカーをクリックすると、宛先指定領域の宛先一覧をメール作成画面の宛先に反映しますが、[電子アドレス帳] 画面は表示されたままになります。

(例)

gml_adr_close=NO

注意事項

ユーザが「電子アドレス帳の設定」画面で設定を行っている場合は、ユーザが設定している「電子アドレス帳の設定」画面の指定が有効になります。

2.6.10 メールの宛先確認に関する設定

メールの宛先確認に関する設定について説明します。この項で説明する項目を表 2-16 に示します。

表 2-16 メール宛先確認に関する設定

項番	内容	ファイル名	シンボル名
(1)	宛先確認機能の指定	config	gml_addrcheck
(2)	宛先確認画面の日本語名の表示長の指定	config	gml_addrcheck_jpnamelen
(3)	宛先確認画面の最上位組織名の表示長の指定	config	gml_addrcheck_toporgnamelen
(4)	宛先確認画面の組織名の表示長の指定	config	gml_addrcheck_orgnamelen

(1) 宛先確認機能の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_addrcheck

対応するサービス : メール

メール送信時、自動的に宛先一覧画面を表示して宛先を確認する、宛先確認機能を使用するかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「NO」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「YES」、「NO」以外を指定した場合

YES :

宛先確認機能を使用します。

NO :

宛先確認機能を使用しません。

(例)

```
gml_addrcheck=NO
```

(2) 宛先確認画面の日本語名の表示長の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_addrcheck_jpnamelen

対応するサービス : メール

宛先確認画面の日本語名の表示長を指定します。表示長は、半角換算で0～32文字の範囲で指定してください。0を指定した場合、日本語名は表示されなくなります。次の場合は「32」が仮定されます。

- 33文字以上の文字数を指定した場合
- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 数値以外を指定した場合

(例)

```
gml_addrcheck_jpnamelen=32
```

(3) 宛先確認画面の最上位組織名の表示長の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_addrcheck_toporgnamelen

対応するサービス : メール

宛先確認画面の最上位組織名の表示長を指定します。表示長は、半角換算で0～128文字の範囲で指定してください。0を指定した場合、最上位組織名は表示されなくなります。次の場合は「128」が仮定されます。

- 129文字以上の文字数を指定した場合
- 定義項目を省略した場合

2. Groupmax WWW の環境設定

- 設定値を省略した場合
- 数値以外を指定した場合

(例)

```
gml_addrcheck_toporgnamelen=128
```

(4) 宛先確認画面の組織名の表示長の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_addrcheck_orgnamelen

対応するサービス : メール

宛先確認画面の組織名の表示長を指定します。表示長は、半角換算で 0 ~ 128 文字の範囲で指定してください。0 を指定した場合、組織名は表示されなくなります。次の場合は「128」が仮定されます。

- 129 文字以上の文字数を指定した場合
- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 数値以外を指定した場合

(例)

```
gml_addrcheck_orgnamelen=128
```

2.6.11 メールの宛先検索に関する設定

宛先検索に関する設定について説明します。この項で説明する項目を表 2-17 に示します。

表 2-17 メールの宛先検索に関する設定

項番	内容	ファイル名	シンボル名
(1)	宛先検索画面に初期表示する検索条件の指定	config	gml_adrsearch_conditions
(2)	システム宛先の検索で検索キーが指定されていないときの動作の指定	config	gml_systemsearch_nokey
(3)	外部宛先の検索で検索キーが指定されていないときの動作の指定	config	gml_directorysearch_nokey
(4)	システム宛先検索時の最大取得件数の指定	config	gml_system_maxsearchnum

(1) 宛先検索画面に初期表示する検索条件の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_adrsearch_conditions

対応するサービス : メール

システム宛先，又は外部宛先の宛先検索画面に初期表示する検索条件を指定します。次の値のどれかを指定してください。値は大文字で指定してください。

なお，次の場合は「FRONT」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「FRONT」, 「PERFECT」, 「PART」以外を指定した場合

FRONT :

宛先検索画面の検索条件に「で始まる」をデフォルトで表示します。

PERFECT :

宛先検索画面の検索条件に「と等しい」をデフォルトで表示します。

PART :

宛先検索画面の検索条件に「を含む」をデフォルトで表示します。

(例)

```
gml_adrsearch_conditions=FRONT
```

(2) システム宛先の検索で検索キーが指定されていないときの動作の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_systemsearch_nokey

対応するサービス名：メール

システム宛先の検索で検索キーが指定されていないときの動作を指定します。次のどちらかの値を指定してください。値は大文字で指定してください。

なお，次の場合は「ERROR」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「ERROR」, 「ALL」以外を指定した場合

ERROR :

システム宛先の検索で検索キーが指定されていないとき，検索条件未指定エラーとします。

ALL :

システム宛先の検索で検索キーが指定されていないとき，全件検索を実施します。

(例)

```
gml_systemsearch_nokey=ERROR
```

(3) 外部宛先の検索で検索キーが指定されていないときの動作の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_directorysearch_nokey

対応するサービス名 : メール

外部宛先の検索で検索キーが指定されていないときの動作を指定します。次のどちらかの値を指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「ERROR」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「ERROR」、「ALL」以外を指定した場合

ERROR :

外部宛先の検索で検索キーが指定されていないとき、検索条件未指定エラーとします。

ALL :

外部宛先の検索で検索キーが指定されていないとき、全件検索を実施します。

(例)

```
gml_directorysearch_nokey=ERROR
```

(4) システム宛先検索時の最大取得件数の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_system_maxsearchnum

対応するサービス : メール

システム宛先の検索時に取得する最大件数を指定します。最大件数は 1 ~ 256 の範囲で指定してください。

有効範囲外の数値を指定した場合、又は定義項目を省略した場合は「50」が仮定されます。設定値を省略した場合、又は誤った指定をした場合は、Groupmax WWW のサービスを起動後、ユーザが Groupmax WWW を利用しようとしたときに次のエラーメッセージが表示され、Groupmax WWW を利用できません。

「KFCG1302-S : 指定した config パラメタ ("xxxxx") はフォーマットが誤っています。config パラメタを見直してください。」(xxxxx : パラメタ名)

(例)

```
gml_system_maxsearchnum=50
```

2.6.12 ローカル宛先に関する設定

ローカル検索に関する設定について説明します。この項で説明する項目を表 2-18 に示します。

表 2-18 ローカル宛先に関する設定

項番	内容	ファイル名	シンボル名
(1)	ローカル宛先ファイルの最大ファイルサイズの指定	config	gml_maxfilesize
(2)	ローカル宛先ファイルの格納先ディレクトリの指定	config	gml_pathname
(3)	ローカル宛先ファイルのログアウト時の削除方法の指定	config	gml_deletemode
(4)	コメント自動生成の指定	config	gml_ladrcomment_auto
(5)	16 ビット版ローカル宛先ファイルの指定	config	gml_ladrcnv16
(6)	ローカル宛先台帳のグループの表示順の指定	config	gml_ladrgrplist_sort
(7)	ローカル宛先台帳の宛先一覧の表示順の指定	config	gml_ladruserlist_sort

(1) ローカル宛先ファイルの最大ファイルサイズの指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_maxfilesize

対応するサービス：メール

ローカル宛先ファイルのファイルサイズの最大値をキロバイト単位で指定します。300 ~ 9,999 の間又は 0 の値を指定してください。

0 を指定した場合、有効範囲外の数値を指定した場合、又は定義項目を省略した場合は、最大値は無制限となります。設定値を省略した場合、又は誤った指定をした場合は、Groupmax WWW のサービスを起動後、ユーザが Groupmax WWW を利用しようとしたときに次のエラーメッセージが表示され、Groupmax WWW を利用できません。

「KFCG1302-S：指定した config パラメタ ("xxxxx") はフォーマットが誤っています。config パラメタを見直してください。」(xxxxx：パラメタ名)

(例)

```
gml_maxfilesize=0
```

(2) ローカル宛先ファイルの格納先ディレクトリの指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_pathname

2. Groupmax WWW の環境設定

対応するサービス：メール

ローカル宛先ファイルを格納する時の保存先ディレクトリを絶対パスで指定します。値は大文字で指定してください。

- 指定するディレクトリは、既存のディレクトリでなくてもかまいません。
- 指定したディレクトリには、ほかのファイルを入れないでください。
- 指定するディレクトリには、「#」(シャープ)及び半角スペースは指定できません。
- 定義項目を省略した場合、及び設定値を省略した場合は「/groupmax/gmaxwww/tmp/mail」下にローカル宛先ファイルを保存します。
- 絶対パスで指定しなかった場合は、「/groupmax/gmaxwww/spool/krk + 指定したディレクトリ名」下にローカル宛先ファイルを保存します。

(例)

```
gml_pathname=/groupmax/gmaxwww/tmp/mail
```

注意事項

ローカル宛先ファイルの保存先の変更は、Groupmax WWW のサービスを停止してから実行してください。

運用開始後に、この項目を新たに指定する場合、又は指定内容を変更する場合は、以前に指定していたディレクトリ下に作成されたローカル宛先ファイル(指定を省略していた場合は、/groupmax/gmaxwww/tmp/mail ディレクトリ下にあるファイル)を、新たに指定したディレクトリの下に複写する必要があります。

ただし、変更前の状態が指定を省略していた場合は、/groupmax/gmaxwww/tmp/mail ディレクトリには、次のファイルが含まれています。

- 外部宛先の組織表示順の情報ファイル：@xxxxxx.DIRLIST.DAT (xxxxxx はユーザ ID)
- 署名ファイル：@xxxxxx.SIGNATORY.DAT (xxxxxx はユーザ ID の 16 進表記)

これらのファイルは新たに指定したディレクトリの下に複写しないでください。

(3) ローカル宛先ファイルのログアウト時の削除方法の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_deletemode

対応するサービス：メール

ローカル宛先ファイルをログアウト時にサーバから削除するかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、この場合は「NO」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「YES」、「NO」以外を指定した場合

YES :

ローカル宛先ファイルをログアウト時に削除します。

NO :

ローカル宛先ファイルをサーバに保持します。

(例)

```
gml_deletemode=NO
```

注意事項

指定を「NO」から「YES」に切り替えた場合、切り替える前にログインしていたユーザのローカル宛先ファイルは `gml_pathname` で指定したディレクトリに残ります。残ったローカル宛先ファイルが不要な場合は、削除対象となるファイルを残したユーザがログインしていないことを確認してから削除してください。

(4) コメント自動生成の指定

ファイル名 : `/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config`

シンボル名 : `gml_ladrcomment_auto`

対応するサービス : メール

ローカル宛先編集で、システム宛先、又はシステム宛先グループから宛先を入力するとき、宛先指定画面に選択されている宛先の「日本語名」及び「組織名」を、自動的にローカル宛先編集の「コメント」に追加するかどうかを指定します。

次の値のどれかを指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「NO」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「NO」、「NAME」、「ORG」、「ALL」以外を指定した場合

NO :

ローカル宛先編集の「コメント」には、「日本語名」も「組織名」も追加しません。

NAME :

「日本語名」をローカル宛先編集の「コメント」に追加します。

ORG :

「組織名」をローカル宛先編集の「コメント」に追加します。

ALL :

「日本語名」及び「組織名」を「,」(コンマ)で区切ってローカル宛先編集の「コメント」に追加します。

(例)

2. Groupmax WWW の環境設定

```
gml_ladrcomment_auto=NO
```

(5) 16ビット版ローカル宛先ファイルの指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_ladrcnv16

対応するサービス : メール

ローカル宛先ファイルから宛先を選択した場合、又はローカル宛先の編集時に 16 ビット版 Mail クライアントのフォーマット (ただし、Macintosh 版は除きます) のローカル宛先ファイルをアップロードした場合、既にあるファイルに登録内容を追加するかどうかを指定します。

次のどれかの値を指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「CNV」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「CNV」、「ADD」、「NO」以外を指定した場合

CNV :

変換したファイルに置き換えます。

ADD :

既にあるファイルに追加します。

NO :

ローカル宛先ファイルから宛先を選択した場合、又はローカル宛先ファイルを編集している場合に 16bit 版 Mail クライアントのフォーマットのローカル宛先ファイルをアップロードして使用できません。アップロードした場合は、次のエラーメッセージが表示されます。

「KFCG4709-S : 16 ビットクライアントのローカル宛先ファイルを変換中にエラーが発生しました。」

(例)

```
gml_ladrcnv16=CNV
```

(6) ローカル宛先台帳のグループの表示順の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_ladrgrplist_sort

対応するサービス : メール

ローカル宛先台帳のグループの組織階層の表示順を指定します。次のどちらかの値を指

定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「NAME」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「NAME」、「NOSORT」以外を指定した場合

NAME :

日本語名順に表示します。

NOSORT :

ローカル宛先ファイルに登録されている順に表示します。

(例)

```
gml_ladrgrplist_sort=NAME
```

(7) ローカル宛先台帳の宛先一覧の表示順の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_ladruserlist_sort

対応するサービス : メール

ローカル宛先台帳の宛先一覧の表示順を指定します。次のどちらかの値を指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「NOSORT」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「NICKNAME」、「NOSORT」以外を指定した場合

NICKNAME :

宛先順に表示します。異なる種別の宛先が含まれている場合は、O/R 名、InternetAddress、ニックネームの各種別でまとめて表示します。

NOSORT :

順不同で表示します。

(例)

```
gml_ladruserlist_sort=NOSORT
```

2.6.13 外部宛先に関する設定

外部宛先に関する設定について説明します。この項で説明する項目を表 2-19 に示します。

2. Groupmax WWW の環境設定

表 2-19 外部宛先に関する設定

項番	内容	ファイル名	シンボル名
(1)	外部宛先台帳の使用の指定	config	<code>gml_dirserver_use</code>
(2)	外部宛先の接続先の指定	config	<code>gml_directory_server</code>
(3)	外部宛先サーバのサービス名又はポート番号の指定	config	<code>gml_dir_servicename</code>
(4)	外部宛先サーバの国名の指定	config	<code>gml_dir_dnsuffix_c</code>
(5)	外部宛先サーバのドメイン名称の指定	config	<code>gml_dir_dnsuffix_o</code>
(6)	外部宛先サーバの管理レベルの指定	config	<code>gml_dir_svrlevel</code>
(7)	外部宛先サーバの組織名の指定	config	<code>gml_dir_dnsuffix_ou</code>
(8)	外部宛先のタイムアウト時間の指定	config	<code>gml_dir_timeout</code>
(9)	外部宛先の最大取得件数の指定	config	<code>gml_dir_maxsearchnum</code>
(10)	外部宛先キャッシュサイズの指定	config	<code>gml_dir_cachesize</code>
(11)	接続ドメイン情報の文字コードの指定	config	<code>gml_dir_ref_charactercode</code>
(12)	接続ドメイン情報取得位置の指定	config	<code>gml_dir_refdn</code>
(13)	外部宛先の組織表示順変更の指定	config	<code>gml_dirlist_sort_use</code>

(1) 外部宛先台帳の使用の指定

ファイル名 : `/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config`

シンボル名 : `gml_dirserver_use`

対応するサービス名 : メール

外部宛先台帳を使用するかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。値を大文字で指定してください。

なお、次の場合は「NO」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「YES」、「NO」以外を指定した場合

YES :

外部宛先を使用します。

NO :

外部宛先を使用しません。

(例)

`gml_dirserver_use=NO`

注意事項

外部宛先台帳を使用するためには、Hitachi Directory Runtime を Groupmax WWW サーバにインストールしてください。

(2) 外部宛先の接続先の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_directory_server

対応するサービス：メール

ディレクトリサーバのホスト名又は IP アドレスを 255 文字以内で指定します。外部宛先台帳を利用するときには、gml_directory_server を必ず指定してください。

なお、次の場合は外部宛先台帳を使用できません。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 有効なホスト名及び IP アドレス以外を指定した場合

(例)

```
gml_directory_server=202.8.112.225
```

(3) 外部宛先サーバのサービス名又はポート番号の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_dir_servicename

対応するサービス：メール

ディレクトリサーバのサービス名又はポート番号を 15 文字以内で指定します。外部宛先台帳を利用するときには、gml_dir_servicename を必ず指定してください。

定義項目を省略した場合は「389」(ポート番号)が仮定されます。設定値を省略した場合はエラーになります。なお、指定できるホスト名及び IP アドレス以外を指定した場合は、外部宛先台帳を使用できません。

(例)

```
gml_dir_servicename=389
```

(4) 外部宛先サーバの国名の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_dir_dnsuffix_c

対応するサービス：メール

ディレクトリサーバが所属する国名をコードで指定します。国名のコードは、接続するディレクトリサーバの設定に合わせてください。

2. Groupmax WWW の環境設定

定義項目を省略した場合、又は設定値を省略した場合は「JP」（日本）が仮定されます。
なお、指定できる国名以外を指定した場合は外部宛先台帳を使用できません。

外部宛先台帳を利用するときには、`gml_dir_dnsuffix_c` を必ず指定してください。

指定できる国名の例を次に示します。

（例）

- JP（日本）
- US（アメリカ）
- UK（イギリス）
- CA（カナダ）

（例）

```
gml_dir_dnsuffix_c=JP
```

（5）外部宛先サーバのドメイン名称の指定

ファイル名： `/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config`

シンボル名： `gml_dir_dnsuffix_o`

対応するサービス：メール

ディレクトリサーバのドメイン名称を 64 文字以内で指定します。

次の場合は外部宛先台帳を使用できません。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 有効なドメイン名以外を指定した場合

外部宛先台帳を利用するときには、`gml_dir_dnsuffix_o` を必ず指定してください。

（例）

```
gml_dir_dnsuffix_o=SOFT
```

（6）外部宛先サーバの管理レベルの指定

ファイル名： `/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config`

シンボル名： `gml_dir_svrlevel`

対応するサービス：メール

ディレクトリサーバのサーバ管理レベルを指定します。次のどちらかの値で指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「DLEVEL_O」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「DLEVEL_O」、「DLEVEL_OU」以外を指定した場合

DLEVEL_O :

組織レベル (ディレクトリサーバが組織に属さない) でサーバを管理します。

DLEVEL_OU :

組織単位レベル (ディレクトリサーバが組織に属する) でサーバを管理します。

(例)

```
gml_dir_svrlevel=DLEVEL_O
```

(7) 外部宛先サーバの組織名の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_dir_dnsuffix_ou

対応するサービス : メール

「サーバ管理レベル」が組織単位の場合、ディレクトリサーバが所属する組織名を 64 文字以内で指定します。組織名は大文字で指定してください。なお、次の場合は外部宛先台帳を使用できません。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 有効な組織名以外を指定した場合

(例)

```
gml_dir_dnsuffix_ou=SOFT
```

(8) 外部宛先のタイムアウト時間の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gml_dir_timeout

対応するサービス : メール

gml_dir_timeout で指定した時間が経過しても宛先一覧表示、及び検索が終了しない場合、処理が中断されます。値は 1 ~ 65,535 の範囲で指定してください。この値の単位は秒です。

有効範囲外の数値を指定した場合、又は定義項目を省略した場合は「300」が仮定されます。なお、設定値を省略した場合、又は誤った指定をした場合は、Groupmax WWW のサービスを起動後、ユーザが Groupmax WWW を利用しようとしたときに次のエラーメッセージが表示され、Groupmax WWW を利用できません。

2. Groupmax WWW の環境設定

「KFCG1302-S：指定した config パラメタ ("xxxxx") はフォーマットが誤っています。config パラメタを見直してください。」(xxxxx：パラメタ名)

外部宛先を使用するときは、gml_dir_timeout を必ず指定してください。

(例)

```
gml_dir_timeout=200
```

(9) 外部宛先の最大取得件数の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_dir_maxsearchnum

対応するサービス：メール

宛先一覧表示、及び検索時の最大取得件数を指定します。値は 1 ~ 65,535 の範囲で指定してください。

有効範囲外の数値を指定した場合、又は定義項目を省略した場合は「1000」が仮定されます。なお、設定値を省略した場合、又は誤った指定をした場合は、Groupmax WWW のサービスを起動後、ユーザが Groupmax WWW を利用しようとしたときに次のエラーメッセージが表示され、Groupmax WWW を利用できません。

「KFCG1302-S：指定した config パラメタ ("xxxxx") はフォーマットが誤っています。config パラメタを見直してください。」(xxxxx：パラメタ名)

外部宛先を使用するときは、gml_dir_maxsearchnum を必ず指定してください。

(例)

```
gml_dir_maxsearchnum=500
```

(10) 外部宛先キャッシュサイズの指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_dir_cachesize

対応するサービス：メール

宛先一覧表示、及び検索時に使用するメモリキャッシュのサイズをキロバイト単位で指定します。0 ~ 1,048,576 の値を指定してください。「0」を指定した場合は、メモリキャッシュを使用しません。

有効範囲外の数値を指定した場合、又は定義項目を省略した場合は「64」が仮定されます。なお、設定値を省略した場合、又は誤った指定をした場合は、Groupmax WWW のサービス起動後、ユーザが Groupmax WWW を利用しようとしたときに次のエラーメッセージが表示され、Groupmax WWW を利用できません。

「KFCG1302-S：指定した config パラメタ ("xxxxx") はフォーマットが誤っています。config パラメタを見直してください。」(xxxxx：パラメタ名)

(例)

```
gml_dir_cachesize=512
```

(11) 接続ドメイン情報の文字コードの指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_dir_ref_charactercode

対応するサービス：メール

接続ドメイン情報の文字コードを指定します。次のどちらかの値を指定してください。値は大文字で指定してください。

定義項目を省略した場合、又は設定値を省略した場合は「SHIFT_JIS」が仮定されます。なお、「SHIFT_JIS」、「UTF_8」以外を指定した場合は、指定した文字コードを取得し
ます。

SHIFT_JIS：

接続ドメイン情報の文字コードを SHIFT_JIS として取得します。

UTF_8：

接続ドメイン情報の文字コードを UTF_8 として取得します。

(例)

```
gml_dir_ref_charactercode=SHIFT_JIS
```

(12) 接続ドメイン情報取得位置の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gml_dir_refdn

対応するサービス：メール

接続ドメイン情報の取得位置を指定します。0 ~ 511 バイトの任意の文字列で指定してください。定義項目を省略した場合、又は設定値を省略した場合は「ou=domains,o=Groupmax」が仮定されます。なお、有効な取得位置以外を指定した場合は、外部宛先台帳を使用できません。

(例)

```
gml_dir_refdn=ou=domains,o=Groupmax
```

(13) 外部宛先の組織表示順変更の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

2. Groupmax WWW の環境設定

シンボル名: `gml_dirlist_sort_use`

対応するサービス: メール

外部宛先の組織表示順変更機能を使用するかどうかを指定します。次の値のどちらかを指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「ON」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「ON」、「OFF」以外を指定した場合

ON:

外部宛先の組織表示順変更を使用します。

OFF:

外部宛先の組織表示順変更を使用しません。

(例)

```
gml_dirlist_sort_use=ON
```

注意事項

外部宛先台帳を使用しない場合は、`gml_dirlist_sort_use=ON` の設定をしても外部宛先の組織表示順変更は使用できません。

2.6.14 その他のメール、掲示板の設定

その他のメール、掲示板に関する設定について説明します。この項で説明する項目を表 2-20 に示します。

表 2-20 その他のメール、掲示板に関する設定

項番	内容	ファイル名	シンボル名
(1)	役職順序番号表示の指定	config	<code>gml_positionnumber_display</code>

(1) 役職順序番号表示の指定

ファイル名: `/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config`

シンボル名: `gml_positionnumber_display`

対応するサービス: メール, 掲示板

役職に役職順序番号 (# 文字以降) を表示するかどうかを指定します。次の値のどちらかを指定してください。値は大文字で指定してください。

なお、次の場合は「ON」が仮定されます。

- 定義項目を省略した場合
- 設定値を省略した場合
- 「ON」、「OFF」以外を指定した場合

ON :

役職順序番号 (# 文字以降) を表示します。

OFF :

役職順序番号 (# 文字以降) を表示しません。

(例)

```
gml_positionnumber_display=OFF
```

注意事項

役職順序番号とは、同じ役職に異なる順位を付けたい場合に指定する半角の「#」で始まる番号です。課長 #1、課長 #2 のように半角の「#」と数字を使用して指定します。

2.7 「ワークフロー」サービスの定義ファイルの修正

2.7.1 ログインモードの指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gfl_login_mode

対応するサービス : ワークフロー

既に同一のユーザ ID でログイン済みのときの処理を指定します。次の値のどれかを指定してください。なお、ここでの IP アドレスとは、Groupmax Workflow Server から見たクライアントに相当する Groupmax WWW サーバ及び Groupmax クライアントの IP アドレスを表します。

multi_before :

同一 IP アドレスからの多重ログインを許可します。

異なる IP アドレスからの多重ログインは禁止し、ログインの要求があった場合は、先にログインしていたユーザが優先（先着優先）となります。

multi_after :

同一 IP アドレスからの多重ログインを許可します。

異なる IP アドレスからの多重ログインは禁止し、ログインの要求があった場合は、後からログインするユーザが優先（後着優先）となります。

single_before :

多重ログインを禁止し、すべて先着優先のログインとなります。

single_after :

多重ログインを禁止し、すべて後着優先のログインとなります。

ただし、上記の設定のうち、先着優先・後着優先の部分については、Groupmax Workflow Server の環境設定で、再ログインの指定が「client」（クライアント側の設定に依存）に設定されているときだけ有効となります。「client」以外に設定されている場合は、先着優先・後着優先の部分については、Groupmax Workflow Server の設定が優先されます。

なお、指定を省略した場合、又は範囲外の値を指定した場合、「multi_before」が仮定されます。

（例）

```
gfl_login_mode=multi_before
```

2.7.2 強制ログイン先 Workflow Server 名の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gfl_server_name

対応するサービス：ワークフロー

ログイン先の Groupmax Workflow Server を強制的に変更したい場合に、IP アドレス又はホスト名を指定します。

(例)

```
gfl_server_name=192.100.100.100
```

2.7.3 Workflow Server のポート番号の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gfl_workflow_portnum

対応するサービス：ワークフロー

Groupmax Workflow Server を使用する場合、そのポート番号を指定します。値は 1 ~ 65,535 の範囲で指定してください。指定を省略した場合、又は範囲外の値を指定した場合は「40076」が仮定されます。

(例)

```
gfl_workflow_portnum=40076
```

2.7.4 BP 名グループピング文字数の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gfl_bpgroupingsize

対応するサービス：ワークフロー

案件フォームをビジネスプロセス名の先頭からの文字列でグループ化する場合に、その文字列の長さを指定します。

例えば、gfl_bpgroupingsize で 4 を指定した場合、ビジネスプロセス名の先頭 4 文字が同じものはグループ化され、ツリービューやフォーム一覧に表示されます。

値は 1 ~ 32 の範囲で指定してください。指定を省略した場合は「4」が仮定されます。範囲外の値を指定した場合、指定した値が 1 未満のときは「1」、32 を超えているときは、「32」がそれぞれ仮定されます。

(例)

2. Groupmax WWW の環境設定

```
gfl_bpgroupingsize=4
```

2.7.5 リスト情報の最大数の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gfl_limit_line

対応するサービス : ワークフロー

サーバ側の INBOX から取り出す案件の最大数を指定します。値は 200 ~ 30,000 の範囲で指定してください。指定を省略した場合、「3000」が仮定されます。範囲外の値を指定した場合、指定した値が 200 未満のときは「200」、30,000 を超えているときは「30000」が仮定されます。

(例)

```
gfl_limit_line=3000
```

2.7.6 AP 起動作業情報がある場合の案件投入・処理抑止の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gfl_apdefstdformstop

対応するサービス : ワークフロー

ビジネスプロセス中にアプリケーションプログラム (AP) の起動が設定されている場合、案件の投入及び処理を抑止するかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、又は範囲外の値を指定した場合、「off」が仮定されません。

on : 案件投入・処理を抑止します。

off : 案件投入・処理を抑止しません。

(例)

```
gfl_apdefstdformstop=off
```

2.7.7 Groupmax フォーム表示情報がある場合の標準フォーム操作抑止の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gfl_gmaxdefstdformstop

対応するサービス : ワークフロー

ビジネスプロセス中に Groupmax フォームの表示が設定されている場合、標準フォームへの操作を抑止するかどうかを指定します。次のどちらかの値で指定してください。指定を省略した場合、又は範囲外の値を指定した場合、「off」が仮定されます。

on : 標準フォームへの操作を抑止します。

off : 標準フォームへの操作を抑止しません。

(例)

```
gfl_gmaxdefstdformstop=off
```

2.7.8 Groupmax フォーム表示作業情報がある場合の確認ダイアログ表示抑止の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gfl_form_dialog_nodisplay

対応するサービス : ワークフロー

ビジネスプロセス中に Groupmax フォームの表示が設定されている場合、標準フォームとカスタマイズフォームのどちらを起動するかを確認するダイアログが表示されます。この確認ダイアログの表示を抑止するかどうかを指定します。

次のどちらかで指定してください。指定を省略した場合、又は範囲外の値を指定した場合、「off」が仮定されます。

on : 確認ダイアログの表示を抑止します。

off : 確認ダイアログの表示を抑止しません。

(例)

```
gfl_form_dialog_nodisplay=off
```

2.7.9 INBOX でのロール案件混在表示の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gfl_first_roleswitch

対応するサービス : ワークフロー

INBOX 初期表示時にロール案件情報を表示するかどうかを指定します。

指定を省略した場合、又は on / off 以外を指定した場合、「off」が仮定されます。

on : ユーザトレイ内案件とロール案件を表示します。

2. Groupmax WWW の環境設定

off : ユーザトレ内案件だけを表示します。

(例)

```
gfl_first_roleswitch=off
```

2.7.10 INBOX での配布種別表示の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gfl_distribution_item

対応するサービス : ワークフロー

ワークフローの INBOX で配布種別を表示するかどうかを指定します。指定を省略した場合、又は on / off 以外を指定した場合、「on」が仮定されます。

on : INBOX で配布種別を表示します。

off : INBOX で配布種別を表示しません。

(例)

```
gfl_distribution_item=on
```

2.7.11 INBOX での属性値表示の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gfl_list_attribute[.X]

対応するサービス : ワークフロー

INBOX で案件の属性値を表示するかどうかを指定します。X の部分には、属性値を表示したいケース名を指定します。X の指定は省略できます。また、値には、表示したい属性値の名称を指定します。

(例)

```
gfl_list_attribute. 申請票 = 承認状況
```

2.7.12 振り替え時のサブ組織展開階層数の指定

ファイル名 : /groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名 : gfl_suborg_level

対応するサービス : ワークフロー

案件を振り替える場合の振り替え先指定画面で、組織ロール内ユーザとしてリスト表示するサブ組織の階層数を指定します。値は 0 ~ 10 の範囲で指定してください。指定を省

略した場合、又は範囲外の値を指定した場合、「0」が仮定されます。

(例)

```
gfl_suborg_level=0
```

2.7.13 送信ログでの削除されたワーク表示の抑止の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gfl_deleteworknoprint

対応するサービス：ワークフロー

削除されたワークの送信ログ上での表示を抑止するかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、又は「on」、「off」以外を指定した場合、「off」が仮定されます。

on：削除ワークのユーザ履歴を表示しません。

off：削除ワークのユーザ履歴を表示します。

(例)

```
gfl_deleteworknoprint=off
```

2.7.14 送信ログでの引き戻したワーク表示の抑止の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gfl_pullbackwork_noprint

対応するサービス：ワークフロー

引き戻したワークの送信ログ上での表示を抑止するかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、又は「on」、「off」以外を指定した場合、「off」が仮定されます。

on：引き戻したワークのユーザ履歴を表示しません。

off：引き戻したワークのユーザ履歴を表示します。

(例)

```
gfl_pullbackwork_noprint=off
```

2.7.15 案件配布先リストボックス表示桁数の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gfl_subbp_list_size

2. Groupmax WWW の環境設定

対応するサービス：ワークフロー

[案件配布設定] 画面の [案件配布先] リストボックスの表示桁数を指定します。値は 70 ~ 200 の範囲で指定してください。指定を省略した場合、「70」が仮定されます。範囲外の値を指定した場合、指定した値が 70 未満のときは「70」、200 を超えているときは「200」が仮定されます。

(例)

```
gfl_subbp_list_size=70
```

2.7.16 ユーザ作成ライブラリへの絶対パスの指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gfl_mtd_lib_path

対応するサービス：ワークフロー

WWW サーバにあるユーザ作成ライブラリに連携するためのライブラリを絶対パスで指定します。

(例)

```
gfl_mtd_lib_path=/users/wwwusdll/userown.sl
```

2.7.17 ユーザ作成ライブラリへの連携用関数の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gfl_mtd_lib_entry

対応するサービス：ワークフロー

WWW サーバにあるユーザ作成ライブラリに連携する場合に、ライブラリ内の関数名を指定します。

(例)

```
gfl_mtd_lib_entry=user_own_entry
```

2.8 「スケジュール」サービスの定義ファイルの修正

2.8.1 Scheduler Server の IP アドレスの指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gam_scheduler_name

対応するサービス：スケジュール

Groupmax Scheduler Server をインストールしたマシンの IP アドレス，又はホスト名を指定します。

また，ホスト名と IP アドレスをホスト名ファイル（hosts）に登録してください。ただし，システム内で DNS 設定をしている場合，ホスト名と IP アドレスはネームサーバに登録してください。

なお，マルチサーバ構成の場合は，Groupmax Scheduler Server をインストールしたすべてのマシンのホスト名と IP アドレスを登録してください。

（例）

```
gam_scheduler_name=158.213.210.99
```

2.8.2 Scheduler Server のポート番号の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gam_scheduler_portnum

対応するサービス：スケジュール

Groupmax Scheduler Server を使用する場合，そのポート番号をサービス名ファイル（services）に登録する必要があります。サービス名は gam_scheduler_portnum としてください。

（例）

```
gam_scheduler_portnum          20013/tcp
```

2.8.3 Facilities Manager の IP アドレスの指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gam_facilities_name

2. Groupmax WWW の環境設定

対応するサービス：スケジュール

Groupmax Facilities Manager をインストールしたマシンの IP アドレス、又はホスト名を指定します。

また、ホスト名と IP アドレスをホスト名ファイル (hosts) に登録してください。ただし、システム内で DNS 設定をしている場合、ホスト名と IP アドレスはネームサーバで登録してください。

なお、マルチサーバ構成の場合は、Groupmax Facilities Manager をインストールしたすべてのマシンのホスト名と IP アドレスを登録してください。

(例)

```
gam_facilities_name=158.213.208.52
```

2.8.4 Facilities Manager のポート番号の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gam_facilities_portnum

対応するサービス：スケジュール

Groupmax Facilities Manager を使用する場合、そのポート番号をサービス名ファイル (services) に登録する必要があります。シンボル名は gam_facilities_portnum としてください。

(例)

```
gam_facilities_portnum=20102
```

2.8.5 スケジュールからの [メール作成] アンカー表示の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gam_use_mail

対応するサービス：スケジュール

[スケジュール予約] 画面、[予約発信変更] 画面で、[メール作成] アンカーを表示するかどうかを指定します。

指定を省略した場合、又は「1」、「0」以外を指定した場合、「1」が仮定されます。

0：[メール作成] アンカーを表示しません。

1：[メール作成] アンカーを表示します。

(例)

```
gam_use_mail=0
```

2.8.6 メンバのスケジュール表示時のアラートダイアログ表示の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gam_memsel_mode

対応するサービス：スケジュール

メンバ又は施設が選択されていない状態で、メンバのスケジュールを表示する際に、アラートダイアログを表示するかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。

指定を省略した場合、又は「1」、「0」以外を指定した場合、「1」が仮定されます。

0：アラートダイアログを表示しません。

1：アラートダイアログを表示します。

(例)

```
gam_memsel_mode=1
```

2.8.7 「空き時間を表示する」チェックボックス表示の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gam_timefind_mode

対応するサービス：スケジュール

グループの[週間スケジュール]画面,[一日スケジュール]画面で、「空き時間を表示する」チェックボックスを表示するかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、又は「1」、「0」以外を指定した場合、「0」が仮定されます。

0：「空き時間を表示する」チェックボックスを表示しません。

1：「空き時間を表示する」チェックボックスを表示します。

(例)

```
gam_timefind_mode=1
```

2.8.8 上司の未読スケジュール表示時の保留回答抑止の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

2. Groupmax WWW の環境設定

シンボル名: `gam_bosssche_unread`

対応するサービス: スケジュール

秘書が、上司の未読スケジュールの詳細を表示したときに、保留回答を抑止するかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、又は「1」、「0」以外を指定した場合、「0」が仮定されます。

0: 秘書が上司の未読スケジュールの詳細を表示したとき、保留回答を抑止しません。回答は保留になります。

1: 秘書が上司の未読スケジュールの詳細を表示したとき、保留回答を抑止します。回答は未読のままとなります。

(例)

```
gam_bosssche_unread=1
```

2.8.9 ニックネームの表示可否の指定

ファイル名: `/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config`

シンボル名: `gam_nickname_visible`

対応するサービス: スケジュール

ユーザ名をニックネームで表示可能とするかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、又は「1」、「0」以外を指定した場合、「0」が仮定されます。

0: スケジュールの全画面で、ユーザ名をニックネームで表示できなくなります。[環境情報の設定] ダイアログでユーザ名をニックネームで表示する指定にしている場合でも、ニックネーム表示が不可となります。この場合、ユーザ名は日本語名(フルネーム)で表示されます。[受信一覧] 画面の予約者は項目自体表示されません。

1: スケジュールの全画面で、ユーザ名をニックネームで表示できるようになります。

(例)

```
gam_nickname_visible=1
```

2.8.10 日本語名の表示方法の指定

ファイル名: `/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config`

シンボル名: `gam_fullname_mode`

対応するサービス: スケジュール

ユーザ名を日本語名(フルネーム)で表示する際、日本語名(フルネーム)の先頭 20 バ

イトまでを表示するか、すべてを表示するかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、又は「1」、「0」以外を指定した場合、「0」が仮定されます。

0：日本語名（フルネーム）の先頭 20 バイトまでを表示します。

1：日本語名（フルネーム）をすべて表示します。

（例）

```
gam_fullname_mode=1
```

2.8.11 役職名の表示の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gam_position_visible

対応するサービス：スケジュール

[受信一覧]画面,[スケジュール予約]画面,[メンバ・施設選択]画面などでユーザ名を表示する際に、役職名を表示するかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、又は「1」、「0」以外を指定した場合、「0」が仮定されます。

0：役職名を表示しません。

1：役職名を表示します。

（例）

```
gam_position_visible=1
```

2.8.12 役職順序番号の表示の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gam_positionnumber_display

対応するサービス：スケジュール

役職名を表示する際、役職順序番号（役職名の後の「#1」など）を、表示するかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、又は「1」、「0」以外を指定した場合、「1」が仮定されます。

0：役職表示時に、役職順序番号（#以降）を表示しません。

1：役職表示時に、役職順序番号（#以降）を表示します。

（例）

2. Groupmax WWW の環境設定

```
gam_positionnumber_display=1
```

2.8.13 受・発信一覧の取得期間の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gam_recvsent_term_mode

対応するサービス：スケジュール

受信一覧，発信一覧の取得期間をシステムで一意に設定するかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合，又は「1」，「0」以外を指定した場合，「0」が仮定されます。

0：取得期間をシステムで設定しません。この場合，ユーザごとに受・発信一覧の取得期間を指定できるようになります。

1：取得期間をシステムで設定します。この場合，gam_recvsent_term_past（過去分）と gam_recvsent_term_future（未来分）の指定が有効になります。ユーザごとに受・発信一覧の取得期間を指定することはできなくなります。

（例）

```
gam_recvsent_term_mode=1
```

2.8.14 過去分の受・発信一覧の取得期間の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gam_recvsent_term_past

対応するサービス：スケジュール

過去分の受信一覧，発信一覧の取得期間を月単位で指定します。取得期間がシステムの日付の範囲外になる場合は，範囲内の受信一覧，発信一覧を取得します。

指定を省略した場合，又は「1～24」以外を指定した場合，「12」が仮定されます。

（例）

```
gam_recvsent_term_past=12
```

2.8.15 未来分の受・発信一覧の取得期間の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gam_recvsent_term_future

対応するサービス：スケジュール

未来分の受信一覧，発信一覧の取得期間を月単位で指定します。取得期間がシステムの

日付の範囲外になる場合は、範囲内の受信一覧、発信一覧を取得します。指定を省略した場合、又は「1～24」以外を指定した場合、「12」が仮定されます。

(例)

```
gam_recvsent_term_future=12
```

2.8.16 「本日以降の予定欄」の表示日数モードの指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gam_disp_datecnt_mode

対応するサービス：スケジュール

「本日以降の予定欄」の表示日数をシステムで一意に設定するかどうかを指定します。次のどちらかの値を指定してください。指定を省略した場合、又は「1」、「0」以外を指定した場合、「0」が仮定されます。

0：表示日数をシステムで設定しません。この場合、ユーザごとに「本日以降の予定欄」の表示日数を指定できるようになります。

1：表示日数をシステムで設定します。この場合、gam_disp_datecntの指定が有効になります。ユーザごとに「本日以降の予定欄」の表示日数を指定することはできなくなります。

(例)

```
gam_disp_datecnt_mode=1
```

2.8.17 「本日以降の予定欄」の表示日数の指定

ファイル名：/groupmax/gmaxwww/schema/gmax/etc/config

シンボル名：gam_disp_datecnt

対応するサービス：スケジュール

「本日以降の予定欄」の表示日数を指定します。

指定を省略した場合、又は「1～7」以外を指定した場合、「1」が仮定されます。

(例)

```
gam_disp_datecnt=7
```

2.9 「フォーム」サービスの定義ファイルの修正

2.9.1 ユーザの詳細情報取得の指定

ファイル名 : `services`

シンボル名 : `adnt_ap`

対応するサービス : フォーム

ユーザ詳細情報を取得するためには、Groupmax Address Server の `services` ファイルに登録されているポート番号を WWW サーバのサービス名ファイル (`services`) に追加する必要があります。サービス名は `adnt_ap` としてください。

(例)

```
adnt_ap          20012/tcp
```

2.10 WWW サーバの設定

Groupmax WWW をインストールすると、Groupmax WWW 基盤プログラムやアイコンファイルなどがコピーされます。これらのファイルを WWW ブラウザから URL で指定できるように、次の作業をしてください。

2.10.1 CGI ディレクトリの設定

Groupmax WWW をインストールすると、CGI (Common Gateway Interface) プログラムが次のディレクトリにコピーされます。

```
/groupmax/gmaxwww/cgi-bin
```

システム管理者は、このディレクトリに格納されたファイルが CGI プログラムであると認識されるように、WWW サーバを設定してください。また、URL の「/groupmax」でこのディレクトリが実行されるように、WWW サーバを設定してください。

これらの設定は、WWW サーバによって異なります。各 WWW サーバのマニュアルを参照して設定してください。

2.10.2 Groupmax WWW 基盤スクリプトプログラムディレクトリの設定

Groupmax WWW をインストールすると、Groupmax WWW 基盤スクリプトプログラムが次のディレクトリにコピーされます。

```
/groupmax/gmaxwww/script
```

このディレクトリに格納されたファイルは、Groupmax WWW 基盤プログラムから「/script」で呼び出されるスクリプト群です。したがって、システム管理者は、ファイルが実行されるように WWW サーバを設定してください。

これらの設定は、WWW サーバによって異なります。各 WWW サーバのマニュアルを参照して設定してください。

2.10.3 アイコンファイルのディレクトリの設定

Groupmax WWW をインストールすると、Groupmax のホームページで使用するアイコンのファイルが次のディレクトリにコピーされます。

```
/groupmax/gmaxwww/icon
```

2. Groupmax WWW の環境設定

また、拡大版のアイコンファイルが次のディレクトリにコピーされます。

```
/groupmax/gmaxwww/icon_large
```

拡大版のアイコンファイルは拡大版のスタイルシートを使用する場合に使用します。

詳細は「2.4.33 フォントの拡大の指定」を参照してください。

Groupmax WWW のアイコンファイルは、URL の「/icon」又は定義ファイルに指定したパスで、WWW ブラウザから参照されます。このため、システム管理者は、次のどちらかの作業をしてください。

- アイコンファイルを URL の「/icon」で参照されるディレクトリにコピーする。又は、「/icon」で参照されるように WWW サーバを設定する。
- アイコンファイルを格納しているディレクトリが、どういうパスで URL から参照されるかを定義ファイルに指定する。

定義ファイルへの指定については、「2.4.6 アイコンファイルのディレクトリの指定」を参照してください。

2.10.4 マニュアルファイルのディレクトリの設定

Groupmax WWW をインストールすると、Groupmax のホームページについて説明する HTML ファイル（マニュアルファイル）が次のディレクトリにコピーされます。

```
/groupmax/gmaxwww/gmaxman
```

Groupmax WWW のマニュアルファイルは、URL の「/gmaxman」で、WWW ブラウザから参照されます。このため、システム管理者は、マニュアルファイルを URL の「/gmaxman」で参照されるディレクトリにコピーしてください。又は、URL の「/gmaxman」で参照されるように WWW サーバを設定してください。

2.10.5 Groupmax のホームページへのリンク

Groupmax のホームページの URL を表 2-5 に示します。WWW ブラウザからアクセスしやすいように、ほかのホームページからリンクを張るなどしてください。

表 2-21 Groupmax のホームページの URL

ホームページの種類	URL
一般ユーザ用ホームページ	<code>http:// <ホストアドレス> /groupmax/wbpcgi/gmax/auth/gwdmstarttree/gmax/GWDTMAIN?gmax_template_sub_dir=desktop/japanese&gmax_language_file=japanese.msg</code>
ゲストユーザ用ホームページ	<code>http:// <ホストアドレス> /groupmax/wbpcgi/gmax/guest/gwdmstarttree/gmax/GWDTMAIN?gmax_template_sub_dir=desktop/japanese&gmax_language_file=japanese.msg</code>

(凡例)

<ホストアドレス> : WWW サーバ及び Groupmax WWW がインストールされているマシンのホストアドレスです。

- 強制ログアウトのための URL

ログアウトボタンをクリックしないで WWW ブラウザを終了させる場合、次の URL を使って強制的にログアウトするようにしてください。ログアウトし忘れた状態にしておくと、Groupmax WWW クライアントプロセスが使用されないままサーバを占有してしまいます。

`http:// <ホストアドレス> /groupmax/logout/`

- ほかのホームページから Groupmax のホームページへのリンク

ほかのホームページから、Groupmax のホームページへリンクさせる場合の HTML のコーディング例を次に示します。

(例)

```
<html>
<a href="/groupmax/wbpcgi/gmax/auth/gwdmstarttree/gmax/GWDTMAIN?gmax_template_sub_dir=desktop/japanese&gmax_language_file=japanese.msg">Groupmax ホームページ </a>
</html>
```

2.10.6 パスワード変更画面へのリンク

有効期限を過ぎたパスワードを変更するためのページへリンクを張ります。URL を次に示します。

`http://<ホストアドレス>/groupmax/wbpcgi/gmax/changepw/GWDMview_password_ex/gmax/GWDTFOLD?gmax_template_sub_dir=desktop/japanese&gmax_language_file=japanese.msg`

HTML のコーディング例を次に示します。

2. Groupmax WWW の環境設定

(例)

```
<html>
<a href="/groupmax/wbpcgi/gmax/changepw/GWDMview_password_ex/
gmax/GWDTFOLD? gmax_template_sub_dir=desktop/
japanese&gmax_language_file=japanese.msg">パスワード変更 </a>
</html>
```

2.10.7 Groupmax WWW サーバマシンと Groupmax Address サーバマシンが異なる場合の注意

Groupmax WWW サーバマシンと Groupmax Address サーバマシンが異なる場合は、Groupmax WWW サーバのサービス名ファイル (services) にサービス名「adnt_ap」を登録する必要があります。指定する内容は、Groupmax Address サーバの「adnt_ap」と同じです。登録例を次に示します。

(例)

```
adnt_ap 9054/tcp
```

2.11 ブロードキャストメッセージの設定

プレインテキストで作成された、ブロードキャストファイル `inf.txt` の内容を新着画面に表示します。

2.11.1 ブロードキャストメッセージファイルの設定方法

「`/groupmax/gmaxwww/adm`」の下に表示メッセージが記述されたブロードキャストファイル「`inf.txt`」を作成します。

注意事項

- HTML タグの使用はできません。
- 使用文字制限はありません。
- ファイルが存在しない場合、及び内容がない場合は表示されません。

2.12 キャッシュ無効化の設定

Groupmax WWW では、常に最新の情報を表示するために WWW ブラウザのキャッシュについての設定を、ページを表示するごとに文書を確認する設定にして使用していただくようにお勧めしています。次の方法で、WWW ブラウザの設定によらないでキャッシュ上の HTML 文書やテキストを無効化し最新の情報を表示できます。

ただし、WWW ブラウザに Netscape Communicator を御使用の場合、ウィンドウのリサイズやフレーム枠を移動すると画面の再描画が発生します。

そのとき、「データがありません。このドキュメントはポスト操作によって作成されてから、キャッシュの有効期限が過ぎています。再読込ボタンを押せば、フォームを再送してドキュメントを作り直すことができます。」というメッセージを出力します。

業務に支障をきたす問題がありますので、この方法は WWW ブラウザに Internet Explorer だけを使用しているユーザに限定してお勧めします。

(1) Groupmax WWW サーバの設定

/groupmax/gmaxwww/IE_sample に格納されている GMAX.html ファイルを、/groupmax/gmaxwww/adm 下にコピーしてください。

ファイルを上書きする前に、バックアップを取得してください。

(2) WWW ブラウザの設定

WWW ブラウザのキャッシュの設定は、Internet Explorer の [表示] 又は [ツール] メニューから [インターネットオプション] ダイアログを表示後、[全般] タブの [インターネット一時ファイル] グループの [設定] ボタンを押し、[保存しているページの新しいバージョンの確認] ラジオボタンから [Internet Explorer を起動することに確認する] を選択して御使用ください。

注意事項

[自動確認] や [確認しない] を選択したとき、WWW ブラウザのキャッシュに旧バージョンの JavaScript ファイルが残っていると、新しいバージョンの確認が行われない場合があります、JavaScript エラーなどの問題が発生することがあります。

3

システムの運用

この章では、Groupmax WWW の運用方法について説明します。

3.1 Groupmax WWW の運用

3.2 運用コマンド

3.3 こんなときには ...

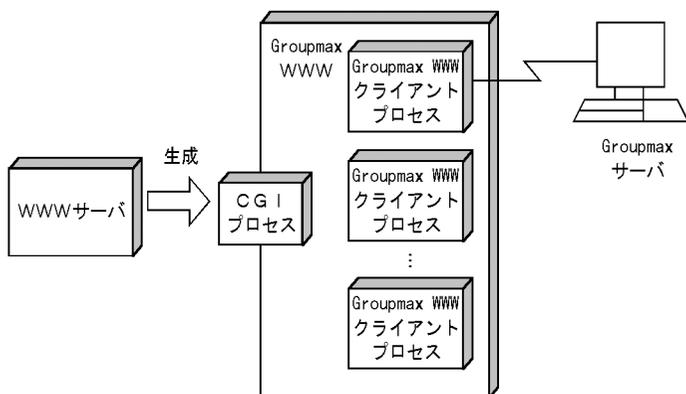
3.1 Groupmax WWW の運用

Groupmax WWW のプロセス構成及び運用方法について説明します。

3.1.1 Groupmax WWW のプロセス構成

Groupmax サーバにアクセスしたり HTML データを生成したりするプロセスが、Groupmax WWW によってユーザごとに起動されます。このプロセスを Groupmax WWW クライアントプロセスといいます。一度のアクセスごとに生成・消滅する Groupmax WWW 基盤プログラムと異なり、Groupmax WWW クライアントプロセスは、システムに接続待機状態で常駐し、ユーザがログインしている間はセッション有効の状態になります。これによってユーザに関する情報を保持し、WWW ブラウザから Groupmax を継続的に利用できるようにしています。Groupmax WWW のプロセス構成を図 3-1 に示します。

図 3-1 Groupmax WWW のプロセス構成



Groupmax WWW クライアントプロセスは、Groupmax WWW によって管理されます。このため、Groupmax のホームページを利用するには、Groupmax WWW が稼働している必要があります。

3.1.2 Groupmax WWW の開始と終了

Groupmax WWW を開始・終了させるには、次のコマンドを使用します。

- gwwwstrt (Groupmax WWW の開始)
- gwwwstop (Groupmax WWW の終了)

スーパーユーザだけが、Groupmax WWW を開始・終了できます。コマンドの詳細については、「3.2 運用コマンド」を参照してください。

WWW サーバマシンの起動時に Groupmax WWW を自動的に開始させる場合は、次のように UNIX のファイルに記述を追加してください。

追加する記述

```
if [ -x /groupmax/gmaxwww/bin/gwwwstrt ]; then
    /groupmax/gmaxwww/bin/gwwwstrt &
fi
```

追加するファイル

```
/sbin/rc
```

3.1.3 Groupmax WWW 運用上の注意

Groupmax WWW クライアントプロセスは、定義ファイルの MaxProcess に指定した数だけ生成されます。Groupmax WWW を同時に使用できるユーザの数は、このプロセスの数までとなります。このプロセス数の指定については、「2.4.1 最大ユーザ数の変更」を参照してください。

Groupmax WWW クライアントプロセスは、ユーザが Groupmax からログアウトするまで、そのユーザに占有されます。このため、ログアウトし忘れたユーザがいた場合、Groupmax WWW クライアントプロセスが使用されないまま占有されます。これを防ぐために、一定時間アクセスがないと、ログアウトし忘れたものとみなされて自動的にログアウトとなります。この時間の指定については、「2.4.2 ログアウトし忘れ監視時間の変更」を参照してください。

3.1.4 メール使用時の注意

次のような場合、/groupmax/gmaxwww/tmp/mail 下にワークディレクトリとワークファイルが残ることがあります。

- メール使用中にユーザが異常終了したり、ブラウザが操作不能になったりしてタイムアウトしたとき
- メールのサービスを停止しないで OS をシャットダウンしたとき

このような場合は、メールのサービスを停止してから /groupmax/gmaxwww/tmp/mail 下の Unnn (nnn: 任意の文字列) ディレクトリと同じディレクトリの下のファイルをすべて削除してください。

3.2 運用コマンド

Groupmax WWW の運用コマンドについて説明します。Groupmax WWW には、次の運用コマンドがあります。

- gwwwstrt (Groupmax WWW の開始)
- gwwwstop (Groupmax WWW の終了)

gwwwstrt (Groupmax WWW の開始)

形 式

gwwwstrt

機 能

Groupmax WWW を開始します。

注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- このコマンドの実行ファイルは、「/groupmax/gamxwww/bin」に格納されています。
- このコマンドが制御を返してから Groupmax のホームページが利用できるようになるまで、数分程度の時間がかかります。この時間は、Groupmax WWW の利用人数の設定やマシンの性能によって変わります。
- このコマンドを一度に複数実行したり、コマンドの実行中に重ねてこのコマンドを実行したりしないでください。プロセスが残ったり、異常終了することがあります。

gwwwstop (Groupmax WWW の終了)

形 式

gwwwstop

機 能

Groupmax WWW を終了します。

注意事項

- このコマンドを実行できるのは、スーパーユーザだけです。
- このコマンドの実行ファイルは、「/groupmax/gamxwww/bin」に格納されています。

3.3 こんなときには ...

Groupmax World Wide Web Desktop の環境を構築 / 利用していただく上でのベタユーザーについて説明します。それぞれのパラメタの詳細は、「2. Groupmax WWW の環境設定」を参照してください。

3.3.1 全体

- 現在ログインしているユーザ名を表示したい
- IE での添付ファイルダウンロード時の名称の文字化けを抑止したい
- ログイン時に INBOX の内容を表示したい
- IE でブラウザの [×] ボタンクリックでもログアウトするようにしたい
- 画面の表示文字を大きくしたい
- 添付ファイルをダウンロードするとき空白 (about:blank) のウィンドウを表示しないようにしたい

(1) 現在ログインしているユーザ名を表示したい

config ファイルに `gmax_title_format=$title [$username]` を指定することによって、ウィンドウのタイトルバー部分に、現在ログインしているユーザの名称が表示されるようになります。

(2) IE での添付ファイルダウンロード時の名称の文字化けを抑止したい

config ファイルに `gmax_document_attachment=XXX` (XXX は文字化けを抑止するファイルの拡張子を指定) を指定することによって、当該ファイルのダウンロード時に保存確認のダイアログが表示されて、正しいファイル名称によって保存できるようになります。

(3) ログイン時に INBOX の内容を表示したい

config ファイルに `gmax_default_list_inbox=on` を指定することによって、ログイン時に INBOX の内容が表示されるようになります。

(4) IE でブラウザの [×] ボタンクリックでもログアウトするようにしたい

config ファイルに `gmax_logout_type=dialog` を指定することによって、ログアウトしないで [×] ボタンクリックでブラウザを閉じた場合、ログアウトの確認ダイアログが表示されるようになります。

(5) 画面の表示文字を大きくしたい

以下の設定によって、画面及びアイコンのサイズを拡大できます。

3. システムの運用

1. config ファイルに `gmax_font_size=large` を指定
2. WWW サーバの `/icon` 仮想ディレクトリの内容を `/groupmax/gmaxwww/icon` から `/groupmax/gmaxwww/icon_large` に変更
3. 既存のスタイルシート「`/groupmax/gmaxwww/script/DEFAULT.css`」のバックアップを取得
4. 拡大版のスタイルシート「`/groupmax/gmaxwww/sample/css/DEFAULT.css`」を「`/groupmax/gmaxwww/script/DEFAULT.css`」としてコピー

(6) 添付ファイルをダウンロードするとき空白 (about:blank) のウィンドウを表示しないようにしたい

「2.4.31 Internet Explorer 外でダウンロードファイルを開く拡張子の指定」で指定された拡張子の添付ファイルをクリックすると、ダウンロードダイアログが表示されますが、その拡張子が `txt`, `htm`, `html`, `gif`, `jpg`, `jpeg` のどれか (「2.4.32 別ウィンドウを開く拡張子の指定」を指定している場合は、指定されている拡張子だけ) の場合、ダウンロードダイアログとともに空白 (about:blank) のウィンドウが表示されます。

空白のウィンドウを表示しないようにするには、別ウィンドウを開く拡張子を明示的に指定してください。

(例)

`gmax_document_attachment=txt` を指定してあり、`txt` をクリックした場合に空白のウィンドウを表示しない指定としたいとき (そのほかの `htm`, `html`, `gif`, `jpg`, `jpeg` については別ウィンドウで開く)、以下のように設定します。

```
#gmax_document_window_open=txt
gmax_document_window_open=htm
gmax_document_window_open=html
gmax_document_window_open=gif
gmax_document_window_open=jpg
gmax_document_window_open=jpeg
```

3.3.2 メール

- メールの下書きを保存したい
- メールの作成中はログアウトし忘れ監視によるログアウトを抑止したい
- 組織メールを使用したい

(1) メールの下書きを保存したい

config ファイルに `gml_draft_max_size=XXXX` (XXXX は 1 ユーザ当たりの最大保存可能容量を指定 [KB]) を指定することによって、メールのツリー画面に下書き保存用のアイテムが表示されるようになります。

(2) メールの作成中はログアウトし忘れ監視によるログアウトを抑止したい

config ファイルに `gmax_timeout_interval=X` (X はログアウトし忘れ監視時間の半分以下の値を指定 [分]) を指定することによって、メール作成画面及び掲示板の記事作成画面表示中は、ログアウトし忘れ監視によるログアウトが抑止されるようになります。

(3) 組織メールを使用したい

Groupmax WWW サーバで組織メールを使用するためには、以下の設定が必要です。詳細は「2.6.1(6) Groupmax Address Server のメールタイプの指定 (組織メールの指定)」を参照してください。

1. Address Server で、ユーザに権利設定をしてください。
2. config ファイルで `gml_mailtype=ALL` を指定してください。
3. 各ユーザで、[環境設定] カテゴリの [メールの設定] アイテムの下にある [メールタイプの設定] で「個人メールと組織メールを使用する」を設定してください。

3.3.3 スケジューラ

- グループスケジュールの [週間スケジュール] 画面や [一日スケジュール] 画面で、容易に共通の空き時間を確認したい
- 新着情報に一週間分のスケジュールを表示したい

(1) グループスケジュールの [週間スケジュール] 画面や [一日スケジュール] 画面で、容易に共通の空き時間を確認したい

config ファイルの `gam_timefind_mode=1` を指定することによって、グループスケジュールの [週間スケジュール] 画面や [一日スケジュール] 画面で、「空き時間を表示する」チェックボックスが表示されるようになります。

(2) 新着情報に一週間分のスケジュールを表示したい

config ファイルに `gam_disp_datecnt=7` を指定することによって、一週間分のスケジュールが表示されるようになります。

4

障害対策

この章では、Groupmax WWW で障害が発生したときの対処方法について説明します。

4.1 Groupmax WWW の障害対策

4.1 Groupmax WWW の障害対策

Groupmax WWW の運用中に障害が発生した場合、エラーメッセージが出力されます。「付録 B メッセージ」、及び Groupmax WWW ホームページのサービスの「インフォメーション」の「メッセージ」を参考にして障害原因を取り除いてください。なお、「付録 B メッセージ」、及び Groupmax WWW ホームページのサービスの「インフォメーション」の「メッセージ」に記述されていないメッセージについては、障害の原因となった Groupmax サーバのエラーメッセージなどを基に原因を調査してください。

また、エラーメッセージから障害の原因が特定できない場合、又はエラーメッセージの対処で「保守員へ連絡」とある場合は、障害時の資料として、次に示すディレクトリのファイルが必要になることがあります。

```
/groupmax/gmaxwww/log
```

```
/groupmax/gmaxwww/logs
```

```
/groupmax/gmaxwww/spool
```

これらのファイルは、Groupmax WWW サービスを停止した後に取得してください（別媒体へコピーしてください）。

付録

付録 A ローカル宛先ファイルの削除コマンド

付録 B メッセージ

付録 C 接続ドメイン情報

付録 D 用語解説

付録 A ローカル宛先ファイルの削除コマンド

ユーザの移動や削除によってローカル宛先ファイルを削除する必要がある場合は、ローカル宛先ファイルの削除コマンド「`gmlldel`」を使用します。

ローカル宛先ファイルは、ユーザがメール又は掲示板の使用後ログアウトしないと作成日時が更新されません。このため、メールを使用しないユーザに対して日数を指定することで、ローカル宛先ファイルを削除できます。

コマンドの形式を説明するための記号の意味を次に示します。

- []
この記号で囲った引数を省略できることを示します。
- { | }
この記号で囲った引数のうち、必ず一つを選択して指定することを示します。

なお、ローカル宛先ファイルの削除コマンド「`gmlldel`」は、次のディレクトリに格納されています。このディレクトリで実行してください。

```
/groupmax/gmaxwww/bin/gmlldel
```

コマンドの起動方法を次に示します。

1. カレントディレクトリを「`/groupmax/gmaxwww/bin`」に変更します。
2. ローカル宛先ファイルの削除コマンドを起動します。

gmlldel

形式

```
gmlldel { yyyy/mm/dd | nnn }  
[ -p: パス名 ] [ -u: ユーザ ID ] [ -q ] [ -i ]
```

引数

yyyy/mm/dd

ここで指定した日付以前にメールを使用していないユーザに対して、ローカル宛先ファイルを削除します。年/月/日の形式で指定します。削除対象となるのは、作成日時がここで指定された値に当てはまるローカル宛先ファイルです。

nnn

このコマンドを実行した日から nnn 日間ローカル宛先ファイルを使用しないユーザに対して、ローカル宛先ファイルを削除します。コマンド実行日を 0 として換算し、指定してください。削除対象となるのは、作成日時がここで指定された値に当てはまるローカ

ル宛先ファイルです。

-p : パス名

削除するローカル宛先ファイルがあるディレクトリをフルパスで指定します。

-u : ユーザ ID

ユーザを指定したい場合、削除対象となるユーザ ID を指定します。一度に指定できるのは一人です。指定を省略した場合、すべてのユーザが対象となります。

-q

削除する対象のユーザが見付かっても、削除確認メッセージを表示しません。

「-q」、「-i」の指定を省略した場合、削除対象ユーザが何人いても、一括して削除確認メッセージを表示します。

-i

削除する対象のローカル宛先ファイルが見付かると、その都度削除確認メッセージを表示します。

注意事項

- このコマンドは、Groupmax WWW のサービスを停止してから実行してください。
- ローカル宛先ファイルは、config 中の gml_pathname 値で示されたパスに格納されています。gml_pathname が省略されている場合は、次のパスに格納されています。

```
/groupmax/gmaxwww/tmp/mail
```

なお、config は、スキーマごとに設定されています。ただし、削除コマンド「gmldel」の対象となるパスは、デフォルトスキーマ (gmax) のパスだけです。ほかのスキーマを指定する場合は、そのスキーマの config に設定されているパスを引数「-p: パス名」にフルパスで指定してください。

付録 B メッセージ

この節では、Groupmax WWW 基盤プログラムが出力するメッセージについて説明します。

なお、Groupmax WWW 基盤プログラム以外が出力するメッセージについては、Groupmax WWW ホームページのサービスの「インフォメーション」の「メッセージ」を参照してください。

B.1 メッセージの概要

この項では Groupmax WWW 基盤プログラムが出力するメッセージの概要を説明します。

(1) メッセージの形式

Groupmax WWW 基盤プログラムが出力するメッセージは、メッセージ ID とそれに続くテキストから構成されます。メッセージの形式を次に示します。

XXXX	nnnn	Y	メッセージテキスト
1	2※	3	4
メッセージID			

注※ nnnn又はnnnnn

意味を次に示します。

1. XXXX：メッセージを出力したプログラムを表します。
KFCC：Groupmax WWW
2. nnnn 又は nnnnn：メッセージの番号です。
3. Y：メッセージの種類を表します。次にその意味を示します。
I：システムの動作を通知します。
E：障害が発生したので、処理を中断します。
W：処理は続行しますが、障害が発生したので警告します。
4. メッセージの内容を説明しています。

(2) マニュアルのメッセージの見方

このマニュアルでは、メッセージを番号順に並べています。各メッセージは、メッセージテキスト、要因、対処の順に説明してあります。

(3) メッセージの出力先

Groupmax WWW 基盤プログラムのメッセージは、次の2か所に出力されます。

- イベントログ
- WWW ブラウザの画面

このマニュアルに記載していないメッセージについては、障害の原因となった Groupmax WWW, Groupmax サーバのメッセージなどを参考にして対処してください。

B.2 メッセージの詳細

KFCC0001-W

aa(bb) failed : cc

aa : システムコール又はライブラリ関数名

bb : 保守情報

cc : エラーナンバー

要因

システムコール又はライブラリ関数に失敗しました。システム続行ができない場合、停止します。

対処

Groupmax WWW が停止した場合、エラー要因を取り除いて、再度開始してください。

KFCC0002-E

An error occurred during start up. Cause : aa

aa :

COMMUNICATION : プロセス間通信エラー

EXIST : 既に起動されています。

PROCESS START :

プロセスは開始されません。エラー要因については、これよりも前に出力されたメッセージを参照してください。

SHARED MEMORY :

共有メモリの確保に失敗しました。MaxProcess 指定値を見直してください。

対処

開始処理は、終了されます。システム管理者は、エラーの要因を取り除いた後、再度 Groupmax WWW を開始してください。

KFCC0003-W

An error occurred during termination. Cause : aa

aa :

COMMUNICATION : プロセス間通信エラー

EXIST : 既に起動されています。

対処

エラーが発生した時点で終了処理は中止されます。

KFCC0004-W

Communication information is invalid.aa...a bb...b cc...c

aa

ClientIP : IP アドレスが前回アクセスと異なります。

bb : 今回アクセスの IP アドレス

cc : 前回アクセスの IP アドレス

要因

通信情報が不正です。その通信に伴う、ブラウザの要求は失敗します。

対処

システムのセキュリティに問題がある場合があります。確認してください。

ブラウザの設定を変更した場合は元に戻してください。

KFCC0011-W

A definition contains an error. Definition name : aa, Cause : bb

aa : 誤りのある定義名

bb : 要因

TOO LONG : 定義が長過ぎます。

OUT OF RANGE : 範囲外です。

対処

定義は無視されます。

システム管理者は、定義を修正してください。

KFCC0013-W

A definition file cannot be opened. Definition file name : aa

aa : 定義情報ファイル名

対処

エラーが発生した定義ファイルの解析処理は中止されます。

システム管理者は、該当するファイル名の記述形式を確認した後、ファイル名、及

びパス名を訂正してください。

KFCC0014-W

Process Aborted.Code=aa rc=bb

aa : アボートコード

bb : 保守情報

要因

異常が発生したため、プロセスは強制終了されます。

対処

システム管理者はコアファイルを保存し、システム保守員に連絡してください。

KFCC0017-W

An error occurred in Groupmax WWW service. Exit code : aa. Restart.

aa : サービスの終了コード

対処

システムは再起動されます。

システム管理者はシステム保守員に連絡してください。

KFCC0018-E

A definition contains an error. Definition name : aa, Cause : bb

aa : 誤りのある定義名

bb : 要因

TOO LONG : 定義が長過ぎます。

OUT OF RANGE : 範囲外です。

対処

システムは停止されます。

システム管理者は定義を修正してください。

KFCC0021-W

Insufficient resources for the specified MaxProcess. Change MaxProcess to aa

aa : 変更後の MaxProcess

対処

処理は続行されます。

システムリソースを見直すか、MaxProcess を変更してください。

KFCC0024-I

Groupmax WWW service started

要因

Groupmax WWW のサービスを開始しました。

KFCC0025-I

Groupmax WWW service stopped. ExitCode:aa

aa : サービスの終了コード (保守情報)

要因

Groupmax WWW のサービスを停止しました。

KFCC0031-E

system went down three consecutive times.

要因

一定時間 (3 分間) 内に Prompter マネジャプロセスが 3 回連続ダウンしました。
システムの続行不可能と判断して , Prompter マネジャプロセスの再起動はしません。

対処

システム保守員に連絡してください。

KFCC0032-I

Thread(tid=aa) Terminated

aa : スレッド識別子

要因

このメッセージは , サービススレッドの強制終了時に出力されます。

KFCC1001-W

error occurred in system call aa. errno=bb, class : cc, method : dd

要因

aa : システムコール名
bb : エラーナンバー
cc : エラーが発生したクラス名
dd : エラーが発生したメソッド名
システムコールに失敗しました。

対処

エラー要因を取り除いて、WWW サーバを再度開始してください。

KFCC1002-W

error occurred in system call aa. errno=bb, IP : cc, port : dd, class : ee, method : ff

要因

aa : システムコール名
bb : エラーナンバー
cc : 接続先の IP アドレス
dd : 接続先のポート番号
ee : エラーが発生したクラス名
ff : エラーが発生したメソッド名
システムコールに失敗しました。

対処

エラー要因を取り除いて、WWW サーバを再度開始してください。

KFCC1003-E

error occurred. exceptionName : aa, className : bb, methodName : cc, comment : dd, minorCode : ee

要因

aa : エラー名称
bb : エラーが発生したクラス名
cc : エラーが発生したメソッド名
dd : エラーが発生した要因
ee : マイナーコード
通信エラーが発生しました。

対処

エラー要因を取り除いて、WWW サーバを再度開始してください。

KFCC1004-W

error occurred. exceptionName : aa, className : bb, methodName : cc, comment : dd, minorCode : ee

要因

aa : エラー名称
bb : エラーが発生したクラス名
cc : エラーが発生したメソッド名
dd : エラーが発生した要因
ee : マイナーコード
通信エラーが発生しました。

対処

エラー要因を取り除いて、WWW サーバを再度開始してください。

KFCC1005-W

insufficient memory;cannot continue processing

要因

処理中にメモリ不足が発生しました。

対処

リクエストを再度実行してください。

KFCC1006-W

communication error occurred. system call aa, errno=bb, class : cc, method : dd

要因

aa : システムコール名

bb : エラーナンバー

cc : エラーが発生したクラス名

dd : エラーが発生したメソッド名

通信エラーが発生しました。

対処

エラー要因を取り除いて、WWW サーバを再度開始してください。

KFCC1007-W

timeout occurred during communication. system call aa, errno=bb, class : cc, method : dd

要因

aa : システムコール名

bb : エラーナンバー

cc : エラーが発生したクラス名

dd : エラーが発生したメソッド名

通信エラーが発生しました。

対処

エラー要因を取り除いて、WWW サーバを再度開始してください。

KFCC1008-W

timeout occurred during communication. class : aa, method : bb, reason : cc

要因

aa : エラーが発生したクラス名

bb : エラーが発生したメソッド名

cc : エラーが発生した要因

通信エラーが発生しました。

対処

エラー要因を取り除いて、WWW サーバを再度開始してください。

KFCC1009-E

definition file cannot be opened. file name : aa

要因

aa : 定義ファイル名称

対処

エラー要因を取り除いて、WWW サーバを再度開始してください。

KFCC1010-E

error occurred while analyzing definitions. class : aa, method : bb, file : cc, reason : dd

要因

aa : エラーが発生したクラス名

bb : エラーが発生したメソッド名

cc : 定義ファイル名称

dd : エラーが発生した要因

対処

エラー要因を取り除いて、WWW サーバを再度開始してください。

KFCC1011-E

incorrect value specified in definition. class : aa, method : bb, file : cc, variable : dd

要因

aa : エラーが発生したクラス名

bb : エラーが発生したメソッド名

cc : 定義ファイル名称

dd : エラーが発生した定義値

対処

エラー要因を取り除いて、WWW サーバを再度開始してください。

KFCC2001-W

aa(bb) failed : cc

aa : システムコール又はライブラリ関数名

bb : 保守情報

cc : エラーナンバー

要因

システムコール又はライブラリ関数に失敗しました。

対処

エラー要因を取り除いて、WWW サーバを再度開始してください。

KFCC2006-W

Process(pid=aa) Aborted. Code=bb rc=cc

要因

異常が発生したため、プロセスが終了しました。

対処

コアファイルを保存して、保守員に連絡してください。

付録 C 接続ドメイン情報

Groupmax WWW のメールで Directory Server にアクセスして外部宛先を使用する場合、Directory Server の接続ドメイン情報を参照しています。Groupmax WWW のメールで外部宛先を使用する際に必要となる情報を、次に示します。

C.1 格納位置

接続ドメイン情報は Groupmax Directory Server では "ou=domains,o=Groupmax" の下に格納されています。これに対し、汎用 Directory Server の場合は別の位置に格納されることもあります。

C.2 オブジェクトクラス定義

接続ドメイン情報は、オブジェクトクラスによって、次の二つに分けられます。

(1) gmaxDomainRef

Groupmax ドメイン参照クラス定義と呼び、Groupmax Directory Server の接続ドメイン情報が設定されています。

(2) gmaxGeneralRef

Groupmax 汎用サーバ参照クラス定義と呼び、汎用 Directory Server の接続ドメイン情報が設定されています。Groupmax 汎用サーバ参照クラス定義を、表 C-1 に示します。

表 C-1 Groupmax 汎用サーバ参照クラス定義

クラス (継承元)	属性名	設定 要 否	syntax	説明	備考
(top)	objectClass		-	エントリのクラス top & referral & gmaxGeneralRef	
(referral)	ref		-	参照先エントリの URL	
gmaxGeneralRef	localizedName		ces	参照先の日本語名称 汎用ディレクトリサーバで、参照先に対して 固有の名前を使ってよい 参照先ドメインの日本語名称と完全に一致する必要はない	参照先となる汎用 ディレクトリサーバ の日本語名称
	description		cis	説明	-

クラス (継承元)	属性名	設定要否	syntax	説明	備考
	preferredMailbox		cis	優先メールボックス利用できるメールアドレスが格納されている属性名を格納する ただし、便宜上設けられている属性で意味を持たない	あるドメインに対してメールを送る場合に使用する必要があるメールアドレスを格納しておく
	ServerType		cis	参照先のサーバタイプ Groupmax サーバか、汎用サーバかの識別名を格納する 現在、指定できる識別名は、 「Groupmax Directory Server」と「LDAP Directory Server」の二つ	このクラスの場合、接続先が汎用サーバとなるため、識別名は「LDAP Directory Server」となる
	PersonAttributeMap		cis	検索対象となるユーザエントリの属性を Groupmax 属性にマッピングするための情報を格納する	Groupmax から要求された属性をこの情報を利用し、汎用サーバの属性に置き換える
	OrgAttributeMap		cis	検索対象となる組織エントリの属性を Groupmax 属性にマッピングするための情報を格納する	Groupmax から要求された属性をこの情報を利用し、汎用サーバの属性に置き換える
	CmpAttributeMap		cis	検索対象となる最上位組織エントリの属性を Groupmax 属性にマッピングするための情報を格納する	Groupmax から要求された属性をこの情報を利用し、汎用サーバの属性に置き換える
	DITInformation		cis	ツリー（階層）表示するために必要な情報を格納する	汎用サーバを階層表示するために利用する
	CharacterCode		cis	サーバの文字コードセットを格納する 格納するのは、 「SHIFT_JIS」又は 「UTF_8」	デフォルトは「SHIFT_JIS」

(凡例) : 必須 : オプション

注 LDAP は、Lightweight Directory Access Protocol の略です。

(a) 「PersonAttributeMap」属性の格納フォーマット

「PersonAttributeMap」属性は、汎用ディレクトリサーバに登録されているユーザの各

情報を Groupmax Directory のユーザとして、どう見せるか、何で検索するかが定義されています。

ユーザ情報と属性の対応表を、表 C-2 に示します。

表 C-2 ユーザ情報と属性の対応

項番	ユーザ情報	Groupmax での属性名	設定要否	汎用サーバでの対応付け例 (organizationalPerson と newPilotPerson をスーパークラスに持つ独自ユーザクラス)
1	オブジェクトクラス	gmaxOrganizationalPerson		PilotorganizationalPerson
2	日本語名称	localizedName		JapaneseName
3	英語姓	sn		sn
4	英語名	givenName		givenName
5	ニックネーム	initials		-
6	メールアドレス	mail		mail
7	役職	title		title
8	電話番号 ¹	telephoneNumber		telephoneNumber
9	専用線番号 ¹	dedicatedPhoneNumber		telephoneNumber
10	ファックス番号	facsimileTelephoneNumber		facsimileTelephoneNumber
11	テレックス番号 ²	telexNumber		telexNumber
12	アンサバック番号 ²	answerbackNumber		telexNumber
13	組織略称	abbreviation		ou

(凡例) : 必須 : オプション

注 1 同一の属性名として設定されている場合、電話番号と専用線番号が一つの属性にマルチバリューで格納されています。Hitachi Directory Runtime は、「+」で始まる値を電話番号、「+」のない値を専用線番号として扱います。

注 2 テレックス番号とアンサバック番号が、X.500 の "telexNumber" に基づき定義されている場合、同一の属性名として設定されています。Hitachi Directory Runtime は構文に従い、テレックス番号とアンサバック番号を切り出します。

格納フォーマットは、Groupmax の属性 (オブジェクトクラス) 名と対応付けられた汎用サーバの属性 (オブジェクトクラス) 名をそれぞれ " = " の左辺 / 右辺とし、それらを半角スペース () で区切り、最後には ¥0 が格納されています。

また、サーバ管理者が対応付けをしなかった属性は格納されていません。

さらに、格納されている属性は、表 C-2 の項番の順序とは限りません (ただし、オブジェクトクラス名は先頭に格納されています)。最後の属性名と ¥0 の間に半角スペースがないことに注意してください。

格納フォーマット (単一オブジェクトクラス)

gmaxOrganizationalPerson= 汎用サーバオブジェクトクラス名 Groupmax 属性名
1= 汎用サーバ属性名 1 Groupmax 属性名 N= 汎用サーバ属性名 N¥0

(例) 表 C-2 の例に基づいた場合

```
gmaxOrganizationalPerson=PilotorganizationalPerson
localizedName=JapaneseName mail=mail givenName=givenName
title=title telephoneNumber=telephoneNumber
facsimileTelephoneNumber=facsimileTelephoneNumber
telexNumber=telexNumber answerbackNumber=telexNumber
abbreviation=ou¥0
```

また、複数のオブジェクトクラスが定義された場合は次のように連続して格納されています。

その際、オブジェクトクラスの優先順位の高いものから格納されていることに注意してください。

格納フォーマット (複数オブジェクトクラス)

```
gmaxOrganizationalPerson= 汎用サーバオブジェクトクラス 1 Groupmax 属性名 1= 汎用サーバ属性名 1 ..... Groupmax 属性名 N= 汎用サーバ属性名 N
gmaxOrganizationalPerson= 汎用サーバオブジェクトクラス名 2 Groupmax 属性名 1= 汎用サーバ属性名 1 ..... Groupmax 属性名 N= 汎用サーバ属性名 N¥0
優先順位: 汎用サーバオブジェクトクラス 1 > 汎用サーバオブジェクトクラス 2
```

C.3 各ユーザ情報に対応する属性値の注意事項

Groupmax での各ユーザ情報とそれに対応する Groupmax ディレクトリサーバの属性と各ユーザ情報に対する属性値の有効バイト数を、表 C-3 に示します。

汎用ディレクトリサーバとマッピングした属性の属性値が最大値を超えた場合は正しく表示されないことや、宛先として使用できないことがあります。

表 C-3 ユーザ情報とそれに対応する Groupmax ディレクトリサーバの属性

項番	ユーザ情報	Groupmax での属性名	有効バイト数
1	オブジェクトクラス	gmaxOrganizationalPerson	-
2	日本語名称	localizedName	0 ~ 128
3	英語姓	sn	0 ~ 16
4	英語名	givenName	0 ~ 16
5	ニックネーム	initials	0 ~ 32
6	メールアドレス	mail	0 ~ 335
7	役職	title	0 ~ 32
8	電話番号	telephoneNumber	0 ~ 20

項番	ユーザ情報	Groupmax での属性名	有効バイト数
9	専用線番号	dedicatedPhoneNumber	0 ~ 20
10	ファックス番号	facsimileTelephoneNumber	0 ~ 20
11	テレックス番号	telexNumber	0 ~ 20
12	アンサバック番号	answerbackNumber	0 ~ 20
13	組織略称	abbreviation	0 ~ 32

付録 D 用語解説

(英字)

CGI

Common Gateway Interface の略です。WWW サーバと WWW ブラウザの間で対話的な処理をする場合や、ページを表示するときに特別に処理したい場合などに使用するインタフェースです。

CGI プロセス

CGI を使用して受け取った要求を処理するプロセスです。WWW サーバによって生成されます。

DNS

Domain Name System の略です。IP アドレスとドメイン名を対応させるための管理データベースです。インターネットで使用されます。

Groupmax

業務効率と生産性の向上を目的として、業務の形態に合わせて利用できる日立のソフトウェアです。

Groupmax WWW

WWW 環境と Groupmax システムを接続するプログラムです。

Groupmax WWW クライアントプロセス

Groupmax WWW によって生成される常駐プロセスで、Groupmax サーバにアクセスしたり HTML ファイルを生成したりします。

Groupmax サーバ

Groupmax の各サービスを提供するサーバプログラムです。

HTML

Hyper Text Markup Language の略です。WWW で利用できるハイパーテキストを記述するための言語です。

HTTP

Hyper Text Transfer Protocol の略です。WWW サーバと WWW ブラウザとの通信で使用されるプロトコルです。

URL

Uniform Resource Locators の略です。インターネット上にあるリソースを一意に指し示すためのものです。

WWW

World Wide Web の略です。マシンをわたって配置できるハイパーテキストのことです。

WWW サーバ

WWW 環境を構成するソフトウェアの一つです。WWW ブラウザからの要求に応じて HTML デー

タなどを送信します。

WWW ブラウザ

WWW 環境を構成するソフトウェアの一つです。WWW サーバに HTML データの送信などを要求し、HTML データを画面に表示します。

(ア行)

インターネット

相互に接続されたネットワークの集まりです。世界中に張り巡らされています。

イントラネット

インターネットと同じ仕組みで運用される企業内や団体内のネットワークです。

(カ行)

クリッカブル URL

メール、及び記事の本文中に記述されている URL をクリックすることで、その URL で示されたページを表示することができます。この機能をクリッカブル URL と呼びます。クリックできる URL にはアンダーラインが引かれています。

クリッカブル URL を有効にしていない場合は、URL にはアンダーラインはありません。また、クリックしても該当ページは表示されません。

(サ行)

システム管理者

Groupmax WWW の管理者です。administrator でログオンしてください。

(ナ行)

認証モード

Groupmax のページへのリンク URL の形式は以下のように記述します。

http://<ホストアドレス>/groupmax/wbpcgi.exe/gmax/ 認証モード /...

認証モードは 3 種類あります。

auth :

一般ユーザがログインする、ユーザ認証されるホームページ。

ログイン時認証画面が表示され、ユーザ ID (ニックネームログイン時はニックネーム) とパスワードが必要な一般ユーザログインの認証モード。

guest :

ゲストユーザがログインする、ユーザ認証されないホームページ。

ログイン時認証画面が表示されません。

changepw :

有効期限を過ぎたパスワードを変更するためのページ。

ユーザ ID (ニックネームログイン時はニックネーム) と新・旧パスワードを入力します。

リンク URL の形式の詳細は、「2.10.5 Groupmax のホームページへのリンク」、「2.10.6 パスワード変更画面へのリンク」を参照してください。

(八行)

ファイアウォール

ネットワーク上の通信を監視して、不正なアクセスなどを防ぐシステムです。

索引

記号

- [掲示板] カテゴリを表示しない指定 92
- [デスクトップ] カテゴリの [掲示板] アイテムを表示しない指定 93
- 「空き時間を表示する」チェックボックス表示の指定 159
- 「スケジュール」サービスの定義ファイルの修正 157
- 「フォーム」サービスの定義ファイルの修正 164
- 「文書管理」サービスの定義ファイルの修正 66
- 「本日以降の予定欄」の表示日数の指定 163
- 「本日以降の予定欄」の表示日数モードの指定 163
- 「メール, 掲示板」サービスの定義ファイルの修正 80
- 「ワークフロー」サービスの定義ファイルの修正 150

数字

- 16 ビット版ローカル宛先ファイルの指定 140

A

- adnt_ap 164
- AP 起動作業情報がある場合の案件投入・処理抑止の指定 152

B

- BP 名グルーピング文字数の指定 151

C

- CGI 165, 198
- CGI ディレクトリの設定 165
- CGI プロセス 198
- config パラメタ 35

D

- DNS 198
- Document Manager Server の IP アドレスの指定 66
- Document Manager Server のポート番号の指定 66
- Document Manager Server のホスト名の指定 69
- Document Manager Server のユーザ名の指定 70

F

- Facilities Manager の IP アドレスの指定 157
- Facilities Manager のポート番号の指定 158

G

- gam_bosssche_unread 160
- gam_disp_datecnt 163
- gam_disp_datecnt_mode 163
- gam_facilities_name 157
- gam_facilities_portnum 158
- gam_fullname_mode 160
- gam_memsel_mode 159
- gam_nickname_visible 160
- gam_position_visible 161
- gam_positionnumber_display 161
- gam_recvsent_term_future 162
- gam_recvsent_term_mode 162
- gam_recvsent_term_past 162
- gam_scheduler_name 157
- gam_scheduler_portnum 157
- gam_timefind_mode 159
- gam_use_mail 158
- gfl_apdefstdformstop 152
- gfl_bpgroupingsize 151
- gfl_deleteworknoprint 155
- gfl_distribution_item 154
- gfl_first_roleswitch 153

- gfl_form_dialog_nodisplay 153
- gfl_gmaxdefstdformstop 152
- gfl_limit_line 152
- gfl_list_attribute 154
- gfl_login_mode 150
- gfl_mtd_lib_entry 156
- gfl_mtd_lib_path 156
- gfl_pullbackwork_noprint 155
- gfl_server_name 151
- gfl_subbp_list_size 155
- gfl_suborg_level 154
- gfl_workflow_portnum 151
- gis_attr_selection_and 78
- gis_class_deep_access 78
- gis_class_oid 66
- gis_client_uncompress 67
- gis_compress_suffix 68
- gis_compress_upload 68
- gis_create_doc_folder 70
- gis_delete_user_alias 69
- gis_document_filter_program 78
- gis_folder_deep_access 78
- gis_getdoc_filter 70
- gis_getdoc_server 69
- gis_getdoc_user 70
- gis_init_date_space 69
- gis_list_display_base_condition 78
- gis_list_max_size 78
- gis_list_sort_ascending 78
- gis_list_sort_item 71
- gis_mvi_deep_access 78
- gis_mvi_selection_and 78
- gis_no_cond_search 67
- gis_print_doc_suffix 79
- gis_server_name 66
- gis_suffix_compare_mode 79
- gisd_doc_default_format 77
- gisd_doc_format.\$ 対応番号 73
- gisd_doc_format_ext.\$ 対応番号 76
- gisd_doc_format で指定した文字列と対応するファイルの拡張子の指定 76
- gisd_doc_no_file_format 77
- gisd_list_item.\$ 表示番号 .[\$ 属性表示名称] 71
- gmax_access_log_facility 41
- gmax_access_log_level 41
- gmax_access_log_swap_size 54
- gmax_address_portnum 44
- gmax_address_server 44
- gmax_after_login_notify 59
- gmax_alias_name 40
- gmax_arrive_reset_timing 63
- gmax_attribute_dir 53
- gmax_client_lang 38
- gmax_default_arrive_polling 49
- gmax_default_arrive_report 48
- gmax_default_arrive_target.mail 49
- gmax_default_arrive_target.workflow 49
- gmax_default_backcolor 47
- gmax_default_cal_type 47
- gmax_default_calendar_view_hide 49
- gmax_default_category_view_hide 50
- gmax_default_content_view_hide 50
- gmax_default_date_type 47
- gmax_default_list_icon_type 48
- gmax_default_list_inbox 50
- gmax_default_mime_type 43
- gmax_default_summer_hh 46
- gmax_default_summer_mm 46
- gmax_default_summer_time 45
- gmax_default_time_def 46
- gmax_default_time_type 46
- gmax_default_timezone 45
- gmax_default_tree_focus 48
- gmax_default_username_type 47
- gmax_document_attachment 55
- gmax_document_mime_type_def 39
- gmax_document_window_open 56
- gmax_environment_backcolor.X 51
- gmax_error_log_facility 42
- gmax_error_log_level 42
- gmax_error_log_swap_size 54
- gmax_font_size 57
- gmax_guest_user_name 44
- gmax_icon_file_dir 38

- gmax_light_list_mode 50
- gmax_logout_type 55
- gmax_main_frame_layout 59
- gmax_max_login_count 42
- gmax_nickname_login 45
- gmax_no_display_tree.bboard 92
- gmax_no_display_tree.board 93
- gmax_noprint_option 63
- gmax_open_file_security_level 60
- gmax_open_tree_by_item_click 64
- gmax_password_format_day 53
- gmax_password_term 52
- gmax_script_file_dir 53
- gmax_timeout_interval 58
- gmax_title_format 51
- gmax_upload_file_null_check 43
- gml_addr_type_default 117
- gml_addr_type_internet 118
- gml_addrcheck 132
- gml_addrcheck_jpnamelen 133
- gml_addrcheck_orgnamelen 134
- gml_addrcheck_toporgnamelen 133
- gml_address_portnum 81
- gml_adr_close 131
- gml_adrclass_show 120
- gml_adrduplication_mode 128
- gml_adrsearch_conditions 134
- gml_adrtree_open 130
- gml_artcount_view 91
- gml_attach_input_num 101
- gml_attachfile_unit 101
- gml_bbs_readdef 90
- gml_change_userinf 83
- gml_column_order 90
- gml_contentmargin 98
- gml_contents_mode 112
- gml_contents_select 113
- gml_contents_temp_dir 116
- gml_contentwrap 95
- gml_contentwrap で FORCE を指定したときの折り返し文字数の指定 98
- gml_defaultboard 94
- gml_deletemode 138
- gml_dir_cachesize 146
- gml_dir_dnsuffix_c 143
- gml_dir_dnsuffix_o 144
- gml_dir_dnsuffix_ou 145
- gml_dir_maxsearchnum 146
- gml_dir_ref_charactercode 147
- gml_dir_refdn 147
- gml_dir_servicename 143
- gml_dir_svrlevel 144
- gml_dir_timeout 145
- gml_directory_server 143
- gml_directorysearch_nokey 136
- gml_dirlist_sort_use 148
- gml_dirserver_use 142
- gml_draft_max_size 114
- gml_draft_save_dir 114
- gml_editorclear 106
- gml_fname_encode_char 104
- gml_fname_encode_char_mode 102
- gml_fname_encode_dwchar 104
- gml_fname_encode_dwchar_mode 103
- gml_grp_orglist_sort 126
- gml_grp_userlist_sort 123
- gml_inputadr_mode 118
- gml_inputadr_separate 119
- gml_jname_area 87
- gml_keyword 99
- gml_ladrcnv16 140
- gml_ladrcomment_auto 139
- gml_ladrgrplist_sort 140
- gml_ladruserlist_sort 141
- gml_list_topmode 128
- gml_login_reconnect 81
- gml_mail_contents_file_type 115
- gml_mail_deliverynotice 105
- gml_mail_list_limit 89
- gml_mail_portnum 80
- gml_mail_readdef 88
- gml_mail_readstatus 106
- gml_mailtype 84
- gml_maxfilesize 137
- gml_nextscreen 100
- gml_orglist_sort 125

- gml_pathname 137
- gml_positionnumber_display 148
- gml_recipitedit_sort 129
- gml_rmljpname 86
- gml_rmljpposition 86
- gml_save_addr_type 129
- gml_SimDispAddress 107
- gml_SimDispAttach 110
- gml_SimDispAttribute 109
- gml_SimDispCRByte 111
- gml_SimDispDate 108
- gml_SimDispSendDate 111
- gml_SimDispSender 110
- gml_SimDispTitle 109
- gml_system_maxsearchnum 136
- gml_systemsearch_nokey 135
- gml_underlayer_check 121
- gml_use_username_type 87
- gml_userlist_org 127
- gml_userlist_sort 122
- gml_useroptional_info 83
- gml_useurl 99
- gmllldel 182
- Groupmax 2, 198
- Groupmax Address Server の IP アドレス又は
はホスト名称の指定 44
- Groupmax Address Server のアドレスサー
ビス用ポート番号の指定 81
- Groupmax Address Server のメールタイプ
の指定 (組織メールの指定) 84
- Groupmax Address Server のユーザ情報の
変更の指定 83
- Groupmax Address Server のユーザ任意情
報の表示の指定 83
- Groupmax Address Server のユーザ認証用
ポート番号の指定 43
- Groupmax Address Server への後着優先ロ
グインの指定 81
- Groupmax Mail Server のサービス用ポート
番号の指定 80
- Groupmax WWW 2, 198
- Groupmax WWW 基盤スクリプトプログラ
ムディレクトリの設定 165
- Groupmax WWW 基盤プログラム 3
- Groupmax WWW クライアントプロセス
172, 198
- Groupmax WWW サーバマシンと
Groupmax Address サーバマシンが異なる場
合の注意 168
- Groupmax WWW で利用できる Groupmax
サーバ 6
- Groupmax WWW のインストール 17
- Groupmax WWW の開始 174
- Groupmax WWW の環境を設定する順序 16
- Groupmax WWW の終了 174
- Groupmax WWW の障害対策 180
- Groupmax WWW の処理の流れ 8
- Groupmax WWW の動作環境 3
- Groupmax WWW を利用できる WWW サー
バ 5
- Groupmax WWW を利用できる WWW ブラ
ウザ 3
- Groupmax 格納機能の宛先種別の指定 129
- Groupmax コンテンツの表示 / 非表示の指定
50
- Groupmax サーバ 3, 198
- Groupmax サーバから文書を取り出すときの
モードの設定 67
- Groupmax サーバへ文書を登録するときの
モードの設定 68
- Groupmax のサービス 7
- Groupmax のホームページ 9
- Groupmax のホームページの URL 166
- Groupmax フォーム表示作業情報がある場合
の確認ダイアログ表示抑止の指定 153
- Groupmax フォーム表示情報がある場合の標
準フォーム操作抑止の指定 152
- gwwwstop 174
- gwwwstr 174

H

- HTML 8, 198
- HTTP 13, 198

I

I/O 処理監視時間の指定 36
 INBOX での属性値表示の指定 154
 INBOX での配布種別表示の指定 154
 INBOX でのロール案件混在表示の指定 153
 infoshare 66
 Internet Explorer 外でダウンロードファイルを開く拡張子の指定 55
 IPAddressChecking 37
 IP アドレスチェックの指定 37

J

JavaScript ファイルのディレクトリの指定 53

M

MaxIOTime 37
 MaxProcess 36
 MaxSilentTime 36
 MIME タイプ指定がない場合のデフォルト値の指定 43
 MIME タイプの指定 39

S

Scheduler Server の IP アドレスの指定 157
 Scheduler Server のポート番号の指定 157
 SERVER_URL 37
 SSL 14

U

URL 9, 198

W

Workflow Server のポート番号の指定 151
 WWW 198
 WWW サーバ 3, 198
 WWW サーバ URL の変更 37
 WWW サーバの設定 165
 WWW ブラウザ 3, 199

WWW ブラウザ送信時の文字コードの指定 38

あ

アイコンファイルのディレクトリの指定 38
 アイコンファイルのディレクトリの設定 165
 アクセスログ出力時のレベルの指定 41
 アクセスログの出力先の指定 41
 アクセスログファイルの取得サイズの指定 54
 圧縮対象のファイルの拡張子の指定 68
 アップロードファイルのサイズチェックの指定 43
 宛先一覧の上位表示の指定 128
 宛先確認画面の最上位組織名の表示長の指定 133
 宛先確認画面の組織名の表示長の指定 134
 宛先確認画面の日本語名の表示長の指定 133
 宛先確認機能の指定 132
 宛先検索画面に初期表示する検索条件の指定 134
 宛先種別コンボボックスのインターネットアドレス選択項目の有無の切り替えの指定 118
 宛先種別コンボボックスの初期設定項目の指定 117
 宛先直接入力時の宛先の一括登録の指定 118
 宛先直接入力時の宛先を一括登録した場合の宛先の区切り文字の指定 119
 宛先の個人リストの表示順の指定 122
 宛先の組織階層及び組織宛先の表示順の指定 125
 宛先編集画面での宛先の表示順の指定 129
 宛先を反映した後に電子アドレス帳画面を閉じる指定 131
 アプリケーションゲートウェイ方式 13
 案件配布先リストボックス表示桁数の指定 155

い

一般ユーザ用ホームページ 9
 インターネット 199
 イン트라ネット 199

う

ウィンドウのタイトルバーでのログインユーザ情報表示の指定 51
 ウィンドウのタイトルバー表示文字列の指定 40
 運用コマンド 174

え

エラーログ出力時のレベルの指定 42
 エラーログの出力先の指定 42
 エラーログファイルの取得サイズの指定 54

か

開始 172
 外部宛先キャッシュサイズの指定 146
 外部宛先サーバの管理レベルの指定 144
 外部宛先サーバの国名の指定 143
 外部宛先サーバのサービス名又はポート番号の指定 143
 外部宛先サーバの組織名の指定 145
 外部宛先サーバのドメイン名称の指定 144
 外部宛先台帳の使用の指定 142
 外部宛先の検索で検索キーが指定されていないときの動作の指定 136
 外部宛先の最大取得件数の指定 146
 外部宛先の接続先の指定 143
 外部宛先の組織表示順変更の指定 147
 外部宛先のタイムアウト時間の指定 145
 外部フィルタプログラム名の指定 70
 過去分の受・発信一覧の取得期間の指定 162
 カテゴリの終了をクリックしないでブラウザを終了したときのログアウト実行方法の指定 55
 簡易表示書式の宛先表示の指定 107
 簡易表示書式の受信日 / 掲示日表示の指定 108
 簡易表示書式の主題 / 記事名表示の指定 108
 簡易表示書式の送信者 / 掲示者表示の指定 110
 簡易表示書式の送信日表示の指定 111
 簡易表示書式の属性表示の指定 109

簡易表示書式の添付ファイル名表示の指定 110
 簡易表示の折り返し文字数の指定 111
 環境情報背景色の指定 51
 環境情報標準値の指定 45

き

記事一覧の未読 / 既読のデフォルトの変更の指定 90
 起動時のカテゴリ一覧の表示指定 50
 起動時のカレンダー表示の指定 49
 キャッシュ無効化の設定 170
 強制ログイン先 Workflow Server 名の指定 151
 共通サービスの定義ファイルの修正 36
 業務モニタ 7

く

クリッカブル URL 199
 クリッカブル URL のキーワード名の指定 99
 クリッカブル URL の指定 99
 クリッカブル URL の表示先の指定 100

け

掲示板 7
 掲示板一覧の記事件数表示の指定 91
 掲示板一覧の記事数の桁そろえの指定 90
 ゲストユーザ 9
 ゲストユーザのユーザ名の指定 44
 ゲストユーザ用ホームページ 9
 検索条件指定がない場合の動作モードの指定 67

こ

個人属性保存先ディレクトリの指定 53
 午前 / 午後の表示形式の指定 46
 コマンド 174
 コメント自動生成の指定 139
 暦の表示形式の指定 47

コンテンツファイル保存形式のデフォルトの指定 115
 コンテンツを表示するときの作業ディレクトリの指定 116

さ

最大ユーザ数の変更 36
 サマータイムの時間指定 (時部分) 46
 サマータイムの時間指定 (分部分) 46
 サマータイムの指定 45

し

時刻の表示形式の指定 46
 システム宛先グループの個人リストの表示順の指定 123
 システム宛先グループの組織階層及び組織宛先の表示順の指定 126
 システム宛先検索時の最大取得件数の指定 136
 システム宛先の検索で検索キーが指定されていないときの動作の指定 135
 システム管理者 199
 システム管理者が修正する定義項目 21
 受・発信一覧の取得期間の指定 162
 終了 172
 受信通知のデフォルトを切り替える指定 106
 受信メール一覧の未読 / 既読のデフォルトの変更の指定 88
 上司の未読スケジュール表示時の保留回答抑止の指定 159
 初期表示する掲示板の指定 94
 新規文書作成時のフォルダの指定 70
 新着監視画面の再表示を抑止する指定 63

す

スケジュール 7
 スケジュールからの [メール作成] アンカー表示の指定 158

せ

接続ドメイン情報 193

接続ドメイン情報取得位置の指定 147
 接続ドメイン情報の文字コードの指定 147
 先行ログインセッションの強制終了の指定 58

そ

送信者 / 掲示者の日本語名の表示幅の指定 86
 送信ログでの削除されたワーク表示の抑止の指定 155
 送信ログでの引き戻したワーク表示の抑止の指定 155
 組織宛先の表示の指定 127
 組織一覧表示時の下位組織チェックの指定 121
 組織名アンカーによって下位組織を展開させる指定 130

た

タイムアウト抑止機能の指定 58
 タイムゾーンの指定 45

ち

着信監視の間隔の指定 49
 着信監視利用の指定 48
 重複宛先削除機能の指定 128

つ

ツリーアイテムのクリックで下位階層を開くようにする指定 64
 ツリービューの表示形式の指定 48

て

定義ファイル 21
 電子アドレス帳の階層名称の表示の指定 120
 添付ファイルサイズの表示単位の指定 101
 添付ファイルブラウザボタンのデフォルト表示数の指定 101
 添付ファイル名の 1 バイトコードの変換対象文字の指定 104

添付ファイル名の 1 バイトコードの文字変換方式の指定 102
添付ファイル名の 2 バイトコードの変換対象文字の指定 104
添付ファイル名の 2 バイトコードの文字変換方式の指定 103
添付ファイルを開くときのセキュリティレベルの指定 60

と

特定機能抑止の指定 62

に

ニックネームの表示可否の指定 160
日本語名の表示の指定 87
日本語名の表示方法の指定 160
認証モード 199

は

背景色の指定 47
配信通知のデフォルトを切り替える指定 105
パケットフィルタリング方式 13
パスワードの有効期間を表示するフォーマットの指定 53
パスワードの有効期限を通知する日数の指定 52
パスワード変更画面へのリンク 167

ひ

日付属性表示形式の指定 69
日付の表示形式の指定 47

ふ

ファイアウォール 11, 200
ファイアウォールの設置例 11, 12, 13
フォントの拡大の指定 57
振り替え時のサブ組織展開階層数の指定 154
ブロードキャストメッセージの設定 169
ブロードキャストメッセージファイルの設定方法 169
文書一覧のソートキーとなる属性の指定 71

文書管理 7
文書管理機能で使用する定義項目 78
文書所有者名削除時の表示文字列の指定 69
文書データベースの OID の指定 66

へ

別ウィンドウを開く拡張子の指定 56

ほ

本文のウィンドウ幅での折り返し表示の指定 95

ま

マニュアルファイルのディレクトリの設定 166

み

未来分の受・発信一覧の取得期間の指定 162

め

メイン画面のツリービュー及びリストビューのサイズ指定 59
メール 7
メール一覧のメールの取得件数の指定 89
メール及び記事の内容表示画面フレーム切り替えの指定 113
メール及び記事の内容表示画面フレーム切り替えを ON に指定したときのデフォルトの指定 112
メールの下書き保存先ディレクトリの指定 114
メールの下書き保存容量の指定 114
メールの送信, 記事掲示後の作成画面の動作の指定 106
メールの着信監視の指定 49
メンバのスケジュール表示時のアラートダイアログ表示の指定 159

や

役職順序番号の表示の指定 161

役職順序番号表示の指定 148
役職名の表示の指定 161
役職名の表示幅の指定 86

ゆ

ユーザ作成ライブラリへの絶対パスの指定
156
ユーザ作成ライブラリへの連携用関数の指定
156
ユーザ認証 9
ユーザの詳細情報取得の指定 164
ユーザ名称の表示形式の指定 47
ユーザ名の表示の指定 87

り

リスト情報の最大数の指定 152
リストビューでのアイコンの表示形式の指定
48
リストビューに表示する属性の指定 71
リストビューの表示形式の指定 50
リストビューの文書一覧に表示する拡張子別
フォーマットの指定 73
リストビューの文書一覧に表示するデフォルト
フォーマットの指定 77
リストビューの文書一覧に表示するフォー
マットの指定 77

ろ

ローカル宛先台帳の宛先一覧の表示順の指定
141
ローカル宛先台帳のグループの表示順の指定
140
ローカル宛先ファイルの格納先ディレクトリ
の指定 137
ローカル宛先ファイルの最大ファイルサイズ
の指定 137
ローカル宛先ファイルの削除コマンド 182
ローカル宛先ファイルのログアウト時の削除
方法の指定 138
ログアウトし忘れ監視時間の変更 36
ログイン時のリストビューへの INBOX 表示
指定 50

ログイン方法の初期設定値の指定 44
ログインモードの指定 150
ログインリトライ回数の指定 42

わ

ワークフロー 7
ワークフローの着信監視の指定 49

ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内

ソフトウェアマニュアルについて、3種類のサービスをご案内します。ご活用ください。

1. マニュアル情報ホームページ

ソフトウェアマニュアルの情報をインターネットで公開しております。

URL <http://www.hitachi.co.jp/soft/manual/>

ホームページのメニューは次のとおりです。

- Web提供マニュアル一覧 インターネットで見られるマニュアルの一覧を提供しています。
(詳細は「2. インターネットからのマニュアル参照」を参照してください。)
- CD-ROMマニュアル情報 複数マニュアルを格納したCD-ROMマニュアルを提供しています。どの製品に対応したCD-ROMマニュアルがあるか、を参照できます。
- マニュアルに関するご意見・ご要望 マニュアルに関するご意見、ご要望をお寄せください。

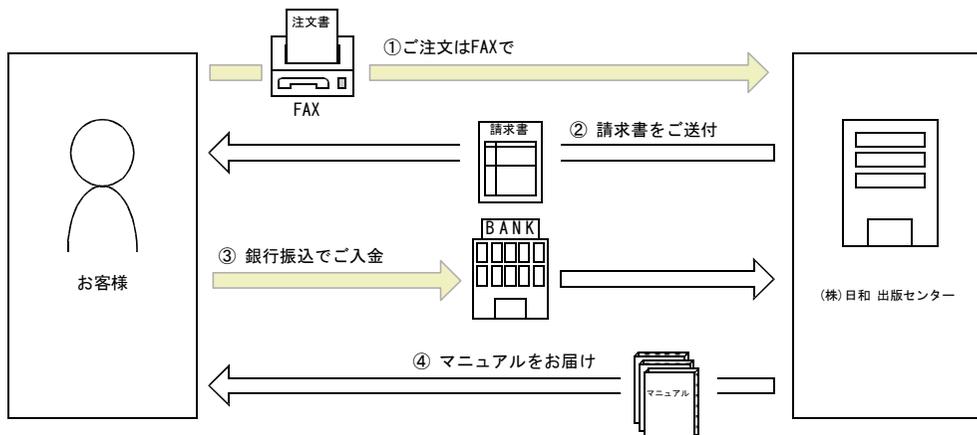
2. インターネットからのマニュアル参照(ソフトウェアサポートサービス)

ソフトウェアサポートサービスの契約をしていただくと、インターネットでマニュアルを参照できます。(本サービスの対象となる契約の種別、及び参照できるマニュアルは、マニュアル情報ホームページでご確認ください。参照できるマニュアルは、クライアント/サーバ系の日立オープンミドルウェア製品を中心に順次対象を拡大予定です。)

なお、ソフトウェアサポートサービスは、マニュアル参照だけでなく、対象製品に対するご質問への回答、問題解決支援、バージョン更新版の提供など、お客様のシステムの安定的な稼働のためのサービスをご提供しています。まだご契約いただけていない場合は、ぜひご契約いただくことをお勧めします。

3. マニュアルのご注文

裏面の注文書でご注文ください。



- ① マニュアル注文書に必要事項をご記入のうえ、FAXでご注文ください。
- ② ご注文いただいたマニュアルについて、請求書をお送りします。
- ③ 請求書の金額を指定銀行へ振り込んでください。なお、送料は弊社で負担します。
- ④ 入金確認後、7日以内にお届けします。在庫切れの場合は、納期を別途ご案内いたします。

(株) 日和 出版センター 行き

FAX 番号 0120-210-454 (フリーダイヤル)

日立マニュアル注文書

ご注文日	年 月 日
送付先ご住所	〒
お客様名 (団体名, 又は法人名など)	
お名前	
電話番号	()
FAX 番号	()

資料番号	マニュアル名	数量
合計		

マニュアルのご注文について、ご不明な点は
(株) 日和 出版センター (☎03-5281-5054) へお問い合わせください。